

千葉県八千代市

# 内込遺跡発掘調査報告書

— 宅地造成に伴う埋蔵文化財調査 —

2001

鈴木 徳 衛

八千代市遺跡調査会

千葉県八千代市

# 内込遺跡発掘調査報告書

— 宅地造成に伴う埋蔵文化財調査 —



八千代市遺跡調査会

## 序 文

八千代市は、東京や近郊都市への通勤エリアとして京成電鉄線、第3セクターによる東葉高速鉄道等の交通網が整備されています。また、大学の誘致と周辺に住宅を整備した文教都市としての事業を推進しております。一方、市中央部を南北に貫流する新川を親水広場として位置づけ整備し、保全していく計画も着々と進められています。

今回の発掘調査の契機となった宅地造成事業は、市域南部の京成電鉄線大和田駅に至近の位置にある当該地に住宅を供給する目的で計画されたため、調査を実施しました。

調査の結果、古墳時代後期を中心として平安時代前期の集落跡を発見することができました。遺物についても、縄文時代中期中葉の搬入土器や土偶、古墳時代後期の須恵器や武蔵地方系の土器群等地域の動向を考える資料が出土しました。

本書を刊行するにあたり、この報告書が八千代市の原始・古代を考古資料を通じて考えるきっかけになっていただければ幸いです。

最後に、発掘調査から報告書刊行に至るまでご指導・ご協力をいただいた千葉県教育庁文化課、八千代市教育委員会、鈴木徳衛氏をはじめ、関係諸機関の皆様に対して深く感謝いたします。また、暑い中での発掘作業や十分な期間のない状況で整理作業に従事いただいた調査補助員、整理補助員の方々にもあわせてお礼申し上げます。

平成13年3月30日

八千代市遺跡調査会  
会 長 藤 城 恒 昭

## 凡 例

- 1 本書は、八千代市八千代台北17丁目1616-1他に所在する内込遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、鈴木徳衛氏の委託を受け、八千代市遺跡調査会が実施した。
- 3 発掘調査・本整理作業は以下のとおり実施した。

### 確認調査



期 間 平成8年12月10日～同年12月18日  
面 積 305m<sup>2</sup>/2,340m<sup>2</sup>  
担 当 秋山 利光  
備 考 八千代市直営による国庫補助事業

### 本調査

期 間 平成9年6月30日～同年10月17日  
面 積 2,338m<sup>2</sup>  
担 当 森 竜哉  
備 考 八千代市遺跡調査会による委託事業

### 本整理作業

期 間 平成12年1月25日～同年6月26日 担 当 森 竜哉  
備 考 八千代市遺跡調査会による委託事業

- 4 本書の編集・執筆は森竜哉を主体として、玉井庸弘が第2章第1節の執筆を行った。
- 5 現場の遺構、遺物及び報告書掲載の遺物写真は森が撮影した。
- 6 本書の作成、刊行については、下記の整理補助員と森が協力して行い、森が統括した。  
笠川千代子 寺澤洋子 鳥羽良子 野中則子
- 7 出土遺物、実測図等の資料は、八千代市教育委員会において保管している。
- 8 発掘調査から整理作業において下記の方々にご指導頂いた。記して感謝する次第である。  
玉井庸弘 中野修秀
- 9 本書の遺構番号は、発掘調査時の番号を使用している。
- 10 遺構・遺物の縮尺は下記のとおり統一している。  
〔遺構〕住居跡1/60 土坑1/50 掘立柱建物跡1/100 溝状遺構1/150  
〔遺物〕土器・大型石製品土製品・鉄器1/3 石鏃2/3 小型土製品1/2
- 11 遺物実測図中の土器断面のヒゲ線は、切摩しないしへら削り調整の範囲を示している。
- 12 土器実測図の中軸線サイドの空きは、復元実測をしたことを示したものである。
- 13 遺構・遺物のスクリーン・トーンは下記のとおり統一している。  
 焼七・赤色塗彩  カマド袖・粘土・黒色処理・須恵器
- 14 本書使用の地形図は、下記のとおりである。  
第1図 国土地理院発行 1/50,000「佐倉」(NI-54-19-14)  
第2図 参謀本部陸軍部測量局発行 1/20,000 第1軍管区地方迅速測図(明治15年発行)  
第3図 八千代市発行 1/2,500 八千代都市計画基本図
- 15 本書使用の航空写真は、昭和54年八千代市撮影のものである。



# 本文目次

序文

凡例

八千代市遺跡調査会組織表

## 第1章 序説

|                 |   |
|-----------------|---|
| 第1節 調査に至る経緯     | 1 |
| 第2節 調査の方法と経過    | 1 |
| 第3節 遺跡の位置と環境    | 1 |
| 第4節 市域の古墳時代後期遺跡 | 2 |

## 第2章 検出された遺構と遺物

|                    |    |
|--------------------|----|
| 第1節 縄文時代           | 6  |
| 第2節 古墳時代           | 9  |
| 第3節 平安時代           | 55 |
| 第4節 掘立柱建物跡・土坑・溝状遺構 | 73 |

## 第3章 まとめ

|          |    |
|----------|----|
| 第1節 縄文時代 | 82 |
| 第2節 古墳時代 | 82 |
| 第3節 平安時代 | 86 |

報告書抄録

# 挿図目次

|                        |                   |
|------------------------|-------------------|
| 第1図 八千代市域の古墳時代後期遺跡分布図  | 第13図 06D出土遺物(2)   |
| 第2図 遺跡周辺の地形図           | 第14図 06D出土遺物(3)   |
| 第3図 遺跡位置図              | 第15図 07D遺構・カマド実測図 |
| 第4図 内込遺跡遺構配置図          | 第16図 07D出土遺物      |
| 第5図 縄文時代出土遺物(1)        | 第17図 08D、09D遺構実測図 |
| 第6図 縄文時代出土遺物(2)        | 第18図 08D、09D出土遺物  |
| 第7図 01D遺構実測図           | 第19図 10D遺構・カマド実測図 |
| 第8図 01D出土遺物            | 第20図 10D出土遺物      |
| 第9図 02D遺構・出土遺物         | 第21図 12D遺構実測図     |
| 第10図 03D遺構・出土遺物        | 第22図 12Dカマド実測図    |
| 第11図 05BD遺構・出土遺物       | 第23図 12D出土遺物(1)   |
| 第12図 06D遺構・カマド・出土遺物(1) | 第24図 12D出土遺物(2)   |

第25図 12D出土遺物(3)  
第26図 13BD遺構・カマド実測図  
第27図 13BD出土遺物  
第28図 14D遺構・出土遺物  
第29図 15D遺構・カマド実測図  
第30図 15D出土遺物(1)  
第31図 15D出土遺物(2)  
第32図 16D遺構実測図  
第33図 16Dカマド実測図  
第34図 16D出土遺物(1)  
第35図 16D出土遺物(2)  
第36図 16D出土遺物(3)  
第37図 18D遺構・出土遺物  
第38図 19D遺構・カマド実測図  
第39図 19D出土遺物  
第40図 04D遺構・出土遺物  
第41図 05AD遺構・カマド実測図

第42図 05AD出土遺物  
第43図 13AD遺構・カマド・出土遺物(1)  
第44図 13AD出土遺物(2)  
第45図 13CD遺構・カマド実測図  
第46図 13CD出土遺物(1)  
第47図 13CD出土遺物(2)  
第48図 13CD出土遺物(3)  
第49図 13CD出土遺物(4)  
第50図 13CD遺物分布図  
第51図 17D遺構・出土遺物  
第52図 26P・31P・34P・35P・58P・63P遺構実測図  
第53図 75P・81P・83P遺構実測図  
第54図 01H・02H・03H・04H遺構実測図  
第55図 05H・06H・07H遺構実測図  
第56図 土坑・掘立柱建物跡出土遺物  
第57図 01M遺構実測図

## 図 版 目 次

図版1 遺跡周辺の地形  
図版2 遺跡全景  
図版3 01D・02D遺構  
図版4 03D・04D遺構  
図版5 05ABD遺構  
図版6 06D遺構  
図版7 07D遺構  
図版8 08D・09D遺構  
図版9 10D遺構  
図版10 12D遺構(1)  
図版11 12D遺構(2)  
図版12 12D遺構(3)  
図版13 13AD・13BD遺構  
図版14 13BD・13CD遺構  
図版15 14D・15D遺構  
図版16 16D・17D・18D遺構  
図版17 19D遺構  
図版18 01H・02H・03H・04H遺構

図版19 05H・06H・07H遺構  
図版20 26P・31P・34P遺構  
図版21 35P・58P・63P遺構  
図版22 75P・81P・83P遺構  
図版23 01M遺構  
図版24 縄文時代の遺物  
図版25 01D・02D・03D・05BD出土遺物  
図版26 06D出土遺物  
図版27 07D・09D・10D出土遺物  
図版28 12D(1)出土遺物  
図版29 12D(2)・13BD・14D・15D(1)出土遺物  
図版30 15D(2)出土遺物  
図版31 16D出土遺物  
図版32 18D・19D・掘立柱建物跡・土坑出土遺物  
図版33 04D・13AD・17D出土遺物  
図版34 13CD(1)出土遺物  
図版35 13CD(2)出土遺物  
図版36 13CD(3)出土遺物

## 八千代市遺跡調査会組織表

平成9年度（発掘調査時）

|       |   |
|-------|---|
| 会 長   | 村越 利光（八千代市教育委員会生涯学習部長）  |
| 副 会 長 | 石毛 幸治（八千代市教育委員会生涯学習部次長）   |
| 委 員   | 實川 憲（八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課長）<br>松井 俊夫（株式会社扶相 代表取締役）   |
| 監 査   | 松井 俊夫（株式会社扶相 代表取締役）   |
| 事務局長  | 實川 憲（八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課長）  |
| 事務局係長 | 小名木伸雄（八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課文化財係長）   |
| 事務局係員 | 秋山 利光（八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課文化財係副主査）<br>常松 成人（八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課文化財係主事）   |
| 事 務 員 | 鈴木 安子 高橋 昌代   |
| 調 査 員 | 森 竜哉（八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課文化財係主事）   |
| 調査補助員 | 秋山幸生 秋山隆 熱田さだ子 熱田節子 阿部るみ子 遠藤玲子 小形幸子<br>小澤学 落亀昌子 笠川千代子 斉藤千代 澤柳安子 鈴木時子 高橋道子<br>川久保松枝 立石勝代 立石春枝 立石ふく子 寺澤洋子 鳥羽良子 野中則子<br>原田雪子 日向洋子 真鍋昇一 村越美津子 室井恭子 欠尾ヤス子 山口栄子 |
| 整理補助員 | 川島すみ子 高崎房江 田中洋子   |

平成11、12年度（整理作業時）

|       |   |
|-------|---|
| 会 長   | 藤城 恒昭（八千代市教育委員会生涯学習部長）  |
| 副 会 長 | 三浦 幸子（八千代市教育委員会生涯学習部次長）平成12年3月31日まで<br>山本 正（八千代市教育委員会生涯学習部次長）平成12年4月1日から                                  |
| 委 員   | 實川 憲（八千代市教育委員会生涯学習部生涯学習課長）平成12年3月31日まで<br>鈴木 賢治（八千代市教育委員会生涯学習部生涯学習課長）平成12年4月1日から<br>松井 俊夫（株式会社扶相 代表取締役）   |
| 監 査   | 松井 俊夫（株式会社扶相 代表取締役）   |
| 事務局長  | 實川 憲（八千代市教育委員会生涯学習部生涯学習課長）平成12年3月31日まで<br>鈴木 賢治（八千代市教育委員会生涯学習部生涯学習課長）平成12年4月1日から                          |
| 事務局係長 | 小名木伸雄（生涯学習部生涯学習課文化財保護班主査）平成12年3月31日まで<br>相馬 文子（生涯学習部生涯学習課文化財保護班主査）平成12年4月1日から                             |
| 事務局係員 | 山崎 和義（生涯学習部生涯学習課文化財保護班副主査）平成12年4月1日から<br>秋山 利光（生涯学習部生涯学習課文化財保護班主任文化財主事）<br>宮澤 久史（生涯学習部生涯学習課文化財保護班主任文化財主事） |
| 事 務 員 | 鈴木 安子（平成12年3月31日まで） 高橋 昌代   |
| 調 査 員 | 森 竜哉（生涯学習部生涯学習課文化財保護班主任文化財主事）   |
| 整理補助員 | 笠川 千代子 寺澤 洋子 鳥羽 良子 野中 則子  |



遺跡一覧

● 集落跡 ○ 古墳、古墳群

1. 内込遺跡 2. 中ノ台遺跡 3. 妙正神遺跡 4. 真木野遺跡 5. 松原遺跡 6. 子の神台遺跡
7. 道地遺跡 8. 平戸台古墳群 9. 真木野古墳 10. 田原塚遺跡 11. 間見穴古墳群 12. 間見穴遺跡
13. 桑納古墳群 14. 所遺跡 15. 向塚遺跡 16. 保品東谷古墳群 17. 神野芝山古墳群 18. 下高野新山古墳
19. 下高野新山遺跡 20. 菅地ノ台古墳 21. 権現後遺跡 22. 北海道遺跡 23. 井戸向遺跡
24. 白幡前遺跡 25. 七百余所神社古墳 26. 持田遺跡 27. 浅間内遺跡 28. 根上神社古墳
29. 村上第1号墳 30. 村上古墳群 31. 黒沢台古墳 32. 沖塚古墳 33. 神山古墳群 34. 藤田大作遺跡
35. 上の山古墳群 36. 川崎山遺跡 37. 小坂橋遺跡 38. 塚地台古墳 39. 高津新山遺跡

第1図 八千代市域の古墳時代後期遺跡分布図

# 第1章 序 説

## 第1節 調査に至る経緯

平成8年8月、鈴木徳衛氏から宅地造成のため、当該地に埋蔵文化財が所在しているか否かの照会文書が八千代市教育委員会に提出された。当該地は周知の遺跡範囲内であり、現地踏査においても土師器等の遺物が散布している状況などから、照会者に遺跡が所在している旨を回答した。

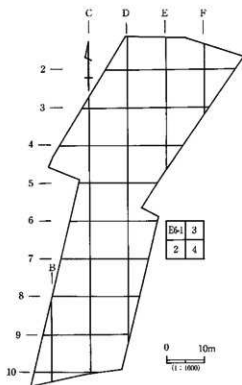
事業者との協議により現況保存がむずかしいとの判断から、記録保存として発掘調査を実施することとなった。確認調査は、事業計画が整い土木工事にかかる発掘の届出をまって平成8年12月に6日間をかけて実施した。調査の結果、古墳時代後期及び平安時代の住居跡や土坑、縄文時代中期の遺物が検出された。

## 第2節 調査の方法と経過

確認調査の成果から、耕作土がソフトロームという基本層序だったため、遺物包含層は存在しないことが明白であった。確認面はソフトローム上面とした。なお、縄文時代中期の遺物が出上していたので、褐色土等の土の変化には留意した。

調査区の設定は、公共座標系に沿って10m方眼を設定し1グリッドとした。1グリッド内を5m毎に分割して最小グリッドとした。遺構外遺物の取り上げや遺構位置は、この最小グリッドを呼称した。呼称方法は東西にアルファベット、南北に数字とした。(下のグリッド配置図参照)

調査経過は、平成9年6月30日～10月17日の期間をもって実施した。調査範囲内のほとんどが本調査範囲のため、排土処理を2回に分けて場内に積み上げた。前半は6月30日～9月11日にわたって実施した。6月30日～7月8日重機による表土剥ぎ・プラン確認作業、7月9日～9月11日101D～12D、05H～07H 遺構・カマド調査、9月8日前半部分全景撮影により後半に繋いだ。後半は、9月12日～10月17日にわたって実施した。9月12日～9月24日重機による表土剥ぎ・プラン確認作業、並行して、9月17日～10月16日にわたって13D～19D、01H～04H等遺構・カマド調査を実施した。10月17日後半部分の全景撮影と器材撤収を行い全現場の調査を終了した。



グリッド配置図

## 第3節 遺跡の位置と環境 (第1～3図)

八千代市の地形は、市域中央やや東側を南北に貫通する新川と支流の神崎川、桑納川、高津川等の河川によって開析された支谷と台地から形成される。台地の形状として標高が南西側で高く、北東側に向けて段々低くなる特徴が見られる。これに従えば、南側が標高25～30mの下総上位面、北～東方向に標高20～25mの下総下位面と標高11～14mの千葉段丘面という大まかに3枚の段丘

面が見られる。5m以下は沖積面で低地となっている。遺跡の立地は沖積面が5m以下ということからも、この3枚の段丘面すべてに展開している。

内込遺跡は、新川に流れ込む高津川の南岸台地上で、標高15~16mの緩傾斜面に位置する。地質的には千葉段丘面上に立地する。沖積面との比高差は3~5mである。台地の形状は、南側で高く北側で緩やかに低くなっている。20~30m南下すると標高21~23mの下総下位面と呼ばれる段丘面である。

#### 第4節 市域の古墳時代後期遺跡（第1図）

現地踏査及び発掘調査による成果を総合してみると全体で39カ所を確認している。集落の傾向としては、古墳時代後期単独の遺跡は少ない点、遺跡としてみた場合古墳時代前期を主体として、中期が空白で後期中ば~後半に小規模に遺構が展開する点が掲げられる。古墳では、市域全体で40余基を数えるが、その大半である35余基が6世紀~8世紀初頭の後期ないし終末期古墳である。古墳の特長は、数基~10基程度で群を成している点、主体部は箱式石棺や土罎が大半で横穴式石室が数例見られる点、円墳がほとんどで前方後円形、方形、帆立貝式等が見られる点、規模は20~30m程度がその大半を占める点等が掲げられる。

以下河川域にまとまりの見られるブロック毎に概観してみる。

##### 神崎川水系（第1図中 2~12）

松原遺跡では、25,000m<sup>2</sup>の調査域で前期主体に後期と合わせて54軒検出している。道地遺跡では、S58、H6、8、9年の調査で前期33軒、中期3軒、後期2軒と箱式石棺を主体部とする古墳1基を検出している。平戸台古墳群は8基で構成されるが、この内1、2号墳が調査されている。1号墳は一辺15m程度の方墳と判断され、主体部は箱式石棺である。2号墳は墳丘が削平され、主体部のみを調査している。箱式石棺内からは15体と想定される人骨や副葬品として直刀、鉄鏃、刀子、銅環、勾玉、ガラス製小玉、水晶製切玉等が出土している。真木野古墳は直径40mの円墳で、箱式石棺を主体部とする内部から人骨、鉄剣、土師器等が出土している。田原窪遺跡では、20,000m<sup>2</sup>の調査域で前期53軒、後期13軒を検出している。岡見穴古墳群を含む岡見穴遺跡では、前期24軒、後期6軒、古墳6基等が検出された。

##### 桑納川水系（第1図中 13）

桑納古墳群は2基で構成されるが、2基とも調査が実施され消滅している。1号墳は26mの円墳で主体部は木棺直葬の上葬である。副葬品として直刀、剣、鉄鏃、鉄地金銅張り金具等が出土している。2号墳は34mの帆立貝式古墳で主体部は不明である。墳丘裾部に形象埴輪と円筒埴輪が樹立されていた。築造時期は1号墳が7世紀代、2号墳が6世紀中葉と想定される。

##### 印旛沼水系（第1図中 14~17）

14~15は八千代市遺跡調査会による大学建設と周辺の宅地造成にかかる発掘調査実施地区である。昭和63年~平成10年にかけて全体面積約350,000m<sup>2</sup>、7遺跡について調査を実施した。結果として、縄文時代早期、弥生時代後期、奈良・平安時代を主体とした遺構、遺物が検出された。特に奈良・平安時代の掘立柱建物群は、コの字状配置をとり通常の集落に見られない特長をもっている。また遺物についても、祭祀その他にかかる土器の種類と点数は目を見張るものである。こうした中で古墳時代の遺構は、帯遺跡で後期5軒、向境遺跡で後期3軒と人の定着があまり見られない時期である。保品栗谷古墳群は、2基で構成される。昭和26年早稲田大学が、内1基を調査している。箱式石棺を主

体部としているが、副葬品は出土しなかった。神野芝山古墳群は、円墳4基で構成される。この内、3号墳が現存している。1号墳は破壊を受け、その際に箱式石棺、人骨、刀等が出土した。2号墳は、昭和47年に緊急調査が実施された。墳丘は失われていたが、周溝と主体部を検出した。周溝の規模から直径30mの円墳で、墳丘裾部に箱式石棺が埋置されていた。内部からは勾玉、葉玉、管玉等の玉類、鉄鏃、刀子等が出土した。4号墳も破壊を受け、埴輪片、石枕、刀、鏡等が出土したと言ったことである。また、主体部は粘土層らしい。

#### 高野川水系（第1図中 18、19）

下高野新山古墳では、1基が確認されている。測量及び一部トレンチ調査から一辺約20mの方墳の可能性が想定される。下高野新山遺跡では、縄文時代早期の炉穴を主体として、古墳時代前期・後期の住居跡が3軒検出されている。

#### 新川西岸域「葦田地区」（第1図中 20～24、35、36）

菅地ノ台古墳は直径23mの円墳で、破壊された須恵器人甕が墳丘裾部から出土している。21～24の葦田遺跡群では、全体としては奈良・平安時代の遺構が中心となっているが、古墳時代では前期107軒、中期5軒、後期33軒と推移をたどれる。川崎山遺跡では10,000m<sup>2</sup>の本調査で、弥生時代後期25軒古墳時代前期23軒を主体として、古墳時代後期3軒を検出している。また、区画整理事業にかかる確認調査においても、台地縁辺部に古墳時代前期の遺構が展開している。上の山古墳群は、台地縁辺部に円墳が2基遺存する。

#### 新川東岸域「村上地区」（第1図中 25～32）

持田遺跡では、1,000m<sup>2</sup>の本調査において後期12軒を検出しており、北側に更に展開する可能性が高い。浅岡内遺跡では、9,400m<sup>2</sup>の本調査において奈良・平安時代の遺構を主体として、古墳時代前期3軒、中期8軒、後期7軒を検出した。根上神社古墳は市域に遺存する唯一の前方後円墳で50mの規模をもっている。村上第1号墳は28×20mの方墳で、主体部は軟砂岩による横穴式石室である。玉類、直刀、鉄鏃等が出土している。村上古墳群は隣接地に塚等もあったがほとんど滅失してしまっている。円墳2基で構成される。この内3号墳は直径12～13mで主体部は土壙である。土壙内から直刀、鉄鏃、刀子、玉類が出土している。黒沢台古墳は18×21mの方墳で、主体部は3×1.2mの土壙である。出土遺物は検出されなかった。沖塚古墳は直径約23mの円墳で、主体部は貝化石岩による横穴式石室である。主体部からは人骨5～6体分が検出された。盗掘を受けており、副葬品はほとんど出土していないが、鉄片2点と茨道部から供献用の須恵器壺等が出土している。

#### 勝田川水系（第1図中 33、34）

仲山古墳群は、台地縁辺部に円墳が2基遺存する。勝田大作遺跡では、2,500m<sup>2</sup>の調査で古墳時代前期4軒、後期5軒が検出されている。

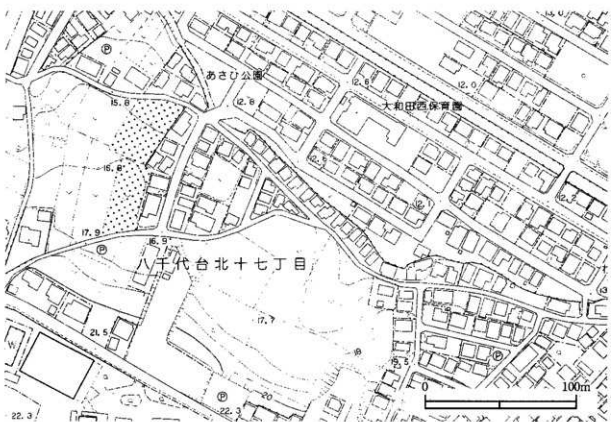
#### 高津川水系（第1図中 1、37～39）

内込遺跡では、2,400m<sup>2</sup>の調査で古墳時代後期15軒が検出されている。詳細は後述する。小坂橋遺跡では、昭和55・59年の調査において古墳時代中期7軒、後期8軒が検出された。調査面積は5,600m<sup>2</sup>である。塚場台古墳は、箱式石棺のみの調査であるが人骨7体分、剣4、鉄鏃、玉類が出土している。高津新山遺跡では約100,000m<sup>2</sup>の調査で、奈良・平安時代の堅穴住居跡111軒、掘立柱建物跡21棟、古墳時代では前期を主体とし後期を含めて28軒が検出されている。この内後期の堅穴住居跡は数軒であり、7世紀中葉頃に位置づけられている。



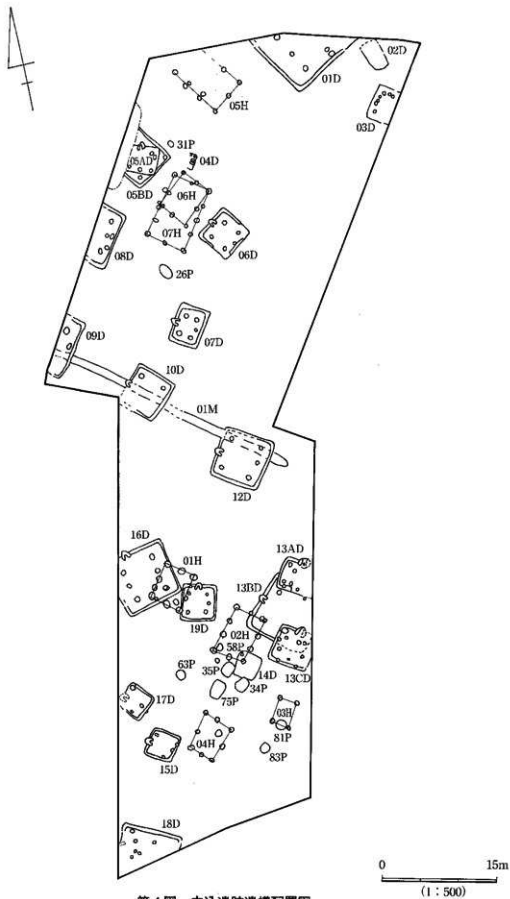
第2図 遺跡周辺の地形図 (1:20,000)

△高津新山道跡 ●内込道跡



第3図 遺跡位置図 (1:2,500) ※スクリーントーン部分





第4图 内込遺跡遺構配置図

## 第2章 検出された遺構と遺物

### 第1節 縄文時代

今回の調査では、本時代に明確に伴う遺構は検出されなかった。ただ26P(落とし穴)、63P(炉穴)の2遺構が本時代に伴う可能性がある(第2章第4節参照)。また、中期中葉の遺物が比較的多まって出土しているので、当時期の遺構があった可能性も考慮される。近接地の高津新山遺跡では、中期加曾利E式の住居跡2軒、落とし穴状土坑4基等が検出されている。

#### 出土した遺物(第5.6図 写真図版24)

出土した土器は碎片を含めると120点程度となるが、ここでは37点を図示した。他に土偶、石鏃、磨石が出土している。

1～5は田戸下層式土器である。1～2、3～5は各々同一個体で、色調は橙褐色である。いずれも焼成は良好で、胎土中には長石、石英などの角礫が含まれる。

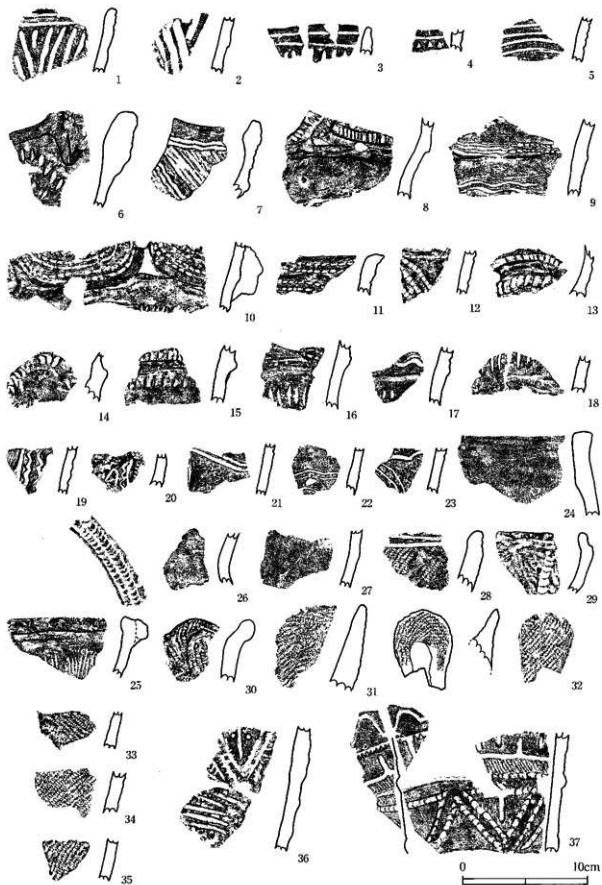
6～10は阿玉台式土器である。6～10は平面三角形や楕円状の隆帯区画を口縁部文様帯に描出し、頸部素文帯を構成する土器と思われる。11～15は隆帯に沿う列点状角押文や有節沈線文が施される。16～18は幅広い爪形文、19～21は縦位の帯文状沈線文や懸垂文、22～23は横位の波状沈線文が施される。24～27は無文の土器である。25の口唇部には2条の爪形文が廻り、口縁部には筒筒状施文具による沈線文が施される。28～35は縄文が施される土器である。原体は、30.35がLR、その他はRL(31は結節)である。なお、30～32は口縁部把手の破片である。30は蕨手状のモチーフが隆帯で施される。31は板状把手で、中央部には深い沈線で何らかのモチーフが施される。32は逆U字状把手で表裏に縄文が施される。

36～37は阿玉台式併行の西関東系土器である。36は顔面意匠が施される土器と思われる。ディテールは、有節沈線文により逆三角形の輪郭を描き、単沈線により鼻を、刺突により目を描出する。胎土は微細な雲母粒を多量に含む在地産のものと思われ、おそらくは勝坂式の文様意匠を模倣したものと思われる。37は猪沢～新道式ないしは勝坂式の搬入土器と思われる。色調は黄褐色で、焼成は良好である。胎土への雲母粒混入は、ほとんどみられない。

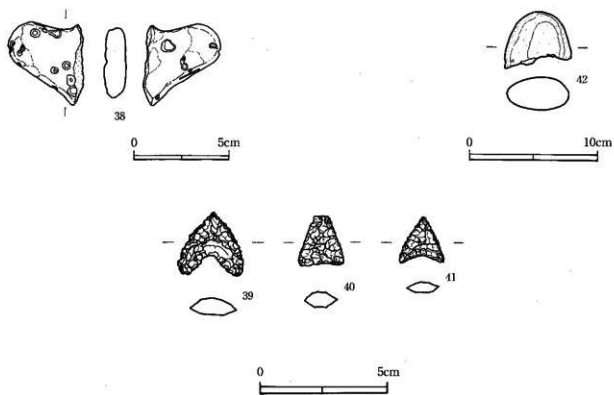
38は土偶腕部の破片である。文様は消極的な刺突文が施され、胎土には多量の雲母粒が含まれる。時期は阿玉台式期であろうが、詳細は不明である。

39～41は石鏃である。石材は39～40が黒曜石、41がチャートである。42は砂岩製の磨石で、被熱痕跡が残る。

| 番号 | 器種  | 現存長 (cm) | 現存幅 (cm) | 現存厚 (cm) | 重量 (g) | 石 材  | 遺存状態   | 備 考       |
|----|-----|----------|----------|----------|--------|------|--------|-----------|
| 39 | 石 鏃 | 2.5      | 2.6      | 0.6      | 2.6    | 黒曜石  | 完 存    | 12D 覆土出土  |
| 40 | 石 鏃 | 1.9      | 1.8      | 0.5      | 1.5    | 黒曜石  | 先端部欠損  | 13CD 覆土出土 |
| 41 | 石 鏃 | 1.8      | 1.7      | 0.3      | 0.9    | チャート | 完 存    | 19D 覆土出土  |
| 42 | 磨 石 | 3.6      | 5.1      | 2.7      | 69.3   | 砂 石  | 1/2 欠損 | 16D 覆土出土  |



第5図 縄文時代出土遺物(1)



第6図 縄文時代出土遺物(2)

## 第2節 古墳時代

中期後半の住居跡1軒と後期の住居跡15軒、掘立柱建物跡5棟、土坑8基を検出した。住居跡の分布はほぼ全域に広がるが、大きく三群に分けられる。01D, 02Dの一群, 05BD~12Dの一群, 13BD~16D, 18D, 19Dの一群である。16D, 19D等切り合いの精査が必要であるが後述する。掘立柱建物跡は北側の05~07Dの一群, 南側の03, 04Hの一群に分けられる。土坑は31Pのみ北側に1基遺存し、7基が南側に集中している。

土坑、住居跡、掘立柱建物跡相互の切り合いもあり、同じ鬼高期についても時間差があることは明確である。なお、土坑、掘立柱建物跡、溝状遺構については第4節において記述した。

### 01D住居跡(第7図 写真図版3)

状況 主軸方向 北側にカマドを想定するとN-62°-W

規模 西壁7.3m以上、南壁7.0m以上の四角形ないし長方形プランを想定できる。

カマド 確認できないが、P1, 2の位置からすると北壁中央に想定できる。

周溝 幅15~30cm、深さ2~9cmである。覆土は褐色土上にロームブロックを混入している。調査区で全周する。

柱穴 P1, 3~5が該当する。P1が副柱穴で他が主柱穴と想定できる。深さはP1-21cm, P3-66cm, P4-64cm, P5-上場のみで計測不能となっている。主柱穴の覆土は上層で黒褐色土、中~下層で褐色土である。

貯蔵穴 P2が該当する。78cm×52cmの長方形で、深さは42cmである。覆土は上~中層で黒褐色土、下層で茶褐色土となっている。

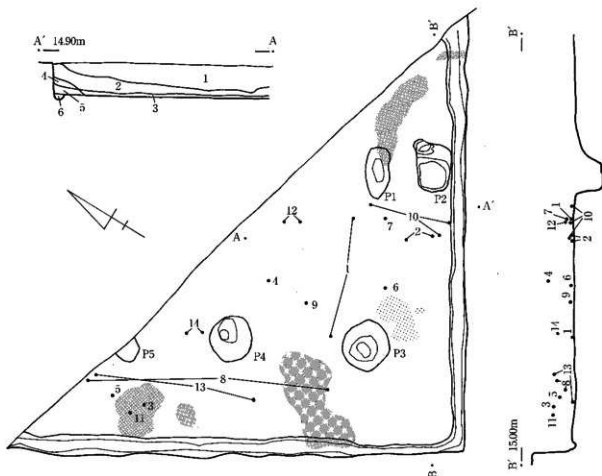
床面 ハードロームを掘り込んで床面としている。全体に締まっている。

その他 壁際に沿って焼土粒混じりの暗褐色土が検出された。床面に密着し、厚さは2~6cmである。またP3脇に白色粘土が、床面に密着して検出された。厚さは3cm程度である。

### 01D住居跡出土遺物(第8図 写真図版25)

破片点数は301点出土し、この内14個体を図示した。

| 番号       | 器種         | 寸法(cm)                      | 遺存状態            | 色調               | 焼成   | 胎土                     | 手法上の特徴   |
|----------|------------|-----------------------------|-----------------|------------------|------|------------------------|--|
| 01D<br>1 | 須恵器<br>蓋外身 | 口径 9.3<br>胴径 11.8<br>器高 4.4 | ほぼ定形            | 内外面<br>灰色        | 良好   | ち密で精選されている。            | 体部下縁~中位刻線へラ削り調整。たちあがりはオロコミ手法による。受け部はやや空演して成形される。 |
| 2        | 土師器<br>杯   | 口径 11.5<br>器高 5.0           | ほぼ定形            | 内外面<br>赤褐色       | 良好   | 雲母、白色粒<br>砂粒混入         | 外面は口辺部へラ磨き。体部へラ削り調整。内面はち密なへラ磨き調整を施す。内外面赤彩する。     |
| 3        | 土師器<br>杯   | 復元口径 17.0<br>復元高 3.5        | 口縁~体部<br>1/5 遺存 | 内外面<br>淡褐色       | やや不良 | 粒子細かく精選される。            | 外面は口辺部磨き、体部へラ削り調整。内面はなで調整を施す。                    |
| 4        | 土師器<br>杯   | 復元口径 11.0<br>遺存高 4.1        | 口縁~体部<br>1/4 遺存 | 内外面<br>暗褐色       | 良好   | 雲母、白色粒<br>石灰、粗砂粒<br>混入 | 外面は口辺部へラ磨き。体部へラ削り調整を施す。内面はち密なへラ磨き調整。             |
| 5        | 土師器<br>杯   | 復元口径 13.6<br>遺存高 3.5        | 口縁~体部<br>1/5 遺存 | 外面 茶褐色<br>内面 暗褐色 | 良好   | 雲母、白色粒<br>粗砂粒混入        | 外面は口辺部短いへラ磨き。体部へラ削り調整。内面は強いへラ磨きを施す。              |
| 6        | 土師器<br>杯   | 口径 13.2<br>器高 4.5           | ほぼ定形            | 内外面<br>黒褐色       | 良好   | 雲母、白色粒<br>粗砂粒混入        | 外面はへラ削り能覆いへラ磨き調整を施す。内面はへラなで後削りへラ磨き調整。両面黒色処理。     |

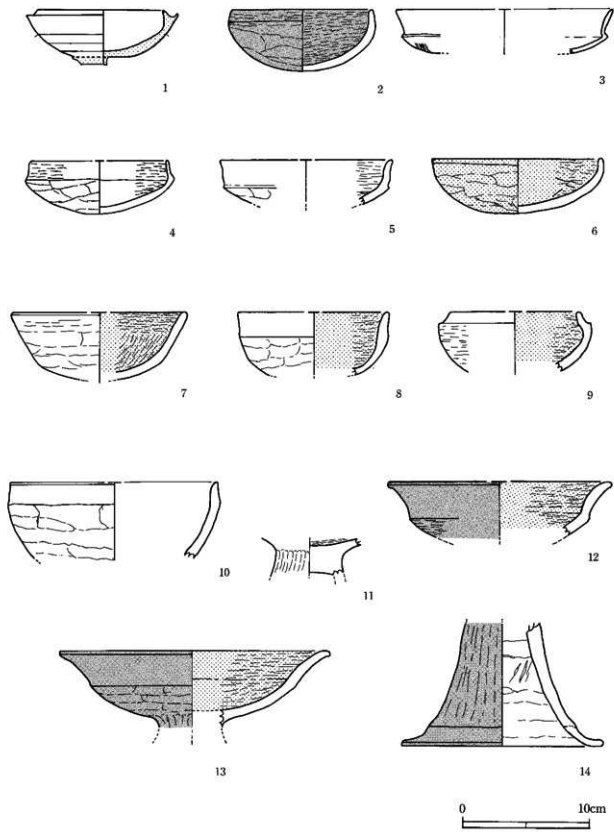


O1D土層説明

1. 黒褐色土 ローム粒少量含む。1~2mm大ローム粒全体に含む。粒子細かい。
2. 暗褐色土 褐色土、ローム粒、黒色土混入型。2~3mm大ローム粒全体に含む。ややぼそぼそ
3. 暗黄褐色土 ローム土本体に暗褐色土混入。しまっている。
4. 暗褐色土 2層傾斜。黒色土の混入が多い。
5. 黒褐色土 ローム粒少量混入。2mm大ローム粒全体に含む。ややぼそぼそ。
6. 褐色土 ローム土中に暗褐色土混入。

第7図 O1D遺構実測図

| 番号       | 部 種       | 寸 法 (cm)                   | 遺存状態            | 色 調              | 焼 成 | 粘 土                       | 手法上の特徴   |
|----------|-----------|----------------------------|-----------------|------------------|-----|---------------------------|--|
| O1D<br>7 | 土師器<br>環  | 復元口径<br>13.5<br>遺存高<br>5.3 | 口縁一体部<br>1/2 遺存 | 内外面<br>暗褐色       | 良好  | 雲母、やや多めの<br>白色粒、粗砂<br>粒混入 | 外面は口辺部横などで後へう削ぎ、体部へう削り調整。内面は縦横方向のへら巻き調整を施す。内面黒色処理。 |
| 8        | 土師器<br>環  | 復元口径<br>11.8<br>遺存高<br>7.0 | 口縁一体部<br>1/3 遺存 | 外面 暗褐色<br>内面 黒褐色 | 良好  | 雲母、長石、粗砂<br>粒混入           | 外面は口辺部横などで、体部へう削り調整。内面はち密なへら削ぎを施す。内面黒色処理。          |
| 9        | 土師器<br>環  | 復元口径<br>10.0<br>遺存高<br>4.8 | 口縁一体部<br>1/4 遺存 | 内外面<br>黒褐色       | 良好  | 雲母、やや多めの<br>白色粒、粗砂<br>粒混入 | 外面は口辺部横などで、体部へう削り後粗いへら削ぎ調整を施す。内面はち密なへら削ぎ調整。内面黒色処理。 |
| 10       | 土師器<br>環  | 復元口径<br>16.2<br>遺存高<br>6.1 | 口縁一体部<br>1/4 遺存 | 内外面<br>淡茶褐色      | 良好  | 雲母、やや多めの<br>白色粒、粗砂<br>粒混入 | 外面は口辺部横などで、体部へう削り調整。内面は口辺部横などで、体部などで調整。            |
| 11       | 土師器<br>高環 | 遺存高<br>2.5                 | 胴部全周            | 内外面<br>淡茶褐色      | 良好  | 雲母、やや多めの<br>白色粒、粗砂<br>粒混入 | 胴部外面は細いへう削り調整。環部内面はへら削ぎ調整を施す。                      |



第 8 圖 01D出土遺物

|           |           |             |             |                 |                  |    |                           |   |
|-----------|-----------|-------------|-------------|-----------------|------------------|----|---------------------------|---|
| 01D<br>12 | 土師器<br>高坏 | 復元口径<br>遺存高 | 17.6<br>4.3 | 口縁～体部<br>1/5 遺存 | 外面 赤褐色<br>内面 黒褐色 | 良好 | 雲母、やや多<br>めの白色粒、粗砂<br>粒混入 | 外面は口辺部破面で、体部へう割き。<br>内面はへう割き調整を施す。外面赤彩。<br>内面黒色処理。12と同1個体か。 |
| 13        | 土師器<br>高坏 | 口径<br>遺存高   | 21.2<br>6.1 | 坏部全面遺存          | 外面 赤褐色<br>内面 黒褐色 | 良好 | 雲母、やや多<br>めの白色粒、粗<br>砂粒混入 | 外面は口辺部破面で、体部へう割り。<br>内面はち密なへう割き調整を施す。<br>外面赤彩。内面黒色処理。       |
| 14        | 土師器<br>高坏 | 復元口径<br>遺存高 | 15.8<br>9.8 | 脚部1/2 遺存        | 外面 赤褐色<br>内面 黒褐色 | 良好 | 雲母、やや多<br>めの白色粒、粗砂<br>粒混入 | 外面は脚部破面で、脚部へう割り。<br>内面はへう割り及びへう割きを施す。<br>外面赤彩。12と同1個体か。     |

### 02D住居跡(第9図 写真図版3)

状 況 主軸方向 北側にカマドを想定するとN-27°-W

規 模 西壁2.95m以上、南壁1.65mの長方形プランを想定できる。

カマド 確認できないが、北壁中央に想定できる。

周 溝 検出されなかった。

柱 穴 検出されなかった。

貯蔵穴 検出されなかった。

床 面 ソフトルーム中の貼り床で中央部がよく硬化している。

### 02D住居跡出土遺物(第9図 写真図版5)

破片点数は14点出土し、この内3個体を図示した。

| 番号       | 器 種      | 寸 法 (cm)    | 遺存状態        | 色 調              | 焼 成         | 胎 土 | 手 法 上 の 特 徴    |   |
|----------|----------|-------------|-------------|------------------|-------------|-----|----------------|---|
| 02D<br>1 | 土師器<br>壺 | 復元口径<br>遺存高 | 13.0<br>6.2 | 口縁～脚部<br>1/3遺存   | 内外面<br>淡赤褐色 | 良好  | 雲母、白色粒<br>砂粒混入 | 外面は口辺部破面で、脚部へう割り。<br>内面はなで調整。内面黒彩施す。    |
| 2        | 土師器<br>瓶 | 遺存高<br>底径   | 15.0<br>9.0 | 胴部～底部<br>約1/2 遺存 | 内外面<br>淡赤褐色 | 良好  | 雲母、白色粒<br>砂粒混入 | 外面は胴部斜方向のへう割り。内面はへう<br>割きで、内外面一部剥離面である。 |
| 3        | 土師器<br>壺 | 復元口径<br>遺存高 | 7.4<br>2.2  | 底部1/3遺存          | 内外面<br>淡赤褐色 | 良好  | 雲母、白色粒<br>砂粒混入 | 外面は底部下縁へう割り調整。<br>内面はなで調整。              |

### 03D住居跡(第10図 写真図版4)

状 況 主軸方向 N-35°-E

規 模 西壁3.8m、南壁2.0m以上の四角形ないし長方形プランを想定できる。

カマド 検出されなかった。

周 溝 検出されなかった。

柱 穴 P1～7が該当する。深さはP1-7cm、P2-15cm、P3-14cm、P4-11cm、P5-11cm、P6-8cm、P7-22cmとなっている。覆上は暗褐色土ないし褐色土である。

貯蔵穴 検出されなかった。

床 面 全体的に軟弱で硬化部分も見られない。

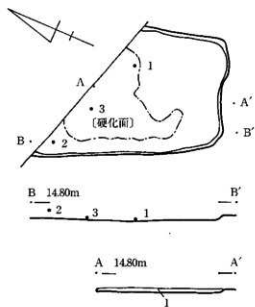
その他 床面に密着して焼土が検出された。厚さは1cm程度である。

### 03D住居跡出土遺物(第10図 写真図版25)

図示した1点のみ出土している。

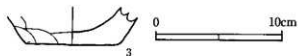
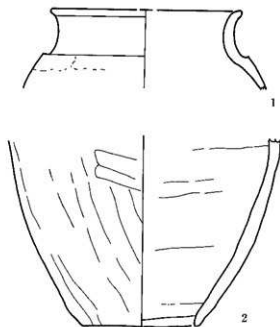
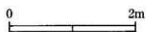
| 番号       | 器 種       | 寸 法 (cm)    | 遺存状態         | 色 調                | 焼 成         | 胎 土 | 手 法 上 の 特 徴     |   |
|----------|-----------|-------------|--------------|--------------------|-------------|-----|-----------------|---|
| 03D<br>1 | 土師器<br>高坏 | 復元口径<br>遺存高 | 15.8<br>13.0 | 坏部1/3 遺存<br>脚部全面遺存 | 内外面<br>淡赤褐色 | 良好  | 石英、白色粒<br>粗砂粒混入 | 外面は坏部がハケ目調整後に擦り削り形<br>でなで調整。脚部は細いへう割り。内面は坏<br>部、脚部共なで調整。坏部内面に火熱による<br>剥離あり。 |



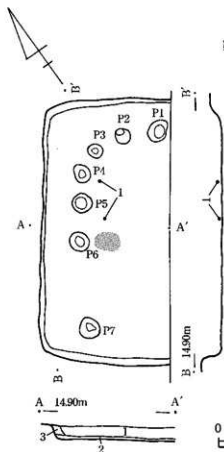


O2D土層説明

1. 黒褐色土 ローム粒ごく少量混入。

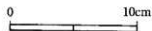
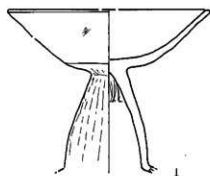
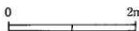


第9図 O2D遺構・出土遺物



O3D土層説明

1. 黒色土: ローム粒ごく少量含む。粒子細かい。
2. 褐色土: 黒色土少量混入。
3. 暗褐色土: 黒色土、ローム粒混合層。



第10図 O3D遺構・出土遺物

05BD住居跡(第11図 写真図版5)

状況 主軸方向 北側にカマドを想定するとN-34°-W

規模 西壁側は調査区外。北東壁4.9m以上, 南東壁5.1m, 南西壁2.44m以上の四角形プランを想定できる。ほぼ中央を05ADに切られている。

カマド 確認できないが, 北西壁中央に作られている可能性が高い。

周溝 幅16~18cm, 深さ4~8cmである。覆土は褐色土に暗褐色土粒を混入している。調査区で全周する。

柱穴 P1~3が該当する。P1が副柱穴で他が主柱穴と想定できる。深さはP1-13cm, P2-55cm, P3-72cmとなっている。主柱穴の覆土は上層で黒褐色土(ロームブロック混入), 下層で褐色土(ローム土主体)である。

貯蔵穴 検出されなかった。

床面 ソフトローム中を床面としている。中央部分を05ADに抜かれているので硬化範囲は特定できなかった。

その他 部分的に焼土粒混じりの暗褐色土が検出された。床面に密着し, 厚さは3~10cmである。

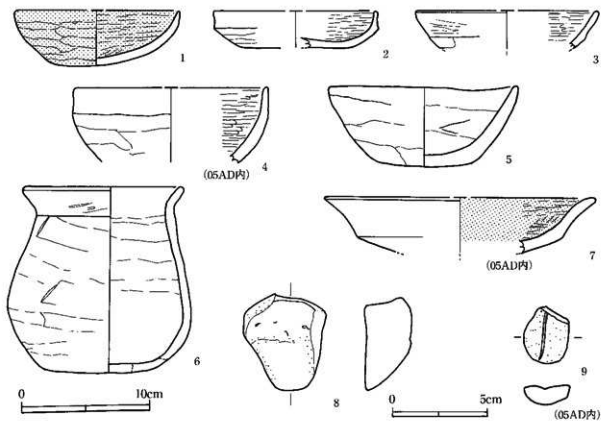
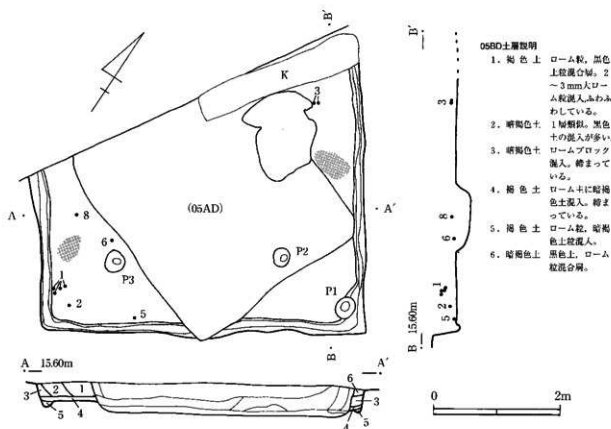
05BD住居跡出土遺物(第11図 写真図版25)

全体で50点出土し, この内9点を図示した。

| 番号        | 器種         | 寸法(cm)                                | 遺存状態           | 色調                  | 焼成 | 胎土                         | 手法上の特徴  |
|-----------|------------|---------------------------------------|----------------|---------------------|----|----------------------------|---|
| 05BD<br>1 | 土師器<br>環   | 復元口径<br>12.6<br>器高<br>4.3             | 口縁~体部<br>1/2遺存 | 内外面<br>黒灰色          | 良好 | 少量の雲母,<br>白色粒, 粗砂粒<br>混入   | 外面は口縁部傾いヘラ磨き, 体部横方向の<br>ヘラ削り。内面はヘラなどで後, 傾いヘラ磨<br>きを施す。内面黒色処理。                         |
| 2         | 土師器<br>環   | 復元口径<br>12.6<br>器高<br>2.9             | 口縁~体部<br>1/5遺存 | 内外面<br>茶褐色          | 良好 | 少量の雲母,<br>白色粒, 粗砂粒<br>混入   | 外面は口縁部横などで, 体部横方向のヘラ削<br>り。内面は口縁部横などで, 体部傾いヘラ<br>磨きを施す。口縁部内面に一帯の沈線あり。                 |
| 3         | 土師器<br>環   | 復元口径<br>14.1<br>遺存高<br>3.0            | 口縁~体部<br>1/3遺存 | 外面 淡褐色<br>内面 暗褐色    | 良好 | 少量の雲母及び<br>白色粒, 粒子細<br>かい。 | 口辺部内外面ヘラ磨き, 体部外側横方向の<br>ヘラ削り。内面の磨きは1帯で落ちかであ<br>る。内面黒色処理か?                             |
| 4         | 土師器<br>碗   | 復元口径<br>15.0<br>遺存高<br>5.9            | 口縁~体部<br>1/5遺存 | 外面 淡褐色<br>内面 淡褐色    | 良好 | 白色粒, 粗砂粒<br>混入             | 外面は口縁部横などで, 体部横方向のヘラ削<br>り後, などで調整。内面は傾いヘラ磨きを<br>施す。                                  |
| 5         | 土師器<br>碗   | 口径<br>14.6<br>底径<br>7.5<br>器高<br>6.0  | ほぼ完形           | 内外面<br>淡赤褐色一部<br>黒灰 | 良好 | 白色粒, 粗砂粒<br>混入             | 内外面ヘラなどで, 調整時に器種を別に更<br>変したと思われる。   |
| 6         | 土師器<br>小型甕 | 口径<br>12.8<br>底径<br>6.7<br>器高<br>14.8 | ほぼ完形           | 内外面<br>淡赤褐色一部<br>黒灰 | 良好 | 少量の雲母,<br>白色粒, 粗砂粒<br>混入   | 口辺部内外面横などで, 胴部内外面ヘラなどで,<br>外面は胴部~底部にかけて二次焼成による<br>割破面着しい。内面にも底面~胴部中位<br>まで部分的に割破面がある。 |
| 7         | 土師器<br>高杯  | 復元口径<br>21.4<br>遺存高<br>4.3            | 口縁~体部<br>1/5遺存 | 外面 淡褐色<br>内面 黒灰色    | 良好 | 白色粒, 粗砂粒<br>混入             | 外面は口縁部横などで, 体部などで調整。内面<br>は横方向のヘラ磨きを施す。内面黒色処理。  |

単位 (cm)

| 番号 | 器種        | 石材 | 長さ  | 幅   | 厚さ  | 重さ(g) | 備考                       |
|----|-----------|----|-----|-----|-----|-------|--------------------------|
| 8  | 石製品<br>砥石 | 砥石 | 4.9 | 4.3 | 2.4 | 20.2  | ほぼ全面に研磨の痕跡が見られる。         |
| 9  | 石製品<br>砥石 | 砥石 | 3.0 | 2.3 | 0.9 | 3.6   | 表面について筋状及び面状に研磨の痕跡が見られる。 |



第11図 05BD遺構・出土遺物

06D住居跡(第12図 写真図版6)

状況 主軸方向 N-37°-W

規模 北東壁4.34m, 南東壁4.32m, 南西壁4.24m, 北西壁4.22mのほぼ方形プランである。なお遺構コーナーが隅切りではないので、各辺の延長上を測定値とした。

カマド 北西壁中央に位置する。両袖ともよく遺存している。袖部の構築は基底部に淡褐色粘土を袖状に張り付け上部に焼土と淡褐色砂質粘土の混合土、淡褐色砂質粘土をのせている。燃烧部の掘り込みは床面から7~8cmである。強く焼けた底面は袖部前部から中央に位置する。煙道部は燃烧部奥で一度平らになって角度をもって立ち上がる。壁からの掘り込みは13cmで、U字状に掘られる。

周溝 幅24~29cm, 深さ1~3cmである。覆上は暗褐色上にローム粒を混入している。南及び東コーナー部で途切れる。構築はカマド下まで及び、カマドを造る際に埋め戻される。

柱穴 P1~5が該当する。P3が副柱穴で他が主柱穴と想定できる。深さはP1-27cm, P2-30cm, P3-13cm, P4-37cm, P5-44cmである。主柱穴の覆土は上層で黒褐色上, 下層で褐色上である。

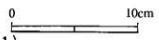
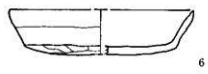
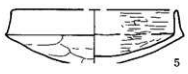
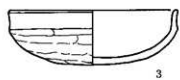
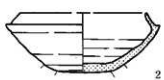
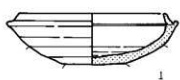
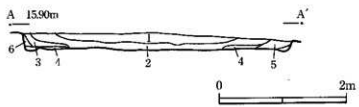
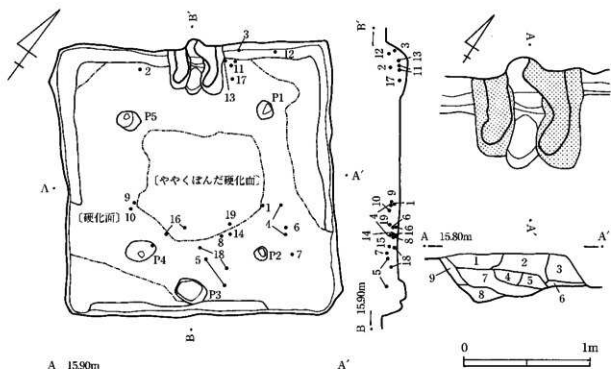
貯蔵穴 検出されなかった。

床面 ハードロームを13cm程度掘り込んで床面としている。周縁を除いてよく締まっている。なお、中央部はややくぼんで締まっている。

06D住居跡出土遺物(第12~14図 写真図版26)

破片点数は178点出土し、この内19個体を図示した。

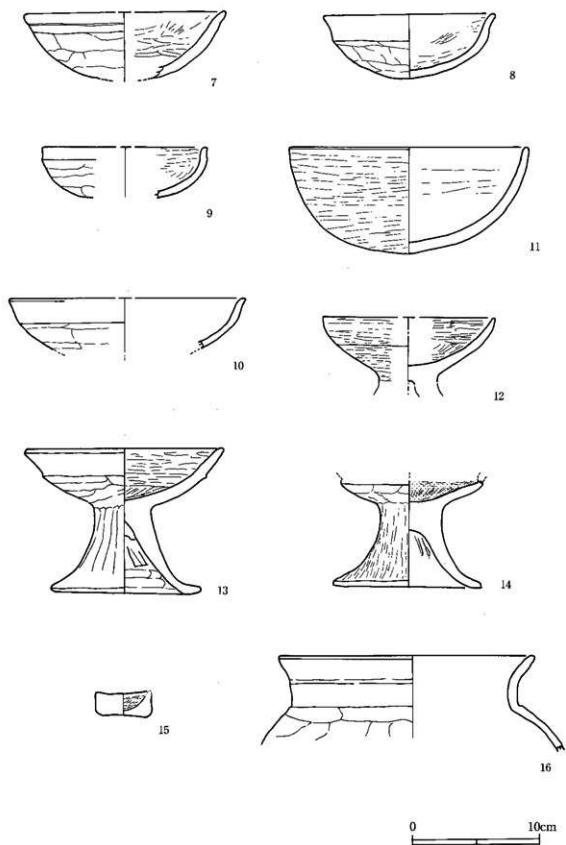
| 番号       | 器種         | 寸法(cm)                           | 遺存状態            | 色調               | 焼成 | 胎土                | 手法上の特徴  |
|----------|------------|----------------------------------|-----------------|------------------|----|-------------------|---|
| 06D<br>1 | 灰室部<br>蓋環身 | 口径 11.5<br>胴径 13.5<br>器高 4.0     | ほぼ定形            | 内外面<br>淡青灰色      | 良好 | 灰子細かくも密である。       | 底部切懸しはヘラ切り。体部下位凹縁ヘラ削り調整。口縁部立ち上がりはオリコミ手法による。           |
| 2        | 灰室部<br>蓋環身 | 復元口径 10.0<br>復元胴径 12.2<br>器高 4.7 | 口縁~底面<br>1/3 遺存 | 内外面<br>淡青灰色      | 良好 | 灰子細かくも密である。       | 底部切懸しはヘラ切り。体部下位凹縁ヘラ削り調整。口縁部立ち上がりはオリコミ手法による。           |
| 3        | 土師器<br>環   | 口径 13.0<br>器高 4.3                | 口縁~体部<br>1/2 遺存 | 内外面<br>暗褐色       | 良好 | 雲母, 白色粒<br>粗砂粒混入  | 口辺部内外面横なで, 体部外面はヘラ削り調整。内面は全て調整。                       |
| 4        | 土師器<br>環   | 口径 13.0<br>器高 4.1                | 口縁~体部<br>1/2 遺存 | 内外面<br>淡褐色       | 良好 | 雲母, 石英<br>粗砂粒混入   | 口辺部内外面横なで, 体部外面はヘラ削り, 内面は全て調整。有段口縁環。                  |
| 5        | 土師器<br>環   | 口径 12.8<br>器高 4.3                | 口縁~体部<br>1/2 遺存 | 内外面<br>淡茶褐色      | 良好 | 少量の雲母, 白色粒, 粗砂粒混入 | 口辺部内外面ヘラ磨き, 体部外面はヘラ削り調整。内面はヘラ磨き調整を施す。                 |
| 6        | 土師器<br>環   | 復元口径 14.4<br>器高 3.6              | 口縁~体部<br>1/3 遺存 | 内外面<br>暗茶褐色      | 良好 | 雲母, 石英<br>粗砂粒混入   | 口辺部内外面横なで, 体部外面はヘラ削り, 内面は全て調整。有段口縁環。                  |
| 7        | 土師器<br>環   | 復元口径 15.6<br>遺存高 5.2             | 口縁~体部<br>1/2 遺存 | 内外面<br>暗褐色       | 良好 | 少量の雲母, 白色粒, 粗砂粒混入 | 口辺部外面横なで, 体部外面はヘラ削り内面はヘラなで後, ヘラ磨きを施す。口縁部外面に漆状の付着物がある。 |
| 8        | 土師器<br>環   | 口径 13.6<br>器高 5.1                | 口縁~体部<br>1/2 遺存 | 外面 茶褐色<br>内面 風灰色 | 良好 | 少量の雲母, 白色粒, 粗砂粒混入 | 口辺部内外面横なで, 体部外面はヘラ削り調整。内面はヘラ磨きを施す。                    |
| 9        | 土師器<br>環   | 復元口径 12.7<br>遺存高 4.0             | 口縁~体部<br>1/5 遺存 | 内外面<br>茶褐色       | 良好 | 少量の雲母, 白色粒, 粗砂粒混入 | 口辺部外面横なで, 体部外面はヘラ削り, 内面はヘラ磨きを施す。                      |
| 10       | 土師器<br>環   | 復元口径 18.3<br>遺存高 4.0             | 口縁~体部<br>1/5 遺存 | 内外面<br>黒茶褐色      | 良好 | 少量の雲母, 白色粒, 粗砂粒混入 | 口辺部外面横なで, 体部外面はヘラ削り後, 全て調整。内面は横なで調整。                  |



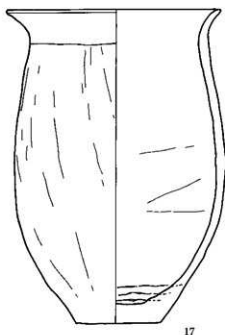
- 06D土層説明**
1. 暗褐色土 黒色土、ローム粒混入層。  
1~3mm大ローム粒点在。
  2. 黒褐色土 ローム粒少量混入。
  3. 暗褐色土 黒色土、ローム粒混入層。  
1cm大ローム粒混入。
  4. 茶褐色土 ローム粒中に暗褐色土粒混入。
  5. 茶褐色土 ローム粒、暗褐色土粒、ロームブロック混入。

- 06Dカマド土層説明**
1. 暗褐色土 黒色土、淡褐色砂質粘土混入層。
  2. 淡褐色土 淡褐色砂質粘土本体に暗褐色土混入。
  3. 暗褐色土 1~2mm大のローム粒全体を含む。
  4. 淡赤褐色土 焼し粒、淡褐色砂質粘土混入層。
  5. 淡赤褐色土 焼し粒、淡褐色砂質粘土混入層、粘土や多い。
  6. 褐色土 ローム、暗褐色土混入層。
  7. 赤褐色土 焼土粒本体、淡褐色砂質粘土上、ローム粒少量混入。
  8. 暗褐色土 ローム、暗褐色土混入層。
  9. 褐色土 ローム主に灰化粒混入。

第12図 06D遺構・カマド・出土遺物(1)

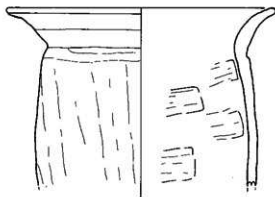


第13図 06D出土遺物（2）

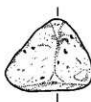


17

0 10cm



18



19

0 5cm

第14図 06D出土遺物(3)

|           |             |                   |                      |                         |                   |    |                          |  |
|-----------|-------------|-------------------|----------------------|-------------------------|-------------------|----|--------------------------|--|
| 06D<br>11 | 土師器<br>鉢    | 口径<br>器高          | 18.4<br>8.5          | ほぼ完形                    | 外向 暗褐色<br>内向 淡茶褐色 | 良好 | 雲母、白色粒<br>粗砂粒混入          | 外面はヘラ削き調整。内面はなで調整によ<br>って仕上げる。   |
| 12        | 土師器<br>高坏   | 復元口径<br>遺存高       | 13.5<br>5.2          | 坏部<br>1/2 遺存            | 内外面<br>暗褐色        | 良好 | 雲母、白色粒<br>粗砂粒混入          | 内外面共密なヘラ磨き調整。  |
| 13        | 土師器<br>高坏   | 口径<br>胴部径<br>器高   | 15.4<br>11.2<br>11.3 | ほぼ完形                    | 内外面<br>暗褐色        | 良好 | 雲母、白色粒<br>粗砂粒混入          | 坏部外面は口辺部横なで、胴部へラ削<br>りを施す。内面は坏部へラ磨き、胴部へ<br>ラ削り。  |
| 14        | 土師器<br>高坏   | 胴部径<br>遺存高        | 11.6<br>8.5          | 胴部はほぼ全周<br>坏部<br>1/2 遺存 | 外面 淡褐色<br>内面 黒灰色  | 良好 | 雲母、白色粒<br>粗砂粒混入          | 坏部では外面は胴部へラ削り、内面はへ<br>ラ磨きを施す。胴部では外面は密なヘラ磨<br>き、内面はへらなで。坏部内面黒色地滑を<br>施す。                          |
| 15        | 土師器<br>手づくね | 復元口径<br>底径<br>遺存高 | 4.3<br>3.9<br>1.7    | 口縁端部<br>全周欠損            | 内外面<br>茶褐色        | 良好 | 雲母、白色粒混<br>入。砂粒少量含<br>む。 | 外面はなで整形。内面は密なヘラ磨き調<br>整。   |
| 16        | 土師器<br>甕    | 口径<br>遺存高         | 22.0<br>7.5          | 口縁～胴部<br>ほぼ全周           | 内外面<br>淡褐色        | 良好 | 雲母、白色粒<br>粗砂粒混入          | 外面は口辺部横なで、胴部へラ削り。<br>内面は口辺部横なで、胴部なで調整。   |
| 17        | 土師器<br>甕    | 口径<br>底径<br>器高    | 16.7<br>6.6<br>24.7  | 完形                      | 内外面<br>淡茶褐色       | 良好 | 雲母、白色粒<br>粗砂粒混入          | 外面は口辺部横なで、胴部へラ削り後な<br>で調整。内面は口辺部横なで、胴部へラな<br>で調整。底部～立ち上がり外面に二次焼成、<br>胴部下端～中位に砂質粘土の付着痕跡が見<br>られる。 |
| 18        | 土師器<br>甕    | 口径<br>遺存高         | 21.2<br>14.0         | 口縁～胴部<br>ほぼ全周           | 内外面<br>淡褐色        | 良好 | 少量の雲母、白<br>色粒、小石混入       | 外面は口辺部横なで、胴部へラ削り後な<br>で調整。内面は口辺部横なで、胴部へラな<br>で調整。  |

単位 (cm)

| 番号 | 器種        | 石材 | 長さ  | 幅   | 厚さ  | 重さ (g) | 備考               |
|----|-----------|----|-----|-----|-----|--------|------------------|
| 19 | 石製品<br>甕石 | 軽石 | 3.7 | 4.6 | 2.7 | 6.7    | ほぼ全面に研磨の痕跡が見られる。 |

07D住居跡(第15図 写真図版7)

状況 主軸方向 N-56°-W

規模 北東壁3.45m, 南東壁4.50m, 南西壁3.32m, 北西壁4.63mの長方形プランである。

カマド 北西壁中央に位置する。両袖ともよく遺存している。袖部の構築は基底部に淡褐色粘土を袖状に張り付け上部に焼土、淡褐色砂質粘土、ローム土の混合土をのせる。燃焼部の掘り込みは床面から5cmである。強く焼けた底面は袖部前面に位置する。煙道部は燃焼部奥で階段状になり、一度緩やかに傾斜して角度をもって立ち上がる。壁からの掘り込みは41cmである。

周溝 全周する。幅22~30cm, 深さ6~10cmである。構築はカマド袖下まで及んでいる。

柱穴 P1~6が該当する。P3, 5が副柱穴で他が主柱穴と想定できる。深さはP1-41cm, P2-40cm, P3-34cm, P4-39cm, P5-5cm, P6-54cmである。主柱穴の覆土は上層で黒褐色土, 下層でロームブロックを混入する褐色土である。

貯蔵穴 検出されなかった。

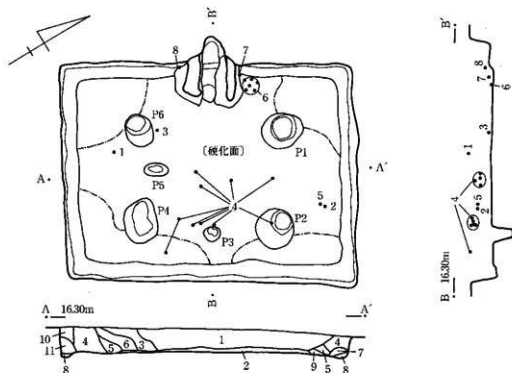
床面 ハードルームを5cm程度掘り込んで床面としている。周縁を除いてよく締まっている。

07D住居跡出土遺物(第16図 写真図版27)

破片点数は134点出土し、この内7個体を図示した。

| 番号       | 器種        | 寸法(cm)                                 | 遺存状態            | 色調               | 焼成 | 胎土              | 手法上の特徴   |
|----------|-----------|--|-----------------|------------------|----|-----------------|--|
| 07D<br>1 | 土師器<br>環  | 復元口径<br>11.2<br>器高<br>4.0              | 口縁-体部<br>1/4 遺存 | 内外面<br>黒灰色       | 良好 | 雲母、白色粒<br>粗砂粒混入 | 外面は口辺部横まで、体部へラ削り。<br>内面は口辺部横まで、体部まで調整。   |
| 2        | 土師器<br>高環 | 復元胴部径<br>15.4<br>遺存高<br>9.7            | 胴部1/5 遺存        | 外面 茶褐色<br>内面 暗褐色 | 良好 | 雲母、白色粒<br>粗砂粒混入 | 外面はち密なへら削き調整。<br>内面は裾部横まで、体部へラなどで整形。   |
| 3        | 土師器<br>甕  | 口径<br>12.6<br>遺存高<br>14.0              | 口縁-胴部<br>ほぼ全周   | 内外面<br>暗褐色       | 良好 | 雲母、白色粒<br>粗砂粒混入 | 外面は口辺部横まで、胴部は斜方向のへら削り後などで調整。内面は口辺部横まで、胴部はへらなどで調整。内面胴部下位に二次焼成による割罫が見られる。                                |
| 4        | 土師器<br>環  | 口径<br>12.7<br>器高<br>4.0                | ほぼ全形            | 内外面<br>暗褐色       | 良好 | 雲母、粗砂粒混<br>入    | 外面は口辺部横まで、体部へラ削り後などで調整。内面はち密なへら削き調整。内面に「X」のへら文字が焼成前に書かれている。また内面に部分的な黒色処理の痕跡が見られるが、失敗したと思われるため、図示しなかった。 |
| 5        | 土師器<br>甕  | 口径<br>8.0<br>底径<br>3.3<br>遺存高<br>3.3   | 底部-立ち上がり部分全周    | 内外面<br>暗褐色       | 良好 | 雲母、白色粒<br>粗砂粒混入 | 外面はへら削り後などで調整。内面は二次焼成による割罫が著しいため不明。  |
| 6        | 土師器<br>甕  | 口径<br>18.4<br>底径<br>9.8<br>器高<br>26.1  | 全形              | 内外面<br>暗褐色       | 良好 | 雲母、白色粒<br>粗砂粒混入 | 外面は口辺部横まで、胴部へラ削り後などで調整。内面は口辺部横まで、胴部へらなどで調整。明確な二次焼成等の使用痕跡は見られなかった。                                      |
| 7        | 土製品<br>支脚 | 全長<br>19.1<br>最大幅<br>5.8<br>厚さ<br>3.0  | 全形              | 暗褐色              | -  | 雲母、白色粒<br>粗砂粒混入 | 全て整形によって仕上げている。  |
| 8        | 土製品<br>支脚 | 遺存長<br>14.0<br>最大幅<br>6.0<br>厚さ<br>5.5 | 上部欠損            | 暗褐色              | -  | 雲母、白色粒<br>粗砂粒混入 | 全て整形によって仕上げている。  |





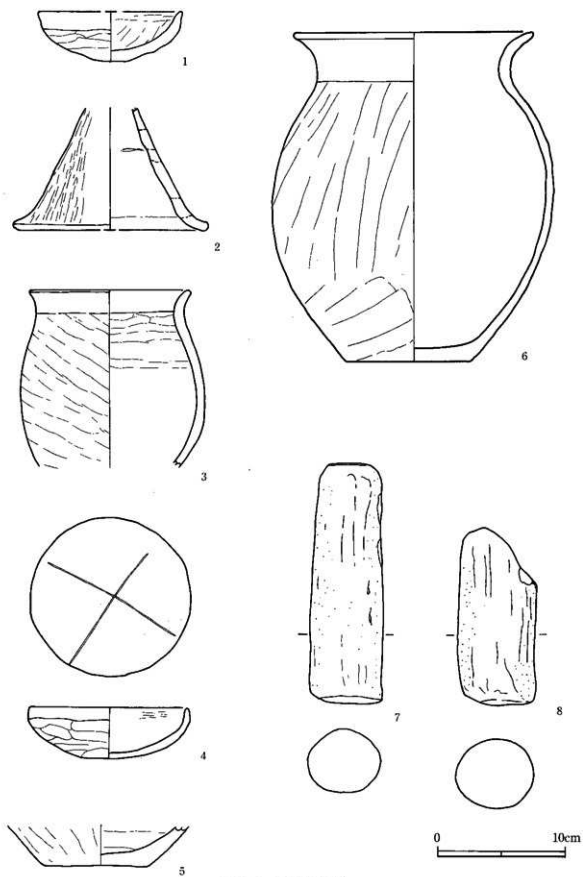
#### 07D土層説明

1. 黒褐色土 2mm大のローム粒全体を含む。
2. 茶褐色土 ローム粒中に暗褐色土混入。纏まっている。
3. 黒褐色土 1層類似。黒色土多く含む。
4. 茶褐色土 ローム、黒色土混入層。2~3mm大ローム粒全体を含む。ロームブロック点在。
5. 茶褐色土 4層類似。ロームブロック全体を含む。
6. 茶褐色土 黒色土の混入多い。
7. 黒褐色土 2~3mm大ローム粒全体を含む。
8. 茶褐色土 ロームブロック、ローム粒、黒色土混入層。
9. 茶褐色土 ロームブロック、ローム粒混入層。
10. 茶褐色土 ローム、黒色土混入層。1~2mm大ローム粒混入。
11. 新褐色土 10層類似。ロームブロック混入。

#### 07Dカマド土層説明

1. 暗褐色土 淡褐色砂質粘土。ローム粒混入。
2. 淡茶褐色土 淡褐色砂質粘土。ローム粒、焼土粒、暗褐色土混入。
3. 淡茶褐色土 淡褐色砂質粘土。ローム粒混入層。
4. 淡茶褐色土 3層類似。焼土ブロック混入。
5. 赤褐色土 焼土粒。淡褐色砂質粘土混入層。
6. 暗茶褐色土 焼土粒。暗褐色土混入層。
7. 暗褐色土 ローム粒混入。
8. 褐色土 ローム粒上に暗褐色土混入。
9. 赤褐色土 焼土粒。
10. 赤褐色土 1層類似。黒色土の混入が多い。
11. 茶褐色土 2層類似。黒色土の混入が多い。
12. 淡茶褐色土 淡褐色砂質粘土。ローム、黒色土混入層。
13. 淡赤褐色土 淡褐色砂質粘土。焼土粒、焼土ブロック混入層。

第15図 07D遺構・カマド実測図



第16図 07D出土遺物

### 08D住居跡(第17図 写真図版8)

状況 主軸方向 北側にカマドを想定するとN-55°-W

規模 北東壁1.95m以上, 南東壁6.50m, 南西壁1.43m以上で他は調査区外である。01Mに切られる。

カマド 確認できないが, 北西壁中央に想定できる。

周溝 全周する。幅21~23cm, 深さ7~11cmである。

柱穴 P1, 2, 5が該当する。P2が副柱穴で他が主柱穴と想定できる。深さはP1-77cm, P2-59cm, P5-94cmである。覆土はローム上主体の褐色上で焼土粒, 炭化物を混入する。

貯蔵穴 P3, 4が該当する。P3は57×43cmの楕円形で深さは9cmである。P4は75×55cmの不整形円で深さは6cmである。覆土は柱穴と同様である。

床面 ハードロームを掘り込んで床面としている。硬化部位を特定することはできなかった。

その他 床面に密着して焼土粒, 炭化物混じりの褐色土が検出された。厚さは5~10cmである。

### 08D住居跡出土遺物(第18図)

破片点数は50点出土し, この内1個体を図示した。

| 番号       | 器種       | 寸法 (cm)               | 遺存状態           | 色調               | 焼成 | 胎土                | 手法上の特徴   |
|----------|----------|-----------------------|----------------|------------------|----|-------------------|--|
| 08D<br>1 | 土師器<br>甕 | 復元胴部径 18.4<br>遺存高 7.8 | 胴~胴部<br>1/5 遺存 | 外面 暗褐色<br>内面 淡褐色 | 良好 | 少量の雲母, 白色粒, 粗砂粒混入 | 外面は口辺部横まで, 胴部へつ削り, 内面は口辺部横まで, 胴部へつ削りなどで調整を施す。長胴部の胴部と想定できる。 |

### 09D住居跡(第17図 写真図版8)

状況 主軸方向 北側にカマドを想定するとN-53°-W

規模 北東壁1.75m以上, 南東壁6.95m, 南西壁0.9m以上で他は調査区外である。01Mに切られる。

カマド 確認できないが, 北西壁中央に想定できる。

周溝 全周する。幅20~26cm, 深さ7~10cmである。

柱穴 P1, 2が該当する。P2が副柱穴で他が主柱穴と想定できる。深さはP1-72cm, P2-39cmである。覆土はローム, 黒色土の混じった暗褐色土である。

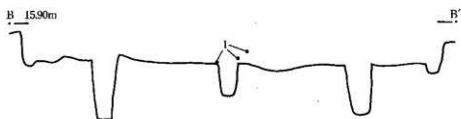
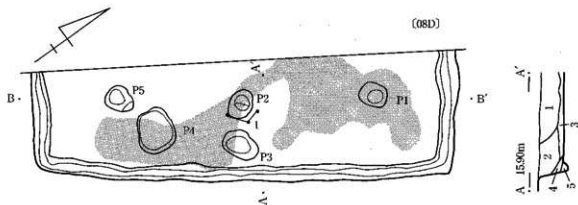
貯蔵穴 検出されなかった。

床面 ハードロームを掘り込んで床面としている。硬化部位を特定することはできなかった。

### 09D住居跡出土遺物(第18図 写真図版27)

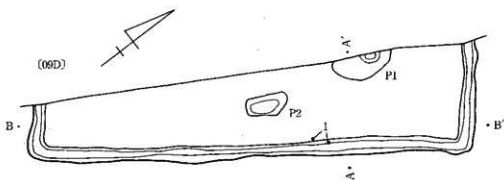
破片点数は50点出土し, この内2個体を図示した。

| 番号       | 器種          | 寸法 (cm)             | 遺存状態            | 色調                | 焼成 | 胎土             | 手法上の特徴                       |
|----------|-------------|---------------------|-----------------|-------------------|----|----------------|------------------------------|
| 09D<br>1 | 土師器<br>甕    | 復元L径 9.3<br>遺存高 3.7 | L径~胴部<br>1/3 遺存 | 外面 暗褐色<br>内面 暗褐色  | 良好 | 雲母, 白色粒, 粗砂粒混入 | 内外面ち密なへつ磨き。いわゆるまり形の器形と想定できる。 |
| 2        | 土師器<br>手すくね | L径 8.2<br>器高 5.3    | ほぼ定形            | 外面 淡茶褐色<br>内面 暗褐色 | 良好 | 雲母, 白色粒, 粗砂粒混入 | 内外面磨削による押江となで整形。指紋痕跡が明確。     |



08D土層説明

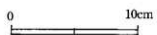
1. 褐色土 ローム上に暗褐色土、ロームブロック少量混入。
2. 褐色土 ローム上に2~3mm大ローム粒混入。ロームブロック少量混入。ほそぼそする。
3. 褐色土 ローム、暗褐色土混入層。炭化層。炭土混入。粘まっている。
4. 暗褐色土 黒色土少量混入。
5. 褐色土 暗褐色土少量混入。ほそぼそする。



09D土層説明

1. 暗褐色土 黒色土、2~3mm大ローム粒混入層。
2. 褐色土 1層物状。ローム粒、ロームブロック混入。
3. 褐色土 ローム、黒色土混入層。非常に粘まっている。
4. 暗褐色土 黒色土主にローム粒少量混入。ふわふわしている。
5. 褐色土 ロームブロック、黒色土混入層。粘まっている。

第17図 08D、09D遺構実測図



第18图 08D. 09D出土遺物

10D住居跡(第19図 写真図版9)

状況 主軸方向 N-44°-W

規模 北東壁4.90m, 南東壁4.90m, 南西壁4.77m, 北西壁4.75mのほぼ方形プランである。01M及び後世のイモアナに切られる。

カマド 北西壁中央に位置する。両袖ともよく遺存している。袖部の構築は基底部に淡褐色粘土を袖状に張り付け部分的に淡褐色砂質粘土と焼土ブロックの混合土、上部に暗褐色砂質粘土をのせる。燃焼部の掘り込みは床面から4~6cmである。強く焼けた底面は袖部前面に位置する。煙道部は燃焼部奥で一度平らになって角度をもって立ち上がる。壁からの掘り込みは22cmで、U字状に掘られる。

周溝 全周する。幅22~30cm, 深さ8~12cmである。構築は左袖部では脇まで、右袖部では袖下まで掘られる。

柱穴 P1, 2が該当する。P1, 2共主柱穴と想定できる。深さはP1-76cm, P2-44cmである。覆土は暗褐色土から黒褐色土でロームブロックを混入している。

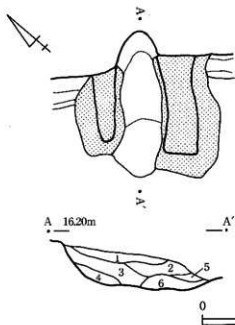
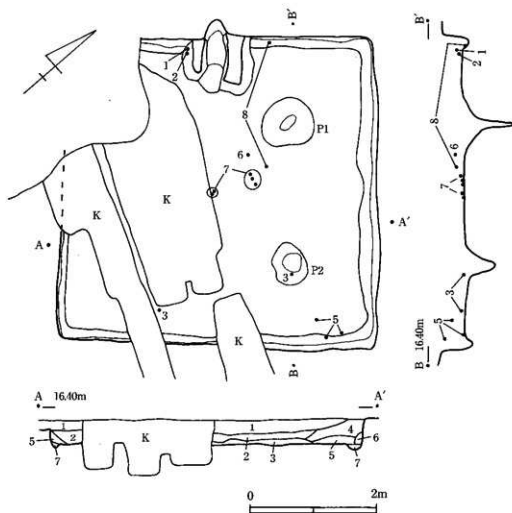
貯蔵穴 検出されなかった。

床面 ハードロームを掘り込んで床面としている。硬化部位を特定することはできなかった。

10D住居跡出土遺物(第20図 写真図版27)

破片点数は156点出土し、この内9個体を図示した。カマド左袖脇に土師器環が2枚重なった状態で出土している。

| 番号       | 器種        | 寸法(cm)           | 遺存状態               | 色調               | 焼成          | 胎土         | 手法上の特徴                 |   |   |
|----------|-----------|------------------|--------------------|------------------|-------------|------------|------------------------|---|---|
| 10D<br>1 | 土師器<br>環  | 口径<br>器高         | 11.4<br>3.8        | 口辺部<br>1/3欠損     | 内外面<br>黒灰色  | 良好         | 雲母、白色粒<br>粗砂粒混入        | 外面は口辺部ヘラ磨き、体部ヘラ削り。内面はち密なヘラ磨き調整。両面黒色処理を施す。                             |   |
| 2        | 土師器<br>環  | 口径<br>器高         | 12.1<br>4.6        | ほぼ完形             | 内外面<br>茶褐色  | 良好         | 雲母、白色粒<br>粗砂粒混入        | 外面は口辺部横まで、体部ヘラ削り。内面は丁寧なヘラ調整を施す。カマド袖脇から1と重なった状態で出土した。                  |   |
| 3        | 土師器<br>環  | 復元口径<br>器高       | 13.4<br>3.9        | 口縁~体部<br>1/4遺存   | 外向<br>内面    | 暗茶褐色<br>褐色 | 良好                     | 白色粒、粗砂粒<br>混入   | 口辺部内外面及び体部内面は横まで、体部外面はヘラ削り調整。口縁部内面に一条の細い沈線が見られる。また、内面に二次焼成による割線が見られる。右段口縁部。           |
| 4        | 土師器<br>環  | 復元口径<br>器高       | 12.4<br>4.0        | 口縁~体部<br>1/3遺存   | 内外面<br>淡褐色  | 良好         | 白色粒、粗砂粒<br>混入          | 口辺部内外面及び体部内面は横まで、体部外面はヘラ削り調整。口縁部内面に一条の細い沈線が見られる。また、内面に二次焼成による割線が見られる。 |   |
| 5        | 土師器<br>環  | 復元口径<br>器高       | 13.4<br>4.8        | 口縁~体部<br>1/3遺存   | 外面<br>内面    | 暗茶褐色<br>褐色 | 良好                     | 白色粒、粗砂粒<br>混入   | 口辺部内外面及び体部内面は横まで、体部外面はヘラ削り調整。内面は通常の光沢状となる黒色処理とは違う黒彩?がみられる。また、内面に二次焼成による割線が見られる。右段口縁部。 |
| 6        | 土師器<br>鉢  | 口径<br>底径<br>器高   | 17.6<br>6.6<br>9.4 | 口縁~体部<br>1/3欠損   | 内外面<br>淡茶褐色 | 良好         | 雲母、白色粒<br>粗砂粒混入        | 外面は口辺部横まで、体部ヘラ削り。内面はヘラ削り調整。   |   |
| 7        | 土師器<br>釜  | 底径<br>遺存高        | 7.5<br>5.6         | 底部~立ち上がり<br>部分全周 | 内外面<br>淡褐色  | 良好         | 白色粒、粗砂粒<br>混入          | 外面はヘラ削り後で調整。内面はなで調整。外面に黒の沈線がわずかに見られる。内面は二次焼成による割線が顕著。                 |   |
| 8        | 土製品<br>支脚 | 遺存長<br>最大幅<br>厚さ | 8.6<br>5.0<br>4.8  | 先端部のみ<br>全周遺存    | 淡褐色         |            | 少数の雲母<br>白色粒、粗砂粒<br>混入 | なで整形によって仕上げている。   |   |



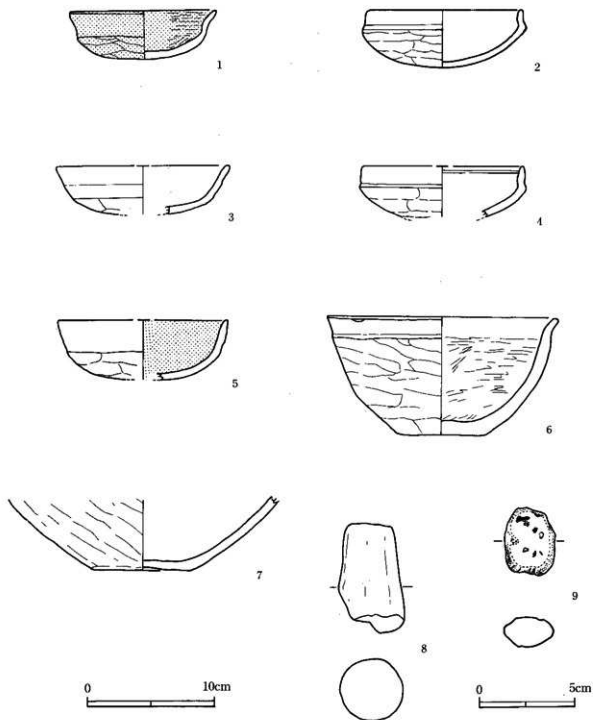
#### 10D土層説明

1. 暗褐色土 黒色土、ローム粒混合層。2~3mm大ローム粒全体に含む。
2. 暗褐色土 1層割位。1~2cm大ロームブロック点在。
3. 褐色土 ローム、ロームブロック混合層。暗褐色土少量含む。
4. 褐色土 2層割位。黒色土の混入少ない。
5. 褐色土 暗褐色土、ローム粒混合層。1~2mm大ローム粒点在。
6. 暗褐色土 黒色土、暗褐色土混合層。ロームブロック混入。
7. 褐色土 ローム、ロームブロック混合層。

#### 10Dカマド土層説明

1. 暗褐色土 淡褐色砂質粘土混入。
2. 暗褐色土 淡褐色砂質粘土、焼土粒混合層。
3. 暗褐色土 淡褐色砂質粘土、焼土粒、黒色土混合層。
4. 褐色土 ローム、淡褐色砂質粘土混合層。
5. 暗赤褐色土 焼土粒、淡褐色砂質粘土混合層。
6. 赤褐色土 焼土粒、焼土ブロック、ロームブロック混合層。

第19図 10D遺構・カマド実測図



第20図 10D出土遺物

単位 (cm)

| 番号       | 器種        | 石材 | 長さ  | 幅   | 厚さ  | 重さ (g) | 備考             |
|----------|-----------|----|-----|-----|-----|--------|----------------|
| 10D<br>9 | 石製品<br>硯石 | 軽石 | 3.4 | 2.6 | 1.5 | 6.7    | 両面に研磨の痕跡が見られる。 |



1 2 D 住居跡 (第21, 22 図 写真図版10~12)

状 況 主軸方向 N-56°-W

規 模 北東壁6.05m, 南東壁5.65m, 南西壁5.42m, 北西壁5.50mのややいびつな方形プランである。01Mと後世のイモアナに切られる。

カマド 北西壁中央に位置している。両袖ともよく遺存している。袖部の構築は基底部に淡褐色粘土を袖状に張り付け上部に焼上り淡褐色砂質粘土の混合土をのせる。天井部はスサ入り粘土を使用しており、崩落した状態で検出された。燃焼部の掘り込みは床面から6~8cmである。強く焼けた底面は袖部前面に位置する。煙道部は燃焼部奥で一度平らになって角度をもって立ち上がる。壁からの掘り込みは26cmで、じ字状に掘られる。

周 溝 幅20~26cm, 深さ3~10cmである。覆上は暗褐色土に炭化粒, 焼土ブロックを混入する。ほぼ全周すると想定できる。カマド部分では左袖脇と右袖下まで及んでいる。

柱 穴 P1~5が該当する。P3が副柱穴で他が主柱穴と想定できる。深さはP1-60cm, P2-81cm, P3-66cm, P4-68cm, P5-66cmである。主柱穴の覆土は上層で黒褐色土~暗褐色土, 下層で褐色土である。両方の層において炭化物, 焼土粒等の混入が見られた。

貯蔵穴 検出されなかった。

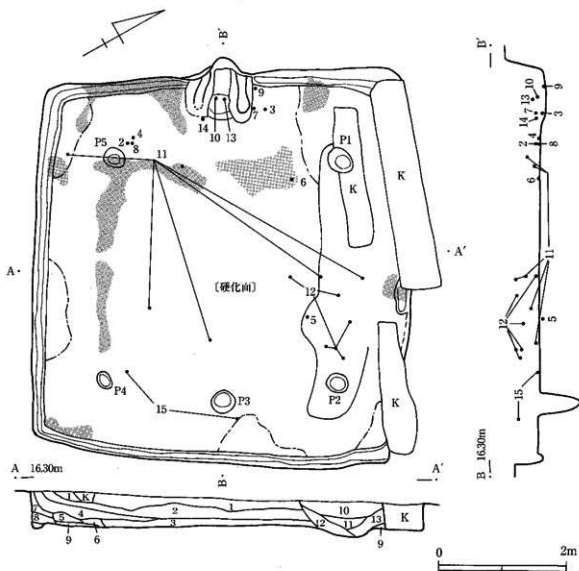
床 面 ハードルームを25cm程度掘り込んで床面としている。周縁を除いてよく締まっている。

その他 壁際からやや内側に焼土, 炭化材が検出された。床面に密着し, 厚さは5~10cmである。

1 2 D 住居跡出土遺物 (第23~25図 写真図版28, 29)

全体で500点出土し, この内15個体を図示した。明確に本遺構に伴う遺物は, カマド右袖脇に出土した3, 9とカマド前に意図した遺棄状態で出土した2, 4, 8, カマド上に遺棄された10, 13, その他床面直上遺物として, 5, 6, 7, 14, 15があげられる。一括遺物として位置づけされる。

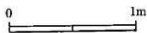
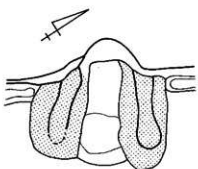
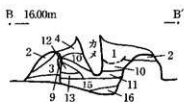
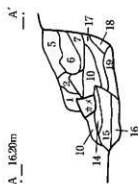
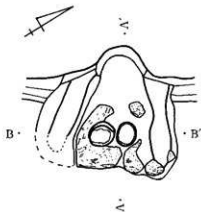
| 番号       | 器種         | 寸法 (cm)             | 遺存状態                | 色 調             | 焼 成               | 胎 土 | 手 法 上 の 特 徴               |   |
|----------|------------|---------------------|---------------------|-----------------|-------------------|-----|---------------------------|---|
| 12D<br>1 | 須恵器<br>壺坏蓋 | 口径<br>器高            | 10.6<br>4.1         | 定形              | 内外面<br>暗青灰色       | 良好  | 長石粒, 白色粒<br>混入            | 天井部切磨しは回転ヘラ削り未調整。   |
| 2        | 須恵器<br>壺坏蓋 | 口径<br>器高            | 10.2<br>4.0         | 定形              | 内外面<br>淡青灰色       | 良好  | 長石粒, 白色粒<br>混入            | 天井部及び縁部回転ヘラ削り調整。<br>切磨しは不明。4とセット関係にある。  |
| 3        | 須恵器<br>壺坏身 | 口径<br>胴径<br>器高      | 8.8<br>10.6<br>3.4  | 定形              | 内外面<br>淡青灰色       | 良好  | 長石粒, 白色粒<br>混入            | 底部一体部下端回転ヘラ削り調整。切磨し<br>は不明。口縁部立ち上がりはオリコミ手法<br>による。                                |
| 4        | 須恵器<br>壺坏身 | 口径<br>胴径<br>器高      | 8.6<br>10.4<br>3.1  | ほぼ定形            | 内外面<br>淡青灰色       | 良好  | 長石粒, 白色粒<br>混入            | 底部一体部下端回転ヘラ削り調整。切磨し<br>は不明。口縁部立ち上がりはオリコミ手法<br>による。内面に煤状物が付着する。                    |
| 5        | 須恵器<br>壺坏身 | 復元口径<br>復元胴径<br>遺存高 | 12.6<br>14.7<br>3.5 | 口縁一体部<br>1/6 遺存 | 内外面<br>淡青灰色       | 良好  | 長石粒, 白色粒<br>混入            | 体部中位回転ヘラ削り調整。口縁部立ち上<br>がりはオリコミ手法による。  |
| 6        | 土師器<br>環   | 口径<br>器高            | 12.7<br>3.0         | 口縁及び体部<br>一部欠損  | 内外面<br>赤褐色        | 良好  | 雲母, 白色粒<br>粗砂粒混入          | 外面は口辺部横なで, 体部ヘラ削り。<br>内面はヘラなどで後磨き調整。  |
| 7        | 上野器<br>鉢   | 復元口径<br>復元底径<br>器高  | 14.9<br>8.6<br>8.7  | 口縁一体部<br>1/3 遺存 | 外面 暗褐色<br>内面 赤褐色  | 良好  | 雲母, 白色粒<br>粗砂粒混入          | 外面は口辺部横なで, 体部ヘラ削り後なで<br>調整。内面はヘラなどで後磨き状<br>なで調整を施す。                               |
| 8        | 土師器<br>壺   | 口径<br>底径<br>器高      | 24.8<br>8.7<br>25.5 | 口縁部<br>1/3 欠損   | 外面 淡茶褐色<br>内面 暗褐色 | 良好  | 雲母, 白色粒<br>長石粒, 粗砂粒<br>混入 | 口辺部内外面横なで, 体部ヘラ削り後磨き<br>状なで調整。内面はヘラなどで後磨き状<br>なで調整を施す。単孔式取。2, 4の上に<br>器体を依りて出土した。 |



第21図 12D遺構実測図

12D土層説明

1. 暗褐色土 黒色土中にローム粒混入。2～3mm大ローム粒全体を含む。
2. 黒褐色土 黒色土中。2～3mm大ローム粒全体を含む。
3. 暗褐色土 黒色土。ローム粒混入。炭化粒。2～3mm大ローム粒全体を含む。
4. 暗褐色土 2層類似。ローム粒少量混入。
5. 褐色土 ローム。暗褐色土混入。ロームブロック点在。
6. 暗未褐色土 雑土粒中に暗褐色土少量混入。
7. 茶褐色土 ローム。暗褐色土混入。2～3mm大ローム粒点在。
8. 茶褐色土 7層類似。暗褐色土の混入が少ない。
9. 暗黄褐色土 ロームブロック。暗褐色土混入。
10. 暗褐色土 暗褐色土。黒色土混入。2～3mm大ローム粒全体を含む。
11. 暗褐色土 10層類似。黒色土の混入が少ない。
12. 暗褐色土 10層類似。黒色土の混入が多い。
13. 暗褐色土 10層類似。雑土ブロック混入。

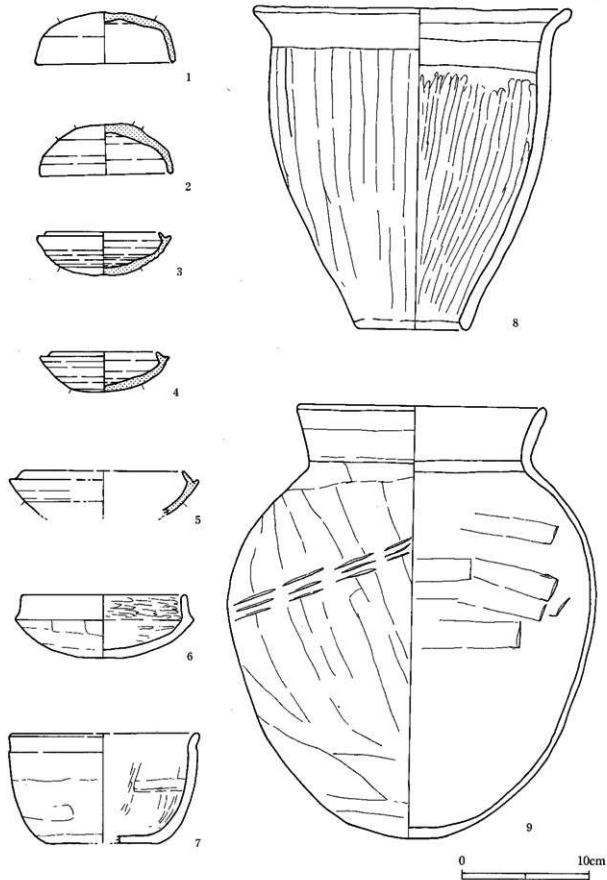


第22図 12Dカマド実測図

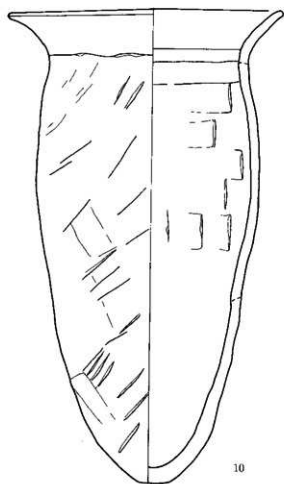
12Dカマド土層説明

1. 暗褐色土 黒色土中に淡褐色砂質粘土混入。
2. 暗赤褐色土 淡褐色砂質粘土、焼土粒混合層。
3. 赤褐色土 淡褐色砂質粘土、焼土粒混合層。
4. 暗褐色土 暗褐色土、焼土ブロック混合層。
5. 暗褐色土 淡褐色砂質粘土、暗褐色土混合層。
6. 暗赤褐色土 3層類似。暗褐色土を含む。
7. 暗赤褐色土 6層類似。暗褐色土やや少ない。
8. 褐色土 ローム、淡褐色砂質粘土混合層。
9. 赤褐色土 3層類似。黒色土を含む。
10. 赤褐色土 淡褐色砂質粘土+スサ入り粘土、焼土粒混入。
11. 淡赤褐色土 3層類似。淡褐色砂質粘土がやや多い。
12. 赤褐色土 3層類似。焼土粒やや多い。
13. 暗赤褐色土 淡褐色砂質粘土、焼土粒、暗褐色土混合層。
14. 赤褐色土 淡褐色砂質粘土、焼土粒、焼土ブロック混合層。
15. 褐色土 ローム粒、淡褐色砂質粘土混合層。
16. 褐色土 ロームブロック、焼土ブロック混合層。
17. 暗赤褐色土 黒色土、焼土ブロック中に淡褐色砂質粘土、焼土粒少量混入。
18. 褐色土 15層類似。
19. 暗褐色土 黒色土中に焼土粒少量混入。

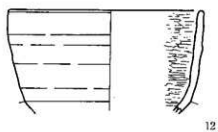
| 番号       | 器種       | 寸法 (cm)                         | 遺存状態 | 色調         | 焼成 | 胎土                      | 手法上の特徴   |
|----------|----------|---------------------------------|------|------------|----|-------------------------|--|
| 12D<br>9 | 土師器<br>甕 | 口径 19.2<br>最大胴径 29.0<br>器高 34.1 | 完形   | 内外面<br>淡褐色 | 良好 | 雲母、白色粒<br>長石粒、黒色粒<br>混入 | 口辺部内外面様なで、体部ヘラ削り後なで調整。内面はヘラなどで後丁寧なで調整を施す。口辺部中段に一条の浅い沈線がめぐる。胴部外面中位～上位及び胴部内面中位に煤の付着が見られる。カマド脇から南上した。 |
| 10       | 土師器<br>甕 | 口径 22.7<br>器高 37.5              | ほぼ完形 | 内外面<br>淡褐色 | 良好 | 雲母、白色粒<br>長石粒、黒色粒<br>混入 | 口辺部内外面様なで、体部ヘラ削り後なで調整。内面はヘラなどで後丁寧なで調整を施す。胴部外面中位に砂質粘土の付着が見られる。カマドに立て掛けられた状態で出土した。長胴型。               |



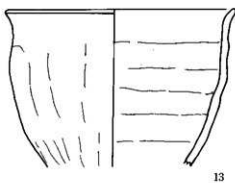
第23図 12D出土遺物(1)



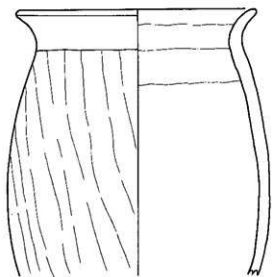
10



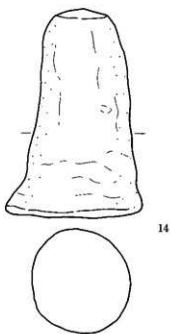
12



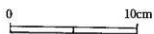
13



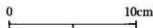
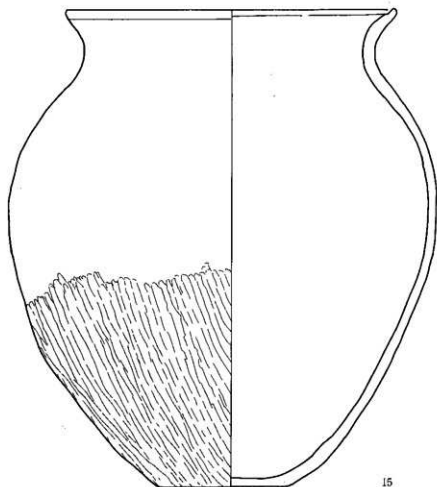
11



14



第24図 12D出土遺物(2)



第25図 12D出土遺物(3)

| 番号        | 器種        | 寸法 (cm)                       | 遺存状態                    | 色調                | 焼成   | 胎土                      | 手法上の特徴  |
|-----------|-----------|-------------------------------|-------------------------|-------------------|------|-------------------------|---|
| 12D<br>11 | 土師器<br>甕  | 口径 18.6<br>遺存高 21.6           | 口径～胴部中心<br>にかけてほぼ全<br>周 | 内外面<br>褐色         | やや不良 | 雲母、白色粒<br>粗砂粒混入         | 口辺部内外面横なで、体部外面へラ削り調<br>整。内面はへらなで後丁寧なで調整を施<br>す。   |
| 12        | 土師器<br>鉢  | 口径 15.4<br>遺存高 8.2            | 口径～体部<br>2/3 遺存         | 外面 淡茶褐色<br>内面 淡褐色 | 良好   | 雲母、白色粒<br>粗砂粒混入         | ロクロ使用。口辺部内外面横なで、体部<br>外面回転へラ削り調整。内面は横なで後丁<br>字なへら磨き調整を施す。流し入物。  |
| 13        | 土師器<br>甕  | 口径 17.7<br>遺存高 12.3           | 口径～胴部中心<br>にかけてほぼ全<br>周 | 内外面<br>茶褐色        | 良好   | 雲母、白色粒<br>長石粒、黒色粒<br>混入 | 口辺部内外面横なで、体部外面へラ削り調<br>整。内面はへらなで調整を施す。  |
| 14        | 土製品<br>支脚 | 全長 16.4<br>最大幅 10.7<br>厚さ 8.1 | ほぼ完形                    | 淡褐色               | —    | 雲母、白色粒<br>粗砂粒混入         | なで整形によって仕上げている。縦方向に<br>削ったもしくは割られた状態で埋れて出土<br>している。   |
| 15        | 土師器<br>甕  | 口径 26.2<br>底径 10.2<br>高 37.8  | ほぼ完形                    | 内外面<br>淡褐色        | 良好   | 雲母、白色粒<br>長石粒、粗砂粒<br>混入 | 口辺部内外面横なで、体部外面へらなで調<br>整。下位において約 5 ～ 7 mm の粗いへら<br>削りを丁寧なで施す。内面はなで調整。<br>口縁部内面わずかにつまみあげて受け部<br>をつくっている。内面の器面剥離が顕著で<br>ある。 |

### 13BD住居跡（第26図 写真図版13、14）

状況 主軸方向 N-46°-W

規模 北東壁3.48m以上，南東壁は調査区外，南西壁6.98m，北西壁6.85mのほぼ方形プランである。02H，13AD，13CDに切られる。

カマド 北西壁中央に位置する。両袖ともよく遺存している。袖部の構築は左袖が基底部に淡褐色粘土を張り付け，その上に淡褐色砂質粘土と黒色土を互層している。右袖は基底部に砂質粘土を張り付け，その上にローム+焼土，淡褐色砂質粘土，暗褐色土+淡褐色砂質粘土をのせている。燃烧部の掘り込みは当初15cm程度掘り込んでいるが，褐色砂質粘土を3cmしいてかさあげしている。煙道部は燃烧部奥から傾斜をもって立ち上がる。壁からの掘り込みは21cmで，U字状に掘られる。

周溝 幅20～30cm，深さ7～9cmである。覆土は褐色土にロームブロックを混入している。13AD，13CDによるカクランのため一部検出されないが，全周していたと想定できる。周溝の掘削は袖部下で止まっている。

柱穴 P1～5，7が該当する。P2が副柱穴で他が主柱穴と想定できる。深さはP1-59cm，P2-4cm，P3-49cm，P4-64cm，P5-40cm，P7-61cmである。主柱穴の覆土は上層でローム粒混じりの黒褐色土，下層で黒色土混じりの褐色土である。

まじ切り溝 P6が該当する。南西壁に直交して長さ1.4m，幅0.3m，深さ16cmの規模をもつ。覆土は黒色土とローム粒を含む暗褐色土上で1～2cmのロームブロックを含んでいる。

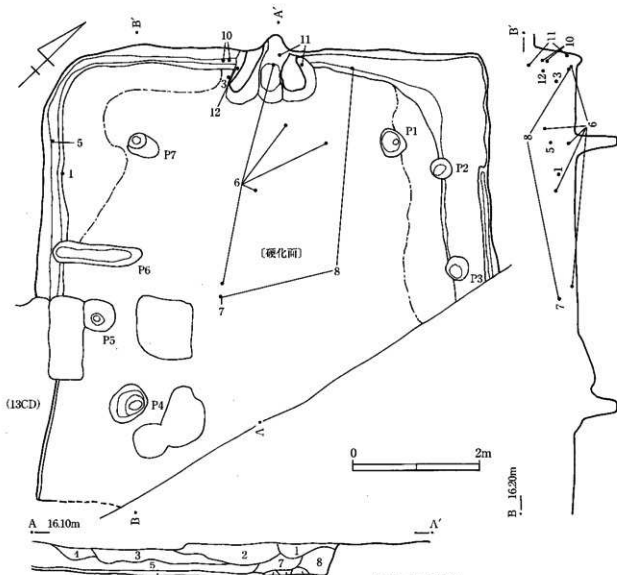
貯蔵穴 検出されなかった。

床面 ハードロームを15cm程度掘り込んで床面としている。カマド前面において締まっている。

### 13BD住居跡出土遺物（第27図 写真図版29）

全体で276点出土し，この内12個体を図示した。

| 番号    | 器種         | 寸法 (cm)                          | 遺存状態             | 色調                 | 焼成 | 胎土                         | 手法上の特徴  |
|-------|------------|----------------------------------|------------------|--------------------|----|----------------------------|---|
| 13BD1 | 須恵器<br>蓋坏身 | 復元口径 14.0<br>復元胴径 16.0<br>器高 4.5 | 口縁～体部<br>1/4 遺存  | 内外面<br>淡青灰色        | 良好 | 灰子細かくも<br>密。白色粒混入          | 体部下端～中位部へラ削り調整。口縁部<br>立ち上がりはオリコ手法による。   |
| 2     | 土師器<br>坏   | 復元口径 13.6<br>器高 4.0              | 口縁～体部<br>1/3 遺存  | 内外面<br>淡黒灰色        | 良好 | 雲母，赤色粒，<br>砂粒と多量の白<br>色粒混入 | 口辺部内外面及び体部内面は横なで，体部<br>外面はへラ削り調整を施す。内面は黒色処<br>理を施す。   |
| 3     | 土師器<br>坏   | 口径 13.2<br>器高 4.2                | 口辺部 1/3<br>体部 全周 | 外面 暗茶褐色<br>内面 淡黒灰色 | 良好 | 少量の雲母，白<br>色粒，砂粒混入         | 口辺部外面は横なで，体部外面はへラ削り<br>調整を施す。内面は軽いへラ削り調整。内<br>面黒色処理が部分的に遺存する。                                     |
| 4     | 土師器<br>坏   | 復元口径 12.8<br>遺存高 4.3             | 口縁～体部<br>1/5 遺存  | 内外面<br>暗褐色         | 良好 | 白色粒，砂粒混<br>入               | 口辺部内外面及び体部内面は横なで，外部<br>外面はへラ削り調整を施す。  |
| 5     | 土師器<br>小型碗 | 復元口径 9.8<br>口径 7.2<br>復元器高 6.0   | 口縁部<br>全周欠損      | 内外面<br>茶褐色         | 良好 | 雲母，白色粒，<br>砂粒混入            | 体部外面はへラ削り調整を施す。内面は<br>粗いので調整。手づくねに近い整形である。  |
| 6     | 土師器<br>碗   | 口径 7.8<br>遺存高 8.5                | 底部～胴部<br>ほぼ全周    | 外面 黒灰色<br>内面 淡褐色   | 良好 | 雲母，白色粒，<br>砂粒混入            | 胴部外面はへラ削り残なで調整。底部内面<br>は立ち上がり部分へラ削り調整。胴部はへ<br>らなで後丁字なで調整。穿孔式の板瓦部。<br>接合はしないが，胎十から見たと10と同一<br>個体か。 |
| 7     | 土師器<br>甕   | 復元口径 18.6<br>遺存高 8.0             | 口縁～胴部<br>1/2 遺存  | 内外面<br>淡褐色         | 良好 | 雲母，長石，砂<br>粒，少量の白色<br>粒混入  | 口辺部内外面及び胴部内面横なで調整。<br>胴部外面はへラ削り調整。  |

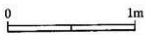
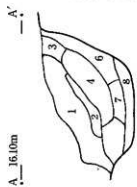
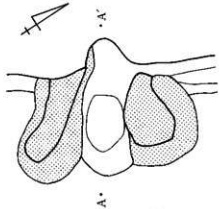


13BD土層説明

1. 暗褐色土 黒色土。ローム粒混入層。1-2mm大ローム粒混入。
2. 褐色土 1層細粒。黒色土の混入少ない。
3. 黒褐色土 1層細粒。黒色土の混入多い。
4. 褐色土 ローム粒主に黒色土少量混入。締まっている。
5. 褐色土 ローム主に暗褐色土。ロームブロック少量混入。締まっている。
6. 褐色土 ローム主に暗褐色土混入。締まっている。
7. 黒褐色土 1-2mm大ローム粒。炭化粒混入。ややふわふわする。
8. 黒褐色土 7層類似。ローム粒の混入少ない。
9. 暗褐色土 淡褐色砂質粘土。暗褐色土混入層。

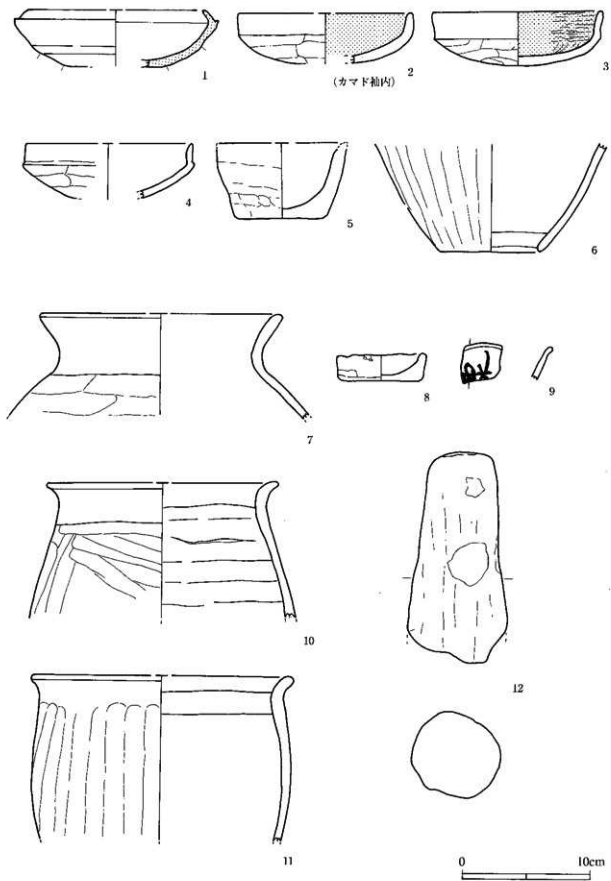
13BDカマド土層説明

1. 暗褐色土 淡褐色粘土。暗褐色土混入層。
2. 黒褐色土 淡褐色砂質粘土少量混入。
3. 暗褐色土 淡褐色砂質粘土少量混入。
4. 淡褐色土 淡褐色砂質粘土。
5. 暗赤褐色土 炭上粒。炭上ブロック混入層。淡褐色砂質粘土少量混入。
6. 暗褐色土 炭化粒主に淡褐色砂質粘土少量混入。
7. 赤褐色土 淡褐色砂質粘土。炭上ブロック混入層。
8. 褐色土 褐色粘土。



第26図 13BD遺構・カマド実測図





第27図 13BD出土遺物

| 番号        | 器種          | 寸法 (cm)                        | 遺存状態             | 色調          | 焼成 | 胎土             | 手法上の特徴  |
|-----------|-------------|--------------------------------|------------------|-------------|----|----------------|---|
| 13BD<br>8 | 上脚器<br>手づくね | 口径 7.0<br>底径 6.3<br>器高 2.2     | 口縁端部一部<br>欠損     | 内外面<br>淡茶褐色 | 良好 | 少量の雲母、白色粒、砂粒混入 | 内外面まで整形。  |
| 9         | 上脚器<br>坏    | —                              | 口辺部一部            | 内外面<br>淡黄褐色 | 良好 | 雲母、白色粒、砂粒混入    | 口辺部外面に「西水」もしくは「聚」の墨書が書かれている。混入遺物。                                     |
| 10        | 上脚器<br>甕    | 復元口径 18.4<br>遺存高 10.7          | 口縁～胴部<br>2/3 遺存  | 内外面<br>淡黄褐色 | 良好 | 雲母、白色粒、砂粒混入    | 口辺部内外面横線で調整。胴部外面は斜位と縦位のヘラ削り調整。胴部内面はヘラなどで調整。口辺部外面に傷状の痕跡が明確である。6と同一個体か。 |
| 11        | 土師器<br>甕    | 復元口径 20.2<br>遺存高 13.0          | 口縁～胴部<br>1/2 欠遺存 | 内外面<br>淡黄褐色 | 良好 | 雲母、白色粒、砂粒混入    | 口辺部内外面横線で調整。胴部外面は縦位のヘラ削り調整。胴部内面はヘラなどで調整後丁寧な調整を施す。                     |
| 12        | 土製品<br>文罫   | 遺存長さ 16.6<br>最大幅 7.8<br>厚さ 7.0 | 下部欠損             | 淡茶褐色        | —  | 雲母、白色粒、砂粒混入    | なで整形によって仕上げている。カマド左柱上から出土した。  |

#### 14D住居跡 (第28図 写真図版15)

状況 主軸方向 硬化面の方向から想定すると E-58° - S

規模 北東壁2.65m, 南東壁2.9m, 南西壁2.62m, 北西壁2.94mのやや南北に長い隅丸方  
形プランである。02H, 34P, 35Pに切られる。

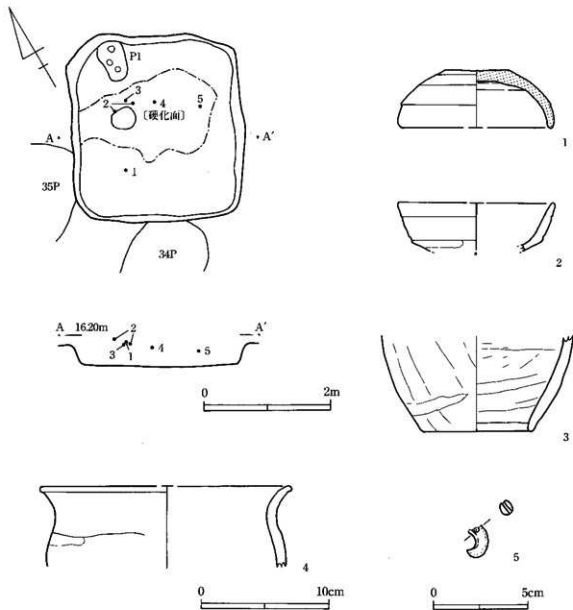
その他の施設は検出されなかった。炉等の焼土痕跡も見られなかった。P1は深さ7～9cm  
の規模である。

床面 ハードルームを掘り込んで床面としている。北西壁中央から直線状に硬化面が見られる。

#### 14D住居跡出土遺物 (第28図 写真図版29)

全体で62点出土し、この内5点を図示した。

| 番号       | 器種         | 寸法 (cm)               | 遺存状態              | 色調                | 焼成   | 胎土              | 手法上の特徴  |
|----------|------------|-----------------------|-------------------|-------------------|------|-----------------|---|
| 14D<br>1 | 須恵器<br>蓋耳蓋 | 復元口径 11.8<br>器高 4.5   | 口縁～天井部<br>約1/2 遺存 | 内外面<br>淡青灰色       | 良好   | 長石粒、白色粒、砂粒混入    | 天井部及び口縁部へラ削り調整。口辺部外面の段は明確である。口縁部内面に幅2mmの沈線がめぐる。     |
| 2        | 上脚器<br>坏   | 復元口径 12.2<br>遺存高 3.7  | 口縁～体部<br>1/4 遺存   | 内外面<br>淡黒灰色       | 良好   | 雲母、長石粒、白色粒、砂粒混入 | 口辺部内外向及び体部内面横線で調整。体部外面はヘラ削り調整を施す。口辺部中に沈線がめぐる。有段口縁坏。 |
| 3        | 土師器<br>瓶   | 復元口径 8.2<br>遺存高 7.6   | 胴部～胴部<br>1/6 遺存   | 外面 淡黒灰色<br>内面 茶褐色 | 良好   | 雲母、白色粒、砂粒混入     | 胴部外面はヘラ削り後丁寧な調整。内面はヘラなどで後丁寧な調整。                     |
| 4        | 土師器<br>甕   | 復元口径 19.8<br>遺存高 6.4  | 口縁～胴部<br>1/4 遺存   | 内外面<br>茶褐色        | 良好   | 雲母、長石粒、白色粒、砂粒混入 | 口辺部内外面横線で調整。胴部外面へラ削り調整を施す。内面はなで調整。                  |
| 5        | 土製品<br>勾玉  | 全長 1.5 最大幅 0.7 孔径 0.2 | 長さ 1.7g           | 先端部欠損             | 焼成良好 | 胎土雲母、白色粒混入      | 丁寧な研磨により全体に丸く仕上げられる。                                |



第28図 14BD遺構・出土遺物

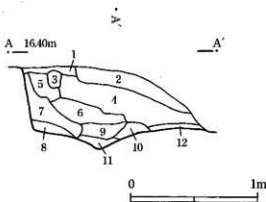
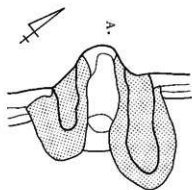
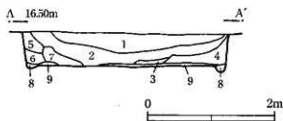
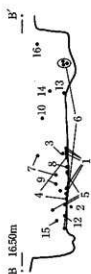
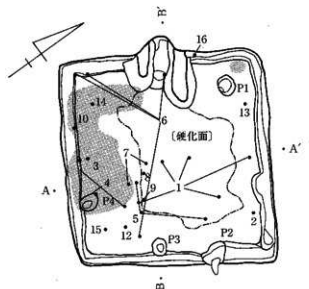
15D住居跡 (第29図 写真図版15)

状況 主軸方向 N-56°-W

規模 北東壁3.26m, 南東壁3.03m, 南西壁3.07m, 北西壁3.15mの方形プランである。

カマド 北西壁中央に位置している。両袖ともよく遺存している。袖部の構茶は基底部に淡褐色砂質粘土を袖状に張り付け、部分的にローム土、黒色土と淡褐色砂質粘土上の混合土をのせている。燃烧部の掘り込みは当初13cm程度掘り下げて、ローム土とロームブロックの混合土を使って8cm程かさあげしている。煙道部は傾斜をもって立ち上がっている。壁からの掘り込みは29cmで緩いU字状に掘られる。

周溝 幅22~30cm, 深さ8~12cmである。覆上はロームブロックを含む褐色土である。住居跡内で全周する。カマド部分では左袖脇と右袖下まで及んでいる。



#### 150土層説明

1. 暗褐色土 ローム粒、黒色土混合層。1mm大ローム粒を含む。
2. 黒褐色土 2-3mm大ローム粒全体を含む。
3. 暗褐色土 ローム粒全体を含む。
4. 暗褐色土 ローム粒、黒色土混合層。炭化粒、焼土粒ごく少量混入。やや軟質。
5. 黒褐色土 ローム粒全体を含む。やや軟質。
6. 暗褐色土 ローム粒、黒色土混合層。やや軟質。
7. 赤褐色土 焼土粒中に炭化物部分的を含む。
8. 褐色土 ローム粒、ロームブロック状褐色土混入層。
9. 褐色土 ローム粒中に暗褐色土混入。締まっている。

#### 150カマド土層説明

1. 暗褐色土 淡褐色砂質粘土混入。
2. 淡褐色土 淡褐色砂質粘土、暗褐色土混入層。
3. 淡褐色土 淡褐色砂質粘土。
4. 暗褐色土 炭化粒、焼土粒混入。
5. 暗褐色土 炭化粒、淡褐色砂質粘土混入。
6. 淡褐色土 淡褐色砂質粘土中に焼土粒ごく少量混入。
7. 暗褐色土 淡褐色砂質粘土、黒色土混入層。炭化粒ごく少量混入。
8. 暗褐色土 7層類似。淡褐色砂質粘土がやや多い。
9. 暗褐色土 淡褐色砂質粘土、焼土粒、暗褐色土混合層。
10. 暗赤褐色土 淡褐色砂質粘土、焼土粒、暗褐色土混合層。
11. 褐色土 ローム、ロームブロック混合層。
12. 褐色土 ローム、暗褐色土混合層。締まっている。

第29図 15D遺構・カマド実測図

柱 穴 小ビットを4口検出したが、不明である。深さはP1-10cm, P2-42cm, P3-12cm, P4-12cmである。覆土は暗褐色上～黒色上で炭化粒、焼土粒を含んでいる。

貯蔵穴 検出されなかった。

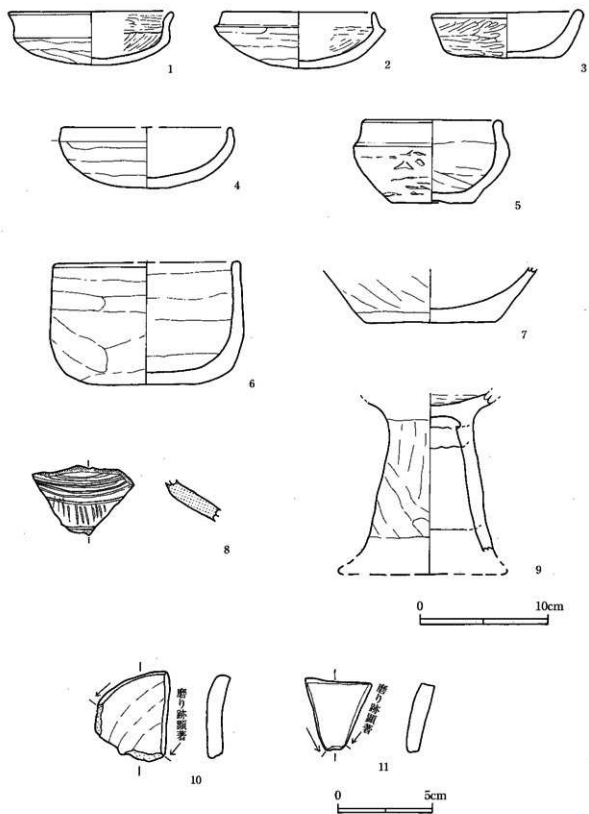
床 面 ハードルームを掘り込んで床面としている。カマド前面において硬化面が見られる。

その他 壁際からやや内側に焼土、炭化材が検出された。床面に密着し、厚さは10～20cmである。

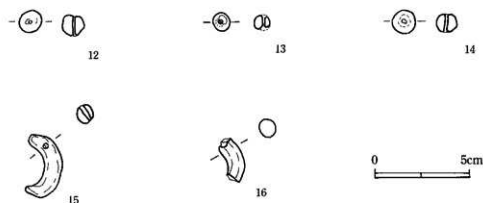
### 15D住居跡出土遺物(第30, 31図 写真図版29, 30)

全体で264点出土し、この内16個体を図示した。

| 番号       | 器種        | 寸法 (cm)                    | 遺存状態               | 色調               | 焼成                 | 胎土              | 手法上の特徴                                   |  |
|----------|-----------|----------------------------|--------------------|------------------|--------------------|-----------------|--|--|
| 15D<br>1 | 土師器<br>杯  | 口径<br>器高                   | 12.6<br>4.3        | ほぼ完形             | 内外面<br>淡茶褐色        | 良好              | 少量の石英、白色粒、砂粒混入                           | 外面は口辺部横などで、体部へラ削り調整を施す。内面は口辺部横位へラ磨き、体部は放射状へラ磨きを施す。 |
| 2        | 土師器<br>杯  | 口径<br>器高                   | 11.9<br>4.6        | ほぼ完形             | 内外面<br>淡茶褐色        | 良好              | 少量の雲母、白色粒、砂粒混入                           | 口辺部内外面横などで、体部外面へラ削り後などで調整を施す。内面はなどで調整後へラ磨きを施す。     |
| 3        | 土師器<br>杯  | 口径<br>底径<br>器高             | 11.4<br>8.7<br>3.7 | 口縁～底部<br>2/3 遺存  | 内外面<br>淡茶褐色        | やや不良            | 少量の雲母、白色粒、砂粒混入                           | 外面は口辺部～体部などで調整後強いへラ磨きを施す。内面は強いなどで調整。               |
| 4        | 土師器<br>杯  | 口径<br>器高                   | 13.2<br>4.8        | 口縁～体部<br>約1/2 遺存 | 内外面<br>暗褐色         | 良好              | 少量の雲母、白色粒、砂粒混入                           | 口辺部内外面横などで、体部外面へラ削り後などで調整を施す。内面はなどで調整。             |
| 5        | 土師器<br>鉢  | 口径<br>底径<br>器高             | 11.0<br>6.8<br>6.7 | 口縁～体部<br>1/4 欠損  | 淡褐色～<br>淡茶褐色       | 良好              | 少量の雲母、白色粒、砂粒混入                           | 口辺部内外面横などで、体部外面強いへラ削り後強いなどで調整を施す。内面はなどで調整。         |
| 6        | 土師器<br>鉢  | 復元口径<br>復元器高               | 14.8<br>9.6        | 口縁～体部<br>2/3 欠損  | 淡褐色～<br>淡茶褐色       | 良好              | 少量の雲母、白色粒、砂粒混入                           | 外面は口辺部～底部強いへラ削り後強いなどで調整を施す。内面はへラなどで調整。             |
| 7        | 土師器<br>甕  | 復元底径<br>遺存器高               | 10.4<br>4.2        | 底部～体部<br>1/3 遺存  | 外面 暗褐色<br>内面 淡茶褐色  | 良好              | 少量の雲母、白色粒、砂粒混入                           | 体部外面へラ削り後などで調整を施す。内面はへラなどで調整。                      |
| 8        | 須恵器<br>甕  | —                          | 頸部～体部<br>部分遺存      | 内外面<br>淡灰白色      | 良好                 | 長石粒、白色粒混入       | 体部外面平行叩き目後クシなどで調整を施す。内面はなどで調整で叩き目は見られない。 |  |
| 9        | 土師器<br>高杯 | 遺存高                        | 12.5               | 脚部～受け部<br>全周遺存   | 外面 淡茶褐色<br>内面 淡茶褐色 | 良好              | 少量の雲母、白色粒、砂粒混入                           | 外面は寄部横などで、脚部へラ削り調整。内面はへラなどで調整。杯部内面はへラ磨き調整を施す。      |
| 10       | 不明<br>土製品 | 全長<br>最大幅<br>厚さ            | 4.8<br>3.8<br>0.8  | 完形               | 外面 淡褐色<br>内面 淡茶褐色  | 良好              | 雲母、白色粒、砂粒混入                              | 土師器杯体部片の再利用品である。図示の範囲で研磨の痕跡が見られる。重さ22.6g           |
| 11       | 不明<br>土製品 | 全長<br>最大幅<br>厚さ            | 3.7<br>3.5<br>0.8  | 完形               | 内外面<br>黒灰色         | 良好              | 雲母、白色粒、砂粒混入                              | 土師器杯体部片の再利用品である。図示の範囲で研磨の痕跡が見られる。重さ10.9g           |
| 12       | 土製品<br>丸土 | 全長 1.1 最大幅 1.1 孔径 0.2      | 重さ 1.9g            | 完形               | 淡褐色                | 焼成良好、胎土雲母、白色粒混入 | 丁寧なで整形により仕上げられる。                         |  |
| 13       | 土製品<br>丸土 | 全長 0.8 最大幅 0.9 孔径 0.25     | 重さ 0.8g            | 一部欠              | 黒灰色、焼成良好           | 胎土雲母、白色粒混入      | 丁寧なで整形により仕上げられる。                         |  |
| 14       | 土製品<br>丸土 | 全長 1.0 最大幅 1.1 孔径 0.3      | 重さ 1.8g            | 完形               | 黒灰色                | 焼成良好、胎土雲母、白色粒混入 | 丁寧なで整形により仕上げられる。                         |  |
| 15       | 土製品<br>勾玉 | 全長 3.3 最大幅 0.9 孔径 0.3      | 重さ 4.6g            | 完形               | 淡褐色                | 焼成良好、胎土雲母、白色粒混入 | 丁寧な研磨により仕上げられる。                          |  |
| 16       | 土製品<br>勾玉 | 全長 2.3 最大幅 0.9 孔径 一重さ 2.8g | 重さ 2.8g            | 完形               | 淡茶褐色               | 焼成良好、胎土雲母、白色粒混入 | 丁寧な研磨により仕上げられる。                          |  |



第30図 15D出土遺物(1)



第31図 15D出土遺物(2)

16D住居跡(第32図 写真図版16)

状況 主軸方向 N-14°-W

規模 北壁6.6m(想定), 東壁6.42m, 南壁6.42m, 西壁6.6m(想定) のほぼ方形プランである。19Dを切り, 01Hとその他のピットに切られる。

カマド 北壁中央に2基遺存している。Bカマドは煙道部をつくりかけて構築を中止している。以下Aカマドについて記す。両袖ともよく遺存している。袖部の構築は基底部に黒色土と淡褐色砂質粘土の混合土, 淡褐色粘土を袖状に張り付け, 上に淡褐色砂質粘土をのせる。燃焼部の掘り込みは床面から5~6cmである。強く焼けた底面は袖部中程に位置する。煙道部は燃焼部奥から傾斜をもって立ち上がる。壁からの掘り込みは40cmで, 緩いU字状に掘られる。

周溝 幅18~20cm, 深さ4~9cmである。調査区で全周する。カマド部分では両袖の下で止まっている。

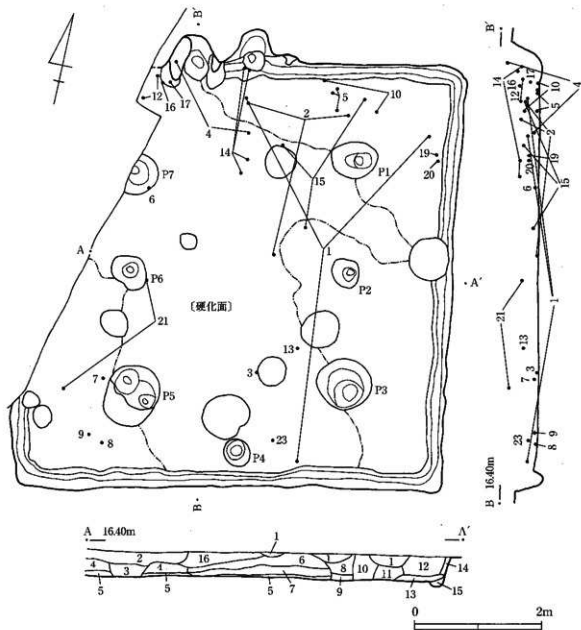
柱穴 P1~7が該当する。P4が副柱穴で他が主柱穴と想定できる。深さはP1-46cm, P2-24cm, P3-72cm, P4-49cm, P5-77cm, P6-35cm, P7-46cmである。主柱穴の覆土は上層で黒色土~暗褐色土でロームブロックを含んでいる。下層は褐色土である。

貯蔵穴 検出されなかった。

床面 ハードロームを掘り込んで床面としている。P4~カマド前面において直線状に硬化する。

16D住居跡出土遺物(第34~36図 写真図版31)

全体で367点出土し, この内17個体を図示した。

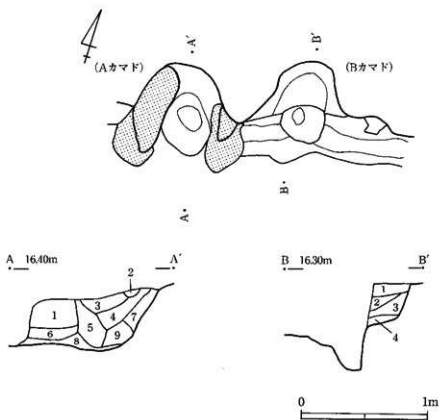


16D土層説明

1. 暗褐色土 ローム、黒色土混入層。1mm大ローム粒混入。締まっている。
2. 暗褐色土 黒色土上にローム粒混入。締まっている。
3. 褐色土 ローム、暗褐色土混入層。2~3mm大ローム粒混入。やや軟質。
4. 褐色土 ローム、暗褐色土、黒色土混入層。3~5mm大ローム粒混入。やや締まる。
5. 褐色土 ローム土上に暗褐色土混入。非常に締まる。
6. 黒褐色土 ローム粒混入。やや軟質。
7. 褐色土 ローム土上に暗褐色土。1cm大ロームブロック混入。やや軟質。
8. 暗褐色土 ローム粒、黒色土混入層。粒が細かい。
9. 暗褐色土 3mm大ローム粒混入。やや軟質。
10. 褐色土 7層類似。2mm大ローム粒混入。やや軟質。
11. 暗褐色土 ローム、黒色土混入層。2mm大ローム粒混入。やや軟質。
12. 暗褐色土 11層類似。部分的にロームブロック混入。
13. 黒褐色土 ロームブロック、ローム粒少量混入。
14. 褐色土 ローム上に暗褐色土混入。軟質。
15. 暗褐色土 ローム、黒色土、ロームブロック混入層。
16. 褐色土 ローム、暗褐色土混入層。炭化粒、焼土粒ごく少量混入。

第32図 16D遺構実測図





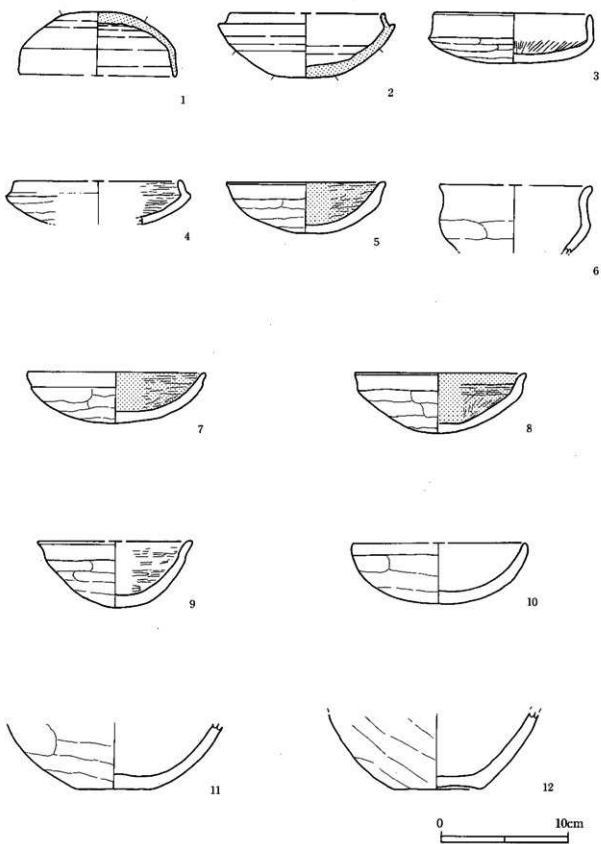
16DAカマド土層説明

1. 暗褐色土 白色粘土混入。2cm大焼土粒、ローム粒少量混入。非常に締まる。
2. 灰白色土 白色粘土主に暗褐色土少量混入。
3. 暗褐色土 1cm大ロームブロック少量混入。
4. 暗褐色土 ローム粒、2cm大ロームブロック少量混入。
5. 暗褐色土 黒色土少量混入。
6. 暗褐色土 ローム粒少量混入。
7. 暗赤褐色土 焼土粒主に暗褐色土少量混入。
8. 暗赤褐色土 焼土粒主に暗褐色土混入。
9. 暗褐色土 ごく少量のローム混入。

16DBカマド土層説明

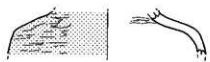
1. 暗褐色土 ローム粒、1cm大ロームブロック少量混入。
2. 暗褐色土 1層製。やや軟弱。
3. 暗褐色土 黒色土、5cm大ロームブロック少量混入。
4. 暗褐色土 ローム粒、3cm大ロームブロック少量混入。

第33図 16Dカマド実測図

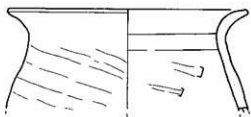


第34图 16D出土遺物(1)

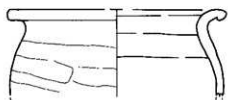
| 番号       | 器種         | 寸法 (cm)                          | 遺存状態               | 色調                  | 焼成   | 胎土                      | 手法上の特徴   |
|----------|------------|----------------------------------|--------------------|---------------------|------|-------------------------|--|
| 16D<br>1 | 須恵器<br>蓋鉢  | 復元口径 12.2<br>器高 5.0              | 口縁～大井部<br>1/3 遺存   | 内外面<br>淡青灰色         | 良好   | 長石、白色粒、<br>砂粒混入         | 大井部及び別縁面縁へ削り調整。切離し<br>は不明。口縁部内面直下に濃い沈層が見ら<br>れる。   |
| 2        | 須恵器<br>毒耳身 | 復元口径 12.1<br>復元胴径 14.0<br>器高 5.0 | 口縁～底部<br>1/3 遺存    | 内外面<br>淡灰白色         | やや不良 | 白色粒、砂粒混<br>入            | 底部～体部下端縁へ削り調整。切離し<br>は不明。口縁部立ち上がりはオリコミ手<br>法による。   |
| 3        | 土師器<br>環   | 口径 12.5<br>器高 3.9                | 完形                 | 内外面<br>淡橙白色         | 良好   | 雲母、白色粒、<br>砂粒混入         | 口辺部内外面横などで、体部外縁は削り<br>調整。体部内面は放射状へ削り調整を<br>施す。   |
| 4        | 土師器<br>環   | 復元口径 13.1<br>器高 3.4              | 口縁～体部<br>1/5 遺存    | 内外面<br>淡褐色          | 良好   | 雲母、白色粒、<br>砂粒混入         | 外面は口辺部横などで、体部へ削り調整を<br>施す。内面は口縁～体部にかけてへ削り<br>調整。口辺部内外面と内面に黒色処理の痕<br>跡が残る。                                |
| 5        | 土師器<br>坏   | 口径 12.6<br>器高 4.0                | 口縁～体部<br>約1/2 遺存   | 内外面<br>淡黒褐色         | 良好   | 雲母、多量の白<br>色粒、砂粒混入      | 外面は口辺部横などで、体部へ削り調整。<br>内面は口縁～体部にかけても重要なへ削り<br>調整。内面に黒色処理を施す。   |
| 6        | 土師器<br>坏   | 復元口径 11.8<br>器高 3.2              | 口縁～体部<br>1/4 遺存    | 内外面<br>淡褐色          | 良好   | 雲母、多量の白<br>色粒、砂粒混入      | 口辺部内外面及び体部内面横などで。体部<br>外面はへ削り横などで調整。   |
| 7        | 土師器<br>坏   | 口径 14.0<br>器高 4.0                | 口縁～体部<br>1/2 遺存    | 外面 淡赤褐色<br>内面 淡黒褐色  | 良好   | 雲母、多量の白<br>色粒、砂粒混入      | 外面は口辺部横などで、体部へ削り調整。<br>内面は口縁～体部にかけても重要なへ削り<br>調整。内面に黒色処理を施す。   |
| 8        | 土師器<br>坏   | 口径 13.4<br>器高 4.7                | 完形                 | 外面 淡赤褐色<br>内面 淡黒褐色  | 良好   | 雲母、赤色粒、<br>白色粒、砂粒混<br>入 | 外面は口辺部横などで、体部へ削り調整。<br>内面は口縁～体部にかけても重要なへ削り<br>調整。内面に黒色処理を施す。   |
| 9        | 土師器<br>坏   | 復元口径 12.3<br>器高 5.3              | 口縁～体部<br>約1/2 遺存   | 内外面<br>淡赤褐色<br>一部黒色 | 良好   | 雲母、赤色粒、<br>白色粒、砂粒混<br>入 | 外面は口辺部横などで、体部へ削り調整を<br>施す。内面は口辺部横などで、体部は重要な<br>へ削り調整を施す。   |
| 10       | 土師器<br>坏   | 復元口径 13.6<br>器高 4.8              | 口縁～体部<br>約2/3 遺存   | 内外面<br>淡赤褐色         | 良好   | 雲母、白色粒、<br>砂粒混入         | 外面は口辺部横などで、体部へ削り調整を<br>施す。内面は口辺部横などで、底面～体部<br>にかけて丁寧な調整を施す。  |
| 11       | 土師器<br>甕   | 口径 6.3<br>器高 5.3                 | 底部～胴部<br>全周遺存      | 外面 橙褐色<br>内面 暗褐色    | 良好   | 雲母、白色粒、<br>小石混入         | 外面は削り横などで調整。内面は磨き状<br>のなどで調整を施す。二次焼成等の痕跡は見<br>られない。  |
| 12       | 土師器<br>甕   | 口径 7.0<br>器高 5.9                 | 底部～胴部<br>全周遺存      | 内外面<br>暗褐色～淡褐色      | 良好   | 雲母、多量の白<br>色粒、砂粒混入      | 外面は削り横などで調整。内面はなどで調<br>整を施す。内外面共二次焼成による調整が<br>見られる。15と同一個体か？   |
| 13       | 土師器<br>甕   | 口径 3.5                           | 胴部～胴部<br>約1/4 遺存   | 外面 淡黒褐色<br>内面 暗褐色   | 良好   | 雲母、多量の白<br>色粒、砂粒混入      | 外面は重要なへ削り調整。内面は胴部に<br>へ削り調整。胴部はなどで調整。外面に黒<br>色処理を施す。   |
| 14       | 土師器<br>甕   | 復元口径 19.0<br>器高 8.0              | 口縁～胴部<br>1/4 遺存    | 内外面<br>淡赤褐色         | 良好   | 雲母、多量の白<br>色粒、長石粒混<br>入 | 口辺部内外面横などで、胴部外面は削り<br>調整。胴部内面はへ削りなどで調整。16と同一<br>個体か？   |
| 15       | 土師器<br>甕   | 復元口径 17.6<br>器高 6.8              | 口縁～胴部<br>1/4 遺存    | 内外面<br>橙褐色          | 良好   | 雲母、多量の白<br>色粒、砂粒混入      | 外面は口辺部横などで、胴部は削り調整を<br>施す。内面は口辺部へ削り調整。胴部は<br>へ削りなどで。口縁部部の形状が玉粒状となっ<br>ている。内面に二次焼成による調整が著し<br>い。12と同一個体か？ |
| 16       | 土師器<br>甕   | 口径 8.0<br>器高 19.0                | 底部全周遺存<br>胴部1/3 遺存 | 内外面<br>淡赤褐色         | 良好   | 雲母、多量の白<br>色粒、砂粒混入      | 外面は削り調整。内面はへ削りなどで調整<br>を施す。二次焼成による調整等は見られな<br>い。14と同一個体か？  |
| 17       | 土製品<br>支脚  | 口径 18.1<br>器高 8.9                | 下部欠損               | 内外面<br>淡赤褐色         | —    | 少量の雲母<br>白色粒、砂粒混<br>入   | などで整形により仕上げられている。  |



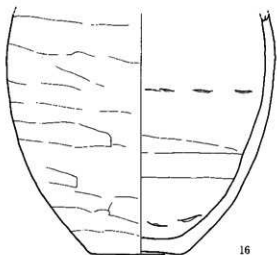
13



14



15



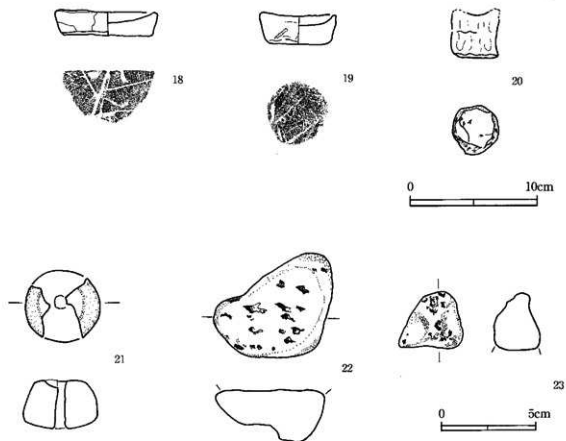
16



17



第35図 16D出土遺物(2)



第36図 16D出土遺物(3)

| 番号        | 器種          | 寸法 (cm)          | 遺存状態              | 色調               | 焼成             | 胎土 | 平皿上の特徴          |  |
|-----------|-------------|------------------|-------------------|------------------|----------------|----|-----------------|--|
| 16D<br>18 | 上縁形<br>手すくね | 口径<br>底径<br>器高   | 8.0<br>7.3<br>1.9 | 口縁～底部<br>1/2 強遺存 | 内外面<br>暗褐色～淡褐色 | 良好 | 雲母、白色粒、<br>砂粒混入 | 内外面などで整形。底部木炭痕。                                    |
| 19        | 土師器<br>手すくね | 口径<br>底径<br>器高   | 6.0<br>4.9<br>2.3 | ほぼ定形<br>口縁一部欠    | 内外面<br>淡茶褐色    | 良好 | 雲母、白色粒、<br>砂粒混入 | 外面は体部～底部にかけてヘラなどで調整を<br>施す。内面は捺置によるなどで押圧による<br>整形。 |
| 20        | 不明<br>土製品   | 遺存長<br>最大幅<br>厚さ | 3.5<br>3.5<br>3.8 | 基部全面遺存<br>上層部欠損  | 内外面<br>淡褐色     | 良好 | 雲母、白色粒、<br>砂粒混入 | 内外面などで整形。  |
| 21        | 土製品<br>紡輪半  | 上幅<br>下幅<br>余高   | 2.4<br>3.8<br>2.6 | 1/2 遺存           | 淡褐色            | 良好 | 白色粒、砂粒混<br>入    | 全面ヘラ削り後などで調整。<br>復元孔径 0.6 復元重量 34.8g               |

単位 (cm)

| 番号 | 器種        | 石材 | 長さ  | 幅   | 厚さ  | 重さ (g) | 備考                |
|----|-----------|----|-----|-----|-----|--------|-------------------|
| 22 | 石製品<br>軽石 | 軽石 | 5.9 | 5.4 | 2.8 | 22.6   | 上面に研磨の痕跡が見られる。    |
| 23 | 石製品<br>軽石 | 軽石 | 2.9 | 3.2 | 2.3 | 6.2    | 下側の側面に研磨の痕跡が見られる。 |

### 18D住居跡(第37図 写真図版16)

状況 主軸方向 西側にカマドを想定するとN-34°-W

規模 北壁6.94mのみで他は調査区外である。

カマド 確認できないが、淡褐色砂質粘土の分布から西壁に想定できる。

周溝 幅20cm, 深さ5~7cmである。覆土は暗褐色土に黒色土粒を混入している。調査区で全周する。

柱穴 P4, 6が該当する。両者とも主柱穴と想定できる。深さはP4-74cm, P6-16cmである。P1~3はカマド前面に位置しているため、その他のピットとした。深さはP1-42cm, P2-15cm, P3-15cmである。

貯蔵穴 P5が該当する。60cm×45cmの楕円形で、深さは15cmである。覆土は暗褐色土でローム粒を混入している。

床面 ハードロームを掘り込んで床面としている。西側に偏って硬化面が見られる。

### 18D住居跡出土遺物(第37図 写真図版32)

全体で86点出土し、この内4個体を図示した。

| 番号       | 器種        | 寸法(cm)                      | 遺存状態            | 色調                | 焼成 | 胎土                 | 手法上の特徴  |
|----------|-----------|-----------------------------|-----------------|-------------------|----|--------------------|---|
| 18D<br>1 | 土師器<br>環  | 径元口径<br>12.6<br>遺存高<br>3.9  | 口縁~体部<br>1/3 遺存 | 内外面<br>淡褐色        | 良好 | 少量の雲母、小<br>石、砂粒混入  | 口辺部内外面及び体部内面などで。体部外<br>面は横位へラ削り調整。                  |
| 2        | 土師器<br>壺  | 底径<br>6.4<br>遺存高<br>2.5     | 底部はほぼ全周         | 外面 暗褐色<br>内面 淡黒灰色 | 良好 | 少量の雲母、白<br>色粒、砂粒混入 | 内外面などで調整。内面において二次焼成に<br>よる剥離が強い。                    |
| 3        | 土師器<br>高杯 | 復元口径<br>19.6<br>遺存高<br>4.0  | 口縁~体部<br>1/5 遺存 | 外面 茶褐色<br>内面 淡黒褐色 | 良好 | 少量の雲母、白<br>色粒、砂粒混入 | 外面は口辺部横などで。体部へラ削り調整を<br>施す。内面はへラ削き調整。内面黒色処理<br>を施す。 |
| 4        | 鉄製品<br>釘  | 遺存長 8.4<br>最大幅0.4<br>重さ8.8g |                 |                   |    |                    | 角釘の芯部と思われる。断面は0.5×0.4cmの長方形である。錆化が著しい。              |

### 19D住居跡(第38図 写真図版17)

状況 主軸方向 N-22°-E

規模 北壁3.97m, 東壁3.99m, 南壁4.02m, 西壁4.08mの方形プランである。01Hに切られる。

カマド 北壁中央に位置する。両袖ともよく遺存している。袖部の構築は基底部に暗褐色土と淡褐色砂質粘土を混ぜた土を張り付け、上部に淡褐色砂質粘土をのせている。燃焼部の掘り込みは床面から5~6cmである。強く焼けた底面は袖部中程に位置する。煙道部は燃焼部奥から急な角度をもって立ち上がる。壁からの掘り込みは14cmで、U字状に掘られる。

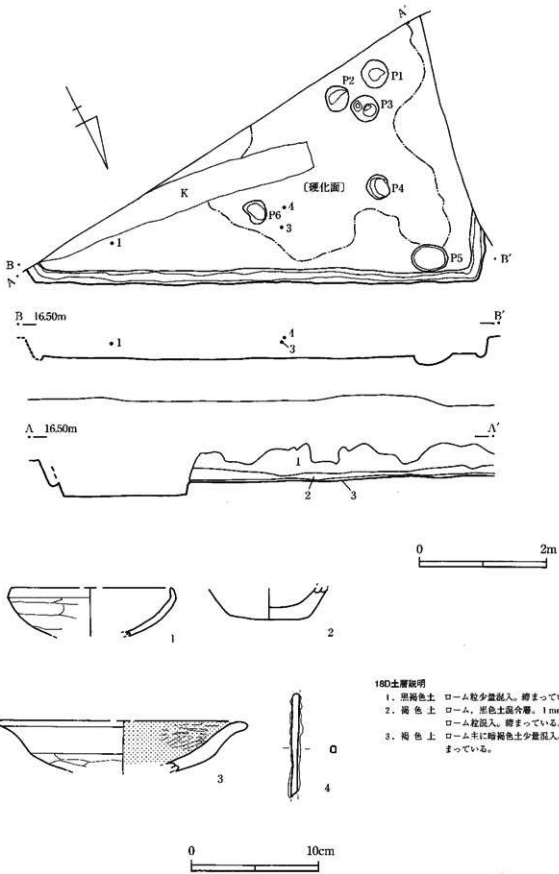
周溝 幅20~22cm, 深さ8cmである。覆土は褐色土に暗褐色土粒を混入している。全周する。

柱穴 P1~5が該当する。P2が副柱穴で他が主柱穴と想定できる。深さはP1-56cm, P2-43cm, P3-41cm, P4-52cm, P5-34cmである。覆土は黒色土に焼土粒、炭化粒を含んでいる。

貯蔵穴 検出されなかった。

床面 ハードロームを20cm程度掘り込んで床面としている。全体に締まっている。強く硬化している範囲は特定できない。

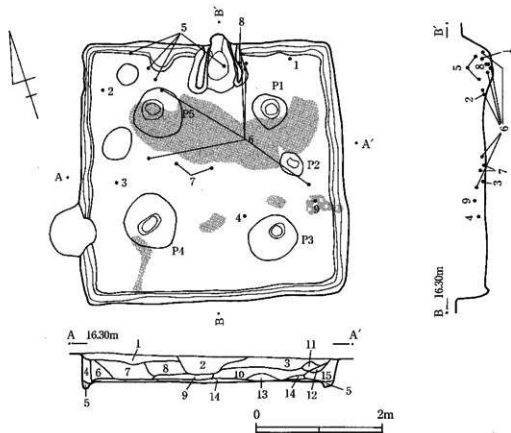
その他 カマド前面を中心に焼土、炭化物が出土している。床面に密着し、厚さは5~16cmである。



18D土層説明

1. 黒褐色土 ローム粒少量混入。締まっている。
2. 褐色土 ローム、黒色土混入層。1mm大ローム粒混入。締まっている。
3. 褐色土 ローム中に暗褐色土少量混入。締まっている。

第37図 18D遺構・出土遺物



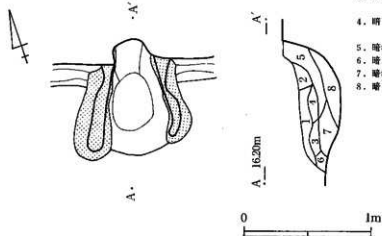
19D土層説明

1. 暗褐色土 ローム、黒色土混入層。1~2mm大ローム粒混入。
2. 黒褐色土 ローム、2~3mm大ローム粒混入。
3. 暗褐色土 黒色土少量混入。1~2cm大ロームブロック混入。
4. 褐色土 ローム主に暗褐色土混入。
5. 褐色土 ローム、暗褐色土混入層。
6. 褐色土 4層砂粒。2mm大ローム粒混入、黒色土少量混入。
7. 黒褐色土 2~3mm大ローム粒混入。
8. 暗褐色土 7層砂粒。黒色土の混入少ない。
9. 暗褐色土 7層砂粒。黒色土の混入更に少ない。
10. 暗褐色土 ローム、黒色土混入層。部分的にロームブロック混入。
11. 褐色土 ローム主に暗褐色土混入。

12. 暗赤褐色土 黒色土、焼土混入層。
13. 淡褐色土 淡褐色砂質焼土、ローム混入層。
14. 褐色土 ローム、暗褐色土混入層。粘まっている。
15. 黒褐色土 ローム粒少量混入。

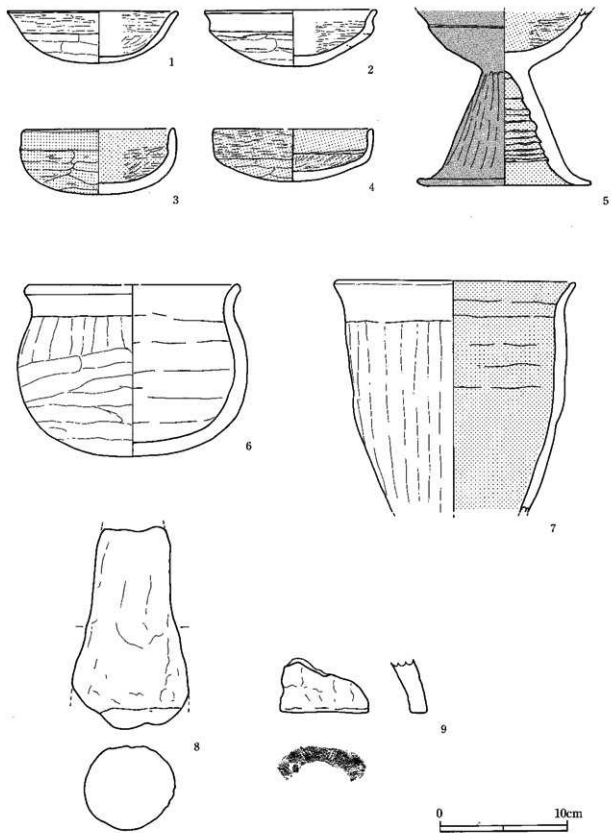
19Dカマド土層説明

1. 暗褐色土 ローム粒少量混入。
2. 暗褐色土 淡褐色砂質粘土主体。
3. 暗褐色土 淡褐色砂質粘土に暗褐色土少量混入。
4. 暗褐色土 少量の黒色土、微量の焼土、淡褐色砂質粘土混入。
5. 暗赤褐色土 焼土中に少量の黒色土混入。
6. 暗褐色土 ローム粒、焼土少量混入。
7. 暗赤褐色土 焼土。
8. 暗褐色土 ローム中に少量の黒色土混入。



第38図 19D遺構・カマド実測図





第39圖 19D出土遺物

19D住居跡出土遺物(第39図 写真図版32)

全体で256点出土し、この内9個体を図示した。

| 番号   | 器種        | 寸法(cm)               | 遺存状態                   | 色調                  | 焼成   | 胎土                 | 手法上の特徴   |
|------|-----------|----------------------|------------------------|---------------------|------|--------------------|--|
| 19D1 | 土師器<br>杯  | 口径 13.3<br>器高 4.1    | 口縁～体部<br>2/3 遺存        | 内外面<br>淡褐色<br>一部黒色  | 良好   | 雲母、白色粒、<br>石英、砂粒混入 | 口辺部内外面及び体部内面へろつき調整、<br>体部外面へろ削り調整。外面の襷はそう意<br>識されない。   |
| 2    | 土師器<br>杯  | 口径 13.5<br>器高 4.5    | 口縁～体部<br>2/3 遺存        | 内外面<br>淡褐色          | 良好   | 雲母、白色粒、<br>石英、砂粒混入 | 外面は口辺部横まで、体部へろ削り調整。<br>体部内面はへろつき調整を施す。   |
| 3    | 土師器<br>杯  | 口径 11.8<br>器高 5.1    | ほぼ完形                   | 内外面<br>淡黒褐色<br>～茶褐色 | 良好   | 雲母、白色粒、<br>砂粒混入    | 外面は口辺部横まで、体部へろ削り調整。<br>体部内面はへろつき調整を施す。不完全な<br>状態だが、両面黒色処理を施す。底部内面<br>に火熱による割離が見られる。                      |
| 4    | 土師器<br>杯  | 復元口径 12.3<br>器高 4.1  | 口縁～体部<br>1/4 遺存        | 内外面<br>淡黒褐色<br>～茶褐色 | 良好   | 雲母、白色粒、<br>砂粒混入    | 外面は口辺部へろつき、体部へろ削り後な<br>で調整。内面は口辺部まで、体部はへろ磨<br>き調整を施す。不完全な状態だが、両面黒<br>色処理を施す。                             |
| 5    | 土師器<br>高杯 | 底部径 13.7<br>遺存高 13.7 | 杯部～脚部<br>全周遺存<br>口辺部欠損 | 内外面<br>淡黒褐色<br>～赤褐色 | 良好   | 少量の雲母、白<br>色粒、砂粒混入 | 杯部外面はなで調整、内面はへろつき調整。<br>脚部外面は縦位へろ削り、杯部横まで調整<br>を施す。不完全な状態だが、杯部と脚部の<br>内面に黒色処理を施す。また、杯部と脚部<br>の外周には赤彩を施す。 |
| 6    | 土師器<br>壺  | 復元口径 16.5<br>器高 13.5 | 口縁～底部<br>1/3 遺存        | 内外面<br>淡褐色          | 良好   | 白色粒、黒色粒、<br>砂粒混入   | 外面は口辺部横まで、胴部は縦位へろ削り<br>後横位へろ削り調整。内面は口辺部横まで、<br>胴部へろなどで調整。  |
| 7    | 土師器<br>壺  | 口径 18.6<br>器高 18.5   | 口縁～胴部<br>全周遺存          | 外面 暗褐色<br>内面 黒褐色    | 良好   | 少量の雲母、白<br>色粒、砂粒混入 | 外面は口辺部横まで、胴部は縦位へろ削り<br>調整。内面は口辺部横まで、胴部へろな<br>で調整。内面に黒色処理を施す。   |
| 8    | 土製品<br>支脚 | 遺存長 15.8<br>最大幅 9.0  | 上下欠損                   | 淡褐色                 | やや不良 | 白色粒、砂粒混<br>入       | なで整形により仕上げられている。作製は<br>直径1.4cm程度の芯に粘土を巻きつけて作ら<br>れている。芯は焼成時に空洞化している。                                     |
| 9    | 不明<br>土製品 | 遺存幅 6.9<br>遺存高 4.5   | 基部のみ                   | 淡茶褐色<br>一部黒色        | 良好   | 白色粒、赤色粒、<br>砂粒混入   | なで整形により仕上げられている。腹いカ<br>ーブを描いており、隅丸方形の舞状になる<br>と思われる。フイゴ羽口か鉄さい等の付<br>着は見られない。                             |

### 第3節 平安時代

住居跡 5軒と掘立柱建物跡 2棟、溝状遺構 1条を検出した。住居跡は三群に分けられる。北側の04D, 05ADの一群、南側の13AD, 13CDの一群, 17D単独の一群である。掘立柱建物跡は南側に01H, 02Hの2棟が並列している。溝状遺構は、中央部を東西に横断している。溝状遺構と掘立柱建物跡については第4節において記述する。

#### 04D住居跡 (第40図 写真図版4)

状況 主軸方向 S-35°-E

規模 南東壁1.8m, 北壁1.0m以上の四角形ないし長方形プランを想定できる。

カマド 南東壁中央に位置する。両袖は淡褐色砂質粘土を用いている。燃焼部の掘り込みはわずかにくぼみが明瞭ではない。強く焼けた底面は浅い掘り込みよりやや奥に位置する。煙道部の壁の掘り込みは16cmでJ字状に掘られる。

周溝 検出されなかった。

柱穴 不明だが、ピットではP1, 2を検出した。深さはP1-17cm, P2-22cmである。

貯蔵穴 検出されなかった。

床面 全体に軟弱で硬化面は検出できなかった。

#### 04D住居跡出土遺物 (第40図 写真図版33)

全体で26点出土し、この内4点を図示した。

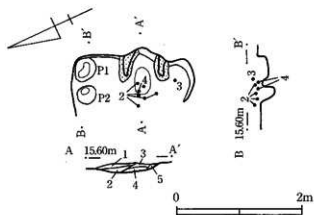
| 番号       | 器種              | 寸法 (cm)                                  | 遺存状態            | 色調                  | 焼成 | 胎土                        | 手法上の特徴   |
|----------|-----------------|--|-----------------|---------------------|----|---------------------------|--|
| 04D<br>1 | 土師器<br>萬内付<br>坏 | 高台部径<br>遺存高<br>6.8<br>1.5                | 高台部全周           | 内外面<br>暗褐色          | 良好 | 雲母, 白色粒<br>石英, 小石<br>砂粒混入 | 底部切離しは回転糸切り後縦線ヘラ削り調整。張り付け高台。                                 |
| 2        | 土師器<br>坏        | 口径<br>底径<br>器高<br>14.5<br>4.3<br>5.0     | ほぼ全形            | 内外面<br>暗褐色~淡茶<br>褐色 | 良好 | 雲母, 白色粒<br>石英, 小石<br>砂粒混入 | 外面は口縁へ体部にかけて手で調整。体部ドランテ持ちヘラ削り。内面は横方向のヘラ磨き。底部切離しは回転糸切り後ヘラで調整。 |
| 3        | 土師器<br>瓶        | 遺存高<br>器元底径<br>器高<br>22.5<br>12.0<br>5.0 | 胴部~底部<br>1/3 遺存 | 内外面<br>暗茶褐色         | 良好 | 雲母, 白色粒<br>石英, 小石<br>砂粒混入 | 外面は縦線方向のヘラ削り調整。内面は木口状工具による横方向の調整。四孔式瓶。                       |
| 4        | 須恵器<br>土製品      | 使用向幅<br>最大径<br>重量<br>6.8<br>8.7<br>1100  | 壺胴部片            | 内外面<br>灰色           | 良好 | 粒子細かく締ま<br>っている。          | 須恵器壺胴部片の再利用品。外面に平行叩き目文あり。一辺において磨り跡が顕著である。                    |

#### 05AD住居跡 (第41図 写真図版5)

状況 主軸方向 N-21°-E

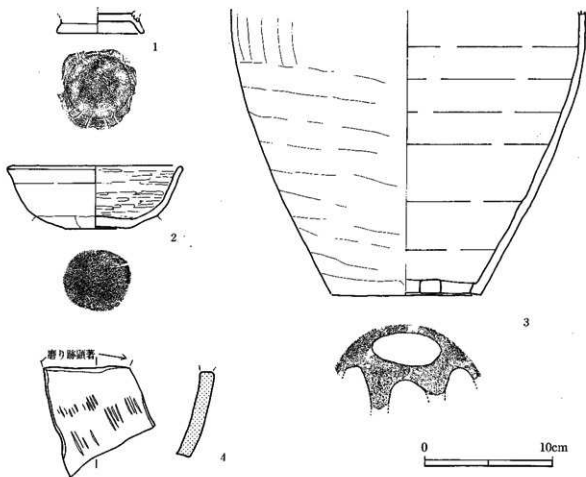
規模 西壁は調査区外, 東壁3.12m, 南壁3.54m以上の長方形プランを想定できる。05BDを切る。

カマド 北壁中央に位置する。両袖ともよく遺存している。袖部の構築は基底部に砂質粘土と黒色土上の混合土を袖状につくり上部に淡褐色砂質粘土をのせている。燃焼部の掘り込みは床面から10cmである。強く焼けた底面は袖部中央のやや奥に位置する。煙道部は燃焼部奥から角度をもって立ち上がる。壁からの掘り込みは43cmである。



04D土層説明

1. 黒褐色土 焼土粒少量含む。
2. 赤褐色土 焼土粒、ローム粒混入層。
3. 褐色土 焼土粒少量含む。
4. 赤褐色土 焼土粒、焼土ブロック混入層。
5. 褐色土 3層類似。焼土、炭化物ごく少量混入。



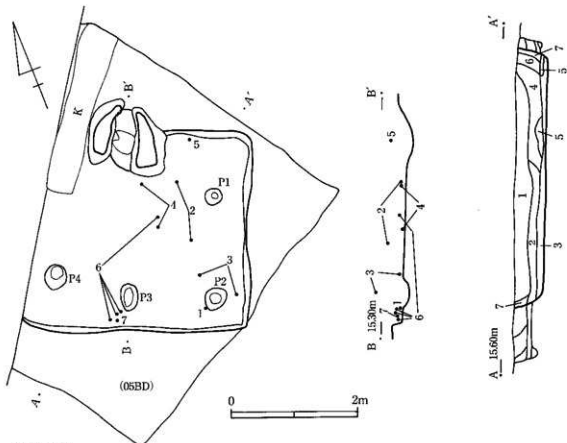
第40図 04D遺構・出土遺物

周 溝 検出されなかった。

柱 穴 P1～4が該当する。P3が副柱穴で他が主柱穴と想定できる。深さはP1-7cm, P2-12cm, P3-16cm, P4-14cmである。覆土は黒褐色土～暗褐色土である。

貯蔵穴 検出されなかった。

床 面 ハードローンを掘り込んで床面としている。全体に締まっている。硬化面は特定出来なかった。

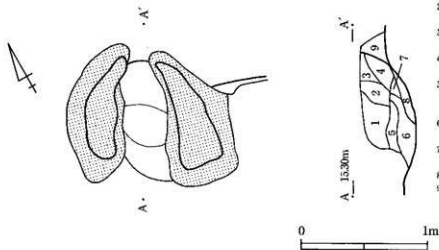


05AD土層説明

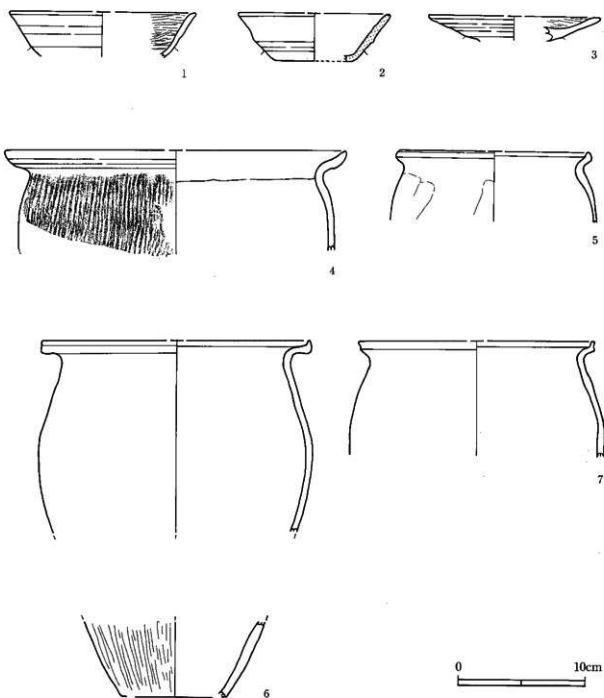
1. 暗褐色土 黒色土上体、ローム較少量含む。3-4mm大ローム較全体に含む。
2. 暗褐色土 1層類似。ローム較ごく少量含む。
3. 暗褐色土 黒色土、ローム較量中層。2-3mm大ローム較含む。固く締まる。
4. 暗褐色土 1層類似。ローム較の混入が多い。
5. 淡褐色土 淡褐色砂質粘土上に黒色を含む。
6. 暗褐色土 黒色土上体、暗褐色土含む。幾十ブロック混入。さらさらしている。
7. 暗褐色土 ローム較少量含む。さらさらしている。

05ADカマド土層説明

1. 淡褐色砂質粘土 暗褐色土少量含む。
2. 暗褐色土 淡褐色砂質粘土少量含む。
3. 暗褐色土 2層類似。淡褐色砂質粘土若干多い。炭化粒少量混入。較の混入が多い。
4. 暗褐色土 幾十ブロック、黒色土、淡褐色砂質粘土混入層。
5. 赤褐色土 幾十ブロック、焼土ブロック。
6. 赤褐色土 幾十塊、焼土ブロック。
7. 赤褐色土 焼土ブロック(スサ入り粘土)。
8. 黒褐色土 焼土混入。
9. 暗褐色土 ローム較、黒色土較量中層。



第41図 05AD遺構・カマド実測図



第42圖 05AD出土遺物

## 05AD住居跡出土遺物(第42図)

全体で271点出土し、この内6個体を図示した。

| 番号        | 器種       | 寸法(cm)                                      | 遺存状態                        | 色調                     | 焼成 | 胎土                   | 手法上の特徴   |
|-----------|----------|---|-----------------------------|------------------------|----|----------------------|--|
| 05AD<br>1 | 土加器<br>環 | 復元口径<br>14.5<br>遺存高<br>3.6                  | 口縁～底部<br>1/5 遺存             | 内外面<br>淡茶褐色            | 良好 | 雲母、白色粒混入             | 外面は体部下位へう削り調整。内面は横方向のへう削き調整を施す。                        |
| 2         | 灰土器<br>環 | 復元口径<br>11.8<br>復元底径<br>6.0<br>器高<br>3.8    | 口縁～底部<br>1/3 遺存             | 内外面<br>淡灰褐色            | 良好 | 雲母、白色粒混入             | 外面は体部下位へう削り。口辺部内外面横などで。底部切磨し不明。断面観察では内外面が淡灰褐色で内面は淡茶褐色。 |
| 3         | 土加器<br>皿 | 復元口径<br>13.6<br>遺存高<br>2.0                  | 口縁～底部<br>1/4 遺存             | 内外面<br>淡褐色             | 良好 | 雲母、白色粒<br>赤色粒混入      | 外面は体部下位へう削り。内面は横方向のへう削きを施す。高台の有無は不明だが、無台か造りだしとなる。      |
| 4         | 土加器<br>壺 | 復元口径<br>26.8<br>遺存高<br>7.9                  | 口縁～胴部<br>1/5 遺存             | 内外面<br>やや濃い暗褐色         | 良好 | 雲母、白色粒<br>石英、砂粒混入    | 口辺部横などで。胴部外面平行叩き目。内面は胴部へう削り。口縁増部のつまみ上げは顕著ではないが見られる。    |
| 5         | 土加器<br>壺 | 復元口径<br>14.8<br>遺存高<br>3.5                  | 口縁～胴部<br>1/5 遺存             | 内外面<br>淡褐色             | 良好 | 雲母、白色粒<br>石英、砂粒混入    | 口辺部横などで。胴部外面横方向のへう削り。胴部内面はへう削り。口縁増部のつまみ上げは顕著である。       |
| 6         | 土加器<br>壺 | 復元口径<br>20.8<br>復元底径<br>8.3<br>繫定器高<br>28.3 | 口縁～胴部<br>1/6 底部立ち<br>上がり1/3 | 内外面<br>やや濃い暗褐色<br>～暗褐色 | 良好 | 雲母、白色粒<br>石英、砂粒混入    | 口辺部横などで。胴部外面へう削り。底部立ち上がりミギキ状へう削り。口縁増部のつまみ上げは顕著である。     |
| 7         | 土加器<br>壺 | 復元口径<br>18.2<br>遺存高<br>9.1                  | 口縁～胴部<br>1/4 遺存             | 内外面<br>淡褐色             | 良好 | 雲母、大粒の白色粒、小石<br>砂粒混入 | 口辺部横などで。胴部内外面はへう削り。口縁増部のつまみ上げは顕著である。                   |

## 13AD住居跡(第43図 写真図版13)

状況 主軸方向 N-33°-E

規模 北西壁3.62m, 南西壁3.15m以上の方形ないし長方形プランを想定できる。13BDを切る。

カマド 北東壁中央に位置する。左袖と燃焼部が遺存している。袖部の構架は基底部に焼土混じりの暗褐色土を袖状につくり上部に淡褐色砂質粘土をのせている。燃焼部の掘り込みは床面から11~18cmである。強く焼けた底面は袖部前面に位置する。煙道部は燃焼部奥から角度をもって立ち上がる。壁からの掘り込みは28cmである。

周溝 南東壁側で立ち上がっているが、13BDと重複しており本来は全周したと思われる。幅21~24cm, 深さ6~10cmである。覆土は暗褐色土に黒色土粒, 3cm大のロームブロックを混入する。カマド部分では袖下でとまっている。

柱穴 P1~6が該当する。P1が副柱穴で他が主柱穴と想定できる。深さはP1-10cm, P2-20cm, P3-22cm, P4-26cm, P5-45cm, P6-39cmである。P2とP5, P4とP6が相対した位置にある。覆土は暗褐色土にローム粒を混入する。P2, 4, 5には炭化粒, 焼土粒が混入している。

貯蔵穴 検出されなかった。

床面 ハードロームを15cm程度掘り込んで床面としている。南側周縁部を除いて硬化面が検出された。

### 13AD住居跡出土遺物 (第43, 44 図 写真図版33)

全体で119点出土し、この内9個体を図示した。

| 番号        | 器種        | 寸法 (cm)                         | 遺存状態             | 色調          | 焼成 | 胎土                       | 手法上の特徴  |
|-----------|-----------|---------------------------------|------------------|-------------|----|--------------------------|---|
| 13AD<br>1 | 十脚器<br>坏  | 復元口径 12.8<br>復元底径 8.5<br>器高 4.2 | 口縁~底部<br>1/4 遺存  | 内外面<br>淡褐色  | 良好 | 雲母, 白色粒<br>砂粒混入          | 口辺部~体部横なで。体部下端回転へつ<br>り調整。切磨し不明。  |
| 2         | 十脚器<br>坏  | 復元口径 13.0<br>底径 6.3<br>器高 4.3   | 口縁~底部<br>1/3 遺存  | 内外面<br>淡茶褐色 | 良好 | 少量の雲母と砂<br>粒, 白色粒は顕<br>著 | 口辺部~体部横なで。体部下端回転へつ<br>り調整。切磨しは回転へつり。                                    |
| 3         | 十脚器<br>坏  | 復元口径 12.4<br>遺存高 3.0            | 口縁~体部<br>1/5 遺存  | 内外面<br>淡褐色  | 良好 | 少量の雲母と砂<br>粒, 白色粒        | 口辺部~体部横なで。体部下位回転へつ<br>り調整。  |
| 4         | 十脚器<br>坏  | 底径 6.0<br>遺存高 1.4               | 底部~体部<br>1/3 遺存  | 内外面<br>淡褐色  | 良好 | 雲母, 白色粒<br>砂粒混入          | 底部切磨しは回転系切り後周縁回転へつ<br>り調整。体部下端回転へつり調整。底部<br>外面に「西」墨書が書かれている。            |
| 5         | 十脚器<br>坏  | 復元口径 13.4<br>底径 6.7<br>器高 2.6   | 口辺部 1/5<br>底部 全周 | 内外面<br>淡褐色  | 良好 | 雲母, 白色粒<br>砂粒混入          | 底部切磨しは回転系切り後周縁回転へつ<br>り調整。体部下端回転へつり調整。内面<br>はへつり磨き調整を施す。高台は造りだ<br>しである。 |
| 6         | 十脚器<br>坏  | 復元口径 21.4<br>遺存高 8.6            | 口縁~胴部<br>1/2 遺存  | 内外面<br>暗赤褐色 | 良好 | 雲母, 白色粒<br>砂粒混入          | 口辺部内外面横なで。体部外面は縦方向<br>のへつり調整。体部内面はへつり調整。                                |
| 7         | 須恵器<br>壺  | 復元口径 20.6<br>遺存高 4.3            | 口縁~胴部<br>1/2 遺存  | 内外面<br>淡褐色  | 良好 | 少量の雲母と砂<br>粒, 白色粒        | 口辺部内外面横なで。胎土粗かく、焼成は<br>強い。  |
| 8         | 十脚器<br>支脚 | 全長 19.7<br>最大幅 10.4<br>厚さ 7.8   | ほぼ定形             | 淡褐色         | —  | 少量の雲母と砂<br>粒, 白色粒        | なで整形によって仕上げている。カマド焚<br>き口から出土した。  |

単位 (cm)

| 番号        | 器種  | 石材 | 長さ | 幅   | 厚さ  | 重さ (g) | 備考  |
|-----------|-----|----|----|-----|-----|--------|---|
| 13AD<br>9 | 砥石? | 砂岩 | 83 | 7.5 | 7.0 | 912    | 図示した下面及び破損面を除いて磨面の痕跡が見られる。また、火熱による赤褐色が見られる。 |

### 13CD住居跡 (第45図 写真図版14)

状況 主軸方向 N-35°-E

規模 北西壁4.25m, 南西壁4.38mの方形プランを想定できる。13BDを切る。

カマド 北東壁中央に位置する。両袖ともよく遺存している。袖部の構架は基底部に焼土泥じりの淡褐色砂とロームブロック混じりの褐色土を張り付け上部に淡褐色砂質粘土をのせている。燃焼部は床面から当初16cm程度掘り込みが褐色粘土を8cm充填してかさあげしている。煙道部は燃焼部奥から緩く立ち上がる。壁からの掘り込みは35cmである。

周溝 北東壁側で立ち上がっているが、13BDと重複しており本来は全周したと思われる。幅32~35cm, 深さ6~8cmである。覆土は黒褐色土でローム粒を混入する。

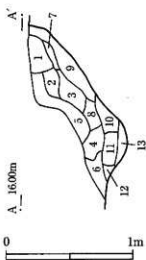
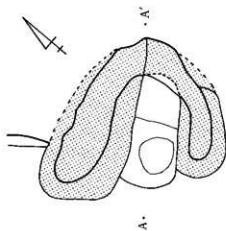
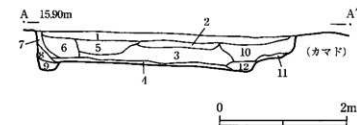
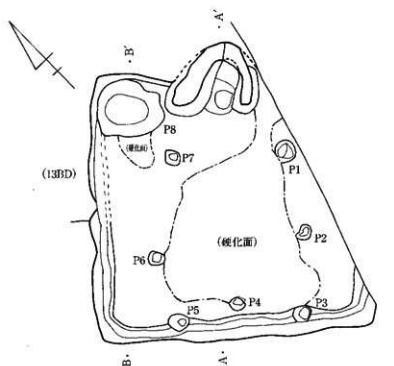
柱穴 P1~7が該当する。P4が副柱穴で他が主柱穴と想定できる。深さはP1-61cm, P2-6cm, P3-54cm, P4-10cm, P5-54cm, P6-6cm, P7-42cmである。覆土は黒褐色土に部分的に炭化粒, 焼土粒を混入する。P2, 4, 5には炭化粒, 焼土粒が混入している。

貯蔵穴 P8が該当する。カマド左袖脇に位置する。100cm×90cmの不整形円形, 深さ15cmである。覆土はロームブロック, 焼土ブロックを含む暗褐色土である。

床面 ハードロームを20cm程度掘り込んで床面としている。硬化面は柱穴内側と貯蔵穴前において顕著である。

その他 炭化材が12点床面に密着して出土している。





#### 13CD土層説明

1. 黒褐色土 ローム較少量含む。締まっている。
2. 暗褐色土 ローム粒、黒色土混入層。1mm大ローム粒全体に含む。締まっている。
3. 暗褐色土 2層類似。黒色土の混入が少ない。
4. 褐色土 ローム粒、黒色土混入層。非常に締まっている。
5. 黒褐色土 2層類似。黒色土の混入が多い。
6. 黒褐色土 5層類似。黒色土の混入が多い。
7. 黒褐色土 1mm大ローム粒全体に含む。ややふよふよする。
8. 暗褐色土 ローム粒、黒色土混入層。ややふよふよする。
9. 黒褐色土 1mm大ローム粒全体に含む。ふよふよする。
10. 暗褐色土 淡褐色砂質粘土、焼土粒混入層。
11. 暗褐色土 淡褐色砂質粘土、焼土粒混入層。
12. 暗褐色土 ローム粒、黒色土混入層。締まっている。

#### 13CDカマド土層説明

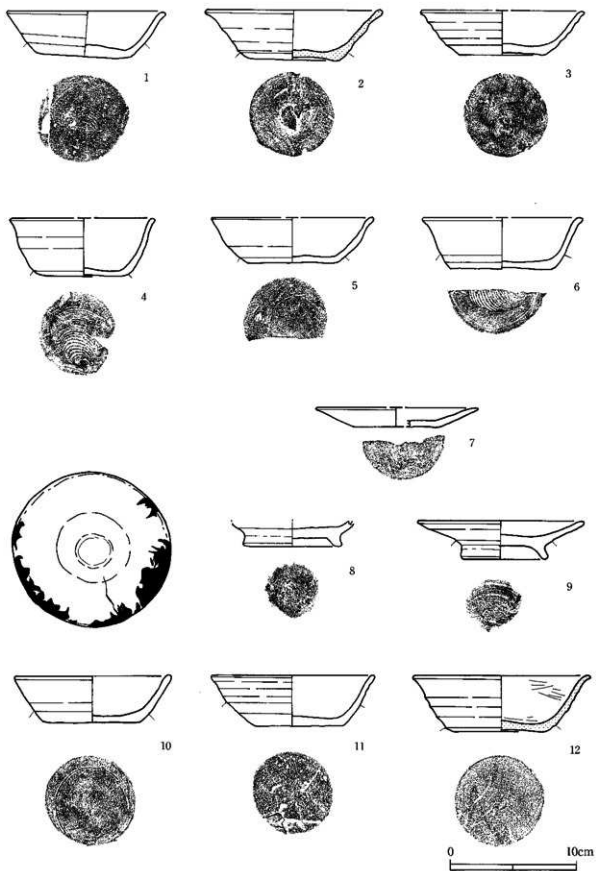
1. 淡褐色土 淡褐色砂質粘土。
2. 淡褐色土 淡褐色砂質粘土上に暗褐色土混入。
3. 淡褐色土 淡褐色砂質粘土上に焼土粒、焼土ブロック混入。
4. 淡褐色土 淡褐色砂質粘土上に焼土粒、黒色土混入。
5. 暗褐色土 黒色土上に淡褐色砂質粘土少量混入。
6. 暗褐色土 黒色土上に焼土ブロック少量混入。
7. 暗褐色土 淡褐色砂質粘土を少量混入。
8. 黒褐色土 黒色土上に焼土ブロック混入。
9. 暗褐色土 淡褐色砂質粘土、焼土粒、暗褐色土混入層。
10. 暗褐色土 淡褐色砂質粘土、焼土粒、黒色土混入層。
11. 暗褐色土 淡褐色砂質粘土、焼土粒混入層。
12. 暗褐色土 10層類似。淡褐色砂質粘土がやや少ない。
13. 褐色土 褐色粘土。

第45図 13CD遺構・カマド実測図

## 13CD住居跡出土遺物(第46~49図 写真図版34~36)

全体で722点出土し、この内35点を図示した。

| 番号        | 器種              | 寸法(cm)           | 遺存状態               | 色 画                    | 施 成                  | 胎 上 | 手 法 上 の 特 徴                           |  |
|-----------|-----------------|------------------|--------------------|------------------------|----------------------|-----|---------------------------------------|--|
| 13CD<br>1 | 土師器<br>環        | 口径<br>底径<br>器高   | 12.3<br>7.2<br>4.0 | ほぼ完形<br>口縁一部欠          | 内外面<br>淡褐色           | 良好  | 少量の雲母、赤<br>色粒(大粒、極<br>小粒)白色粒、<br>砂粒混入 | 底部切離しは再調整により不明。体部下端<br>回転へつ削り調整。   |
| 2         | 須恵器<br>環        | 口径<br>底径<br>器高   | 13.6<br>6.8<br>4.0 | ほぼ完形<br>口縁一部欠          | 内外面<br>暗茶褐色          | 良好  | 少量の雲母、赤<br>色粒、砂粒混入                    | 底部切離しは再調整により不明。体部下端<br>粗い回転へつ削り調整。   |
| 3         | 土師器<br>環        | 復元口径<br>底径<br>器高 | 12.7<br>6.7<br>3.5 | 口辺部 1/5<br>底部 全周       | 内外面<br>淡茶褐色          | 良好  | 雲母、少量の白<br>色粒、砂粒混入                    | 底部切離しは回転糸切り後西縁へつ削り調<br>整。体部下端回転へつ削り調整。   |
| 4         | 土師器<br>環        | 復元口径<br>底径<br>器高 | 11.2<br>6.9<br>4.6 | 口辺部 1/10<br>底部 全周      | 内外面<br>淡赤褐色          | 良好  | 雲母、少量の白<br>色粒、砂粒混入                    | 底部切離しは回転糸切り後西縁へつ削り調<br>整。体部下端回転へつ削り調整。   |
| 5         | 土師器<br>環        | 復元口径<br>底径<br>器高 | 12.6<br>6.9<br>3.6 | 口辺部 1/6<br>底部 2/3      | 内外面<br>淡赤褐色          | 良好  | 少量の雲母、赤<br>色粒、白色粒、<br>砂粒混入            | 底部切離しは回転糸切り後は全面のへつ<br>削り調整。白色粒、白色粒。  |
| 6         | 土師器<br>環        | 復元口径<br>底径<br>器高 | 12.2<br>8.0<br>4.1 | 口縁へ底部<br>約1/2 遺存       | 内外面<br>淡茶褐色          | 良好  | 雲母、少量の白<br>色粒と赤色粒、<br>砂粒混入            | 底部切離しは回転糸切り後西縁へつ削り調<br>整。体部下端回転へつ削り調整。   |
| 7         | 土師器<br>環        | 復元口径<br>底径<br>器高 | 12.7<br>6.6<br>1.6 | 口辺部 1/4<br>底部 約 1/2    | 内外面<br>淡褐色           | 良好  | 雲母、少量の白<br>色粒と赤色粒、<br>砂粒混入            | 底部切離しは再調整のため不明。体部下端<br>へつ削り調整。   |
| 8         | 土師器<br>高台付<br>皿 | 口径<br>遺存高        | 7.6<br>1.9         | 底部へ体部<br>全周            | 内外面<br>淡赤褐色          | 良好  | 雲母、少量の白<br>色粒と赤色粒、<br>砂粒混入            | 底部切離しは再調整のため不明。高台部は<br>張り付けている。底部内面は粗いへつ削り<br>調整。  |
| 9         | 土師器<br>高台付<br>皿 | 口径<br>底径<br>器高   | 13.0<br>7.0<br>3.0 | ほぼ完形<br>口縁部一部欠         | 外面<br>淡褐色<br>内面 暗茶褐色 | 良好  | 雲母と赤色粒が<br>顕著。砂粒少量<br>混入              | 底部切離しは再調整のため不明。高台部は<br>張り付けている。底部内面は粗いへつ削り<br>調整。内面に2、3水戸面の引っ掻き痕跡<br>が10分所以上見られる。(ホズミか?) |
| 10        | 土師器<br>環        | 口径<br>底径<br>器高   | 12.1<br>7.3<br>3.7 | 完形<br>口縁上部へ底部<br>に亀裂あり | 内外面<br>淡褐色           | 良好  | 雲母主に白色粒<br>と赤色粒、砂粒<br>混入              | 底部切離しは回転へつ削り後未調整。体部<br>下端回転へつ削り調整。灯明皿として使用<br>している。                                      |
| 11        | 土師器<br>環        | 口径<br>底径<br>器高   | 12.6<br>6.4<br>4.0 | ほぼ完形<br>口縁一部欠          | 内外面<br>淡褐色           | 良好  | 少量の雲母、赤<br>色粒(大粒、極<br>小粒)白色粒、<br>砂粒混入 | 底部切離しは再調整により不明。体部下端<br>回転へつ削り調整。   |
| 12        | 須恵器<br>環        | 口径<br>底径<br>器高   | 13.9<br>7.0<br>4.4 | ほぼ完形<br>口縁一部欠          | 内外面<br>淡茶褐色          | 良好  | 雲母、少量の白<br>色粒、砂粒混入                    | 底部切離しは回転糸切り後西縁へつ削り調<br>整。体部下端回転へつ削り調整。体部内面<br>に粗いへつ削り調整が見られる。                            |
| 13        | 土師器<br>環        | 口径<br>底径<br>器高   | 12.8<br>7.0<br>3.5 | 完形                     | 内外面<br>淡褐色           | 良好  | 雲母主に白色粒<br>と赤色粒、砂粒<br>混入              | 底部切離しは回転へつ削り後未調整。体部<br>下端回転へつ削り調整。体部内面は粗い<br>へつ削り調整を施す。体部外面中に「7」<br>の墨書が書かれる。            |
| 14        | 土師器<br>環        | 口径<br>底径<br>器高   | 14.5<br>6.1<br>5.1 | ほぼ完形<br>口縁一部欠          | 内外面<br>淡茶褐色          | 良好  | 雲母主に白色粒<br>と赤色粒、砂粒<br>混入              | 底部切離しは回転糸切り後未調整。体部<br>下端回転へつ削り調整。内面は全体に粗い<br>へつ削り調整を施す。体部外面中に「7」<br>の墨書が書かれる。            |
| 15        | 土師器<br>皿?       | 口径               | —                  | 口辺部のみ                  | 内外面<br>淡茶褐色          | 良好  | 雲母、少量の白<br>色粒と赤色粒、<br>砂粒混入            | 口縁下部に焼成後の穿孔あり。口縁直下に<br>「山」の墨書が書かれる。  |
| 16        | 土師器<br>環        | 口径<br>底径<br>器高   | 6.7<br>1.0         | 底部へ体部<br>1/2 遺存        | 内外面<br>淡茶褐色          | 良好  | 雲母、少量の白<br>色粒、砂粒混入                    | 底部切離しは回転糸切り後西縁へつ削り調<br>整。体部下端へつ削り調整。底部外面に「き」<br>の墨書が書かれる。                                |
| 17        | 土師器<br>皿?       | 口径               | —                  | 口辺部のみ                  | 内外面<br>淡茶褐色          | 良好  | 雲母、少量の白<br>色粒、砂粒混入                    | 口縁直下に「井」の墨書が書かれる。  |

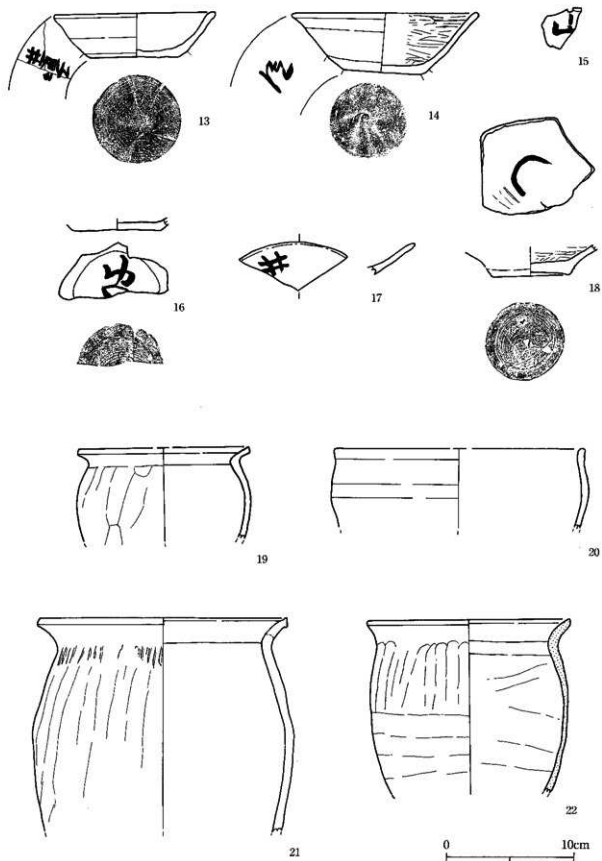


第46図 13CD出土遺物 (1)

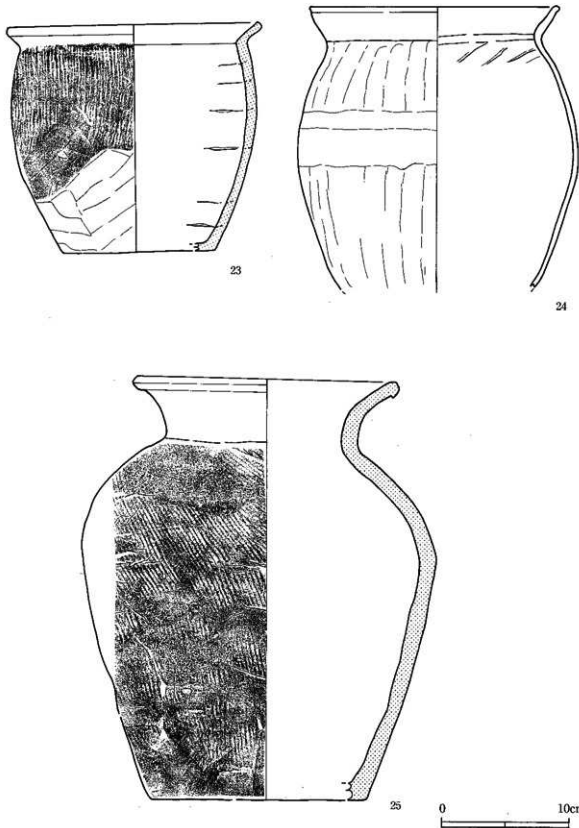
| 番号         | 器種         | 寸法 (cm)                               | 遺存状態                   | 色調                                | 焼成   | 胎土                         | 手法上の特徴  |
|------------|------------|---------------------------------------|------------------------|-----------------------------------|--|----------------------------|---|
| 13CD<br>18 | 土師器<br>高台皿 | 底径 6.1<br>遺存高 2.3                     | 底部～腰部<br>全周            | 内外面<br>淡橙褐色                       | 良好   | 雲母、少量の<br>白色粒、砂粒混入         | 底部切磨しは四転糸切り後四轉ヘラ削り調<br>整。造りだし高台。内面はヘラ削き調整。<br>内面に「J」の胎書が書かれる。   |
| 19         | 土師器<br>甕   | 口径 13.4<br>底径 7.4<br>遺存高 7.4          | 口縁～胴部<br>約1/2 遺存       | 内外面<br>暗茶褐色                       | 良好   | 雲母、白色粒<br>砂粒混入             | 口辺部内外面横などで、胴部外面縦位ヘラ削<br>り調整。内面は全体にまで調整。   |
| 20         | 土師器<br>鉢   | 底心口径 19.4<br>遺存高 6.4                  | 口縁～胴部<br>約1/4 遺存       | 外面 暗赤黒色<br>内面 淡橙褐色                | 良好   | 雲母、少量の白<br>色粒と赤色粒、<br>砂粒混入 | 口辺部～胴部内外面などで調整。   |
| 21         | 土師器<br>甕   | 口径 20.6<br>遺存高 16.8                   | 口縁～胴部<br>全周遺存          | 内外面<br>茶褐色                        | 良好   | 雲母、白色粒<br>砂粒混入             | 口辺部内外面横などで。胴部外面平行叩き目<br>文による整形後縦位ヘラ削り調整。内面は<br>全体にまで調整。口縁端部のつまみだしは<br>顕著ではない。胴部外面に砂質粘土の付着、<br>内面に器面の剥離が顕著である。               |
| 22         | 須恵器<br>甕   | 口径 16.0<br>遺存高 13.7                   | 口縁～胴部<br>全周遺存          | 内外面<br>淡褐色                        | 良好   | 雲母、白色粒、<br>赤色粒、砂粒混<br>入    | 口辺部内外面横などで。胴部外面縦位及び横<br>位ヘラ削り調整。内面はヘラなどで調整。口<br>縁端部のつまみだしは意識して造られる。   |
| 23         | 須恵器<br>甕   | 口径 19.5<br>底径 11.8<br>器高 18.0         | 口縁～底部<br>全周遺存<br>底部は欠損 | 内外面<br>灰白色                        | 良好   | 長石粒、白色粒<br>混入              | 口辺部内外面横などで。口辺部～胴部外面<br>縦位の平行叩き目文による整形後胴部中位<br>～下部に斜位ヘラ削り調整。内面は全体に<br>指いなどで調整。粘土帯の輪痕が顕著であ<br>る。内面において口縁端部～底部に亀裂状<br>の嵌入が著しい。 |
| 24         | 土師器<br>甕   | 口径 19.6<br>遺存高 22.3                   | 口縁～胴部<br>全周遺存          | 内外面<br>茶褐色                        | 良好   | 雲母、白色粒<br>砂粒混入             | 口辺部内外面横などで。胴部外面縦位及び横<br>位ヘラ削り調整。内面はヘラなどで調整を施<br>す。胴部外面に砂質粘土の付着、内面に器<br>面の剥離が顕著である。  |
| 25         | 須恵器<br>甕   | 口径 20.5<br>底径 17.2<br>器高 33.0         | 口縁～底部<br>全周遺存<br>底部は欠損 | 内外面<br>暗青灰色<br>～黒灰色               | 良好   | 長石粒、白色粒<br>混入              | 口辺部内外面横などで。口辺部～胴部外面<br>斜位の平行叩き目文による整形及び調整を<br>施す。内面は全体にまで調整。自然釉の付<br>着が著しい。   |
| 29         | 土製品<br>支脚  | 遺存長 7.8<br>最大幅 6.2<br>厚さ 4.3          | 上部欠損                   | 淡橙褐色                              | —  | 雲母、白色粒<br>砂粒混入             | なで整形によって仕上げている。<br>形跡からいって器入遺物と思われる。  |
| 30         | 土製品<br>支脚  | 遺存長 11.4<br>最大幅 7.8<br>厚さ 7.7         | 下部欠損                   | 淡茶褐色                              | —  | 雲母、白色粒<br>砂粒混入             | なで整形によって仕上げている。   |
| 31         | 鉄製品<br>刀子  | 全長 10.0 最大幅 1.0 重さ 6.7g               | 完形                     | 刀身の長さ                             | は、基部との境が錆化が著しいため確定しないが概ね6.7cmである。<br>刃部は片刃で、基部に近づくにつれて細くなっている。 |                            |   |
| 32         | 鉄製品<br>釘   | 遺存長 5.0 最大幅 0.6 重さ 7.4g               | 角釘の先端に近い部位             | と思われる。断面は0.5×0.4cmの長方形である。錆化が著しい。 |  |                            |   |
| 33         | 鉄製品<br>釘   | 遺存長 5.0 最大幅 0.7 重さ 7.7g               | 角釘の基部に近い部位             | と思われる。断面は0.7×0.6cmの長方形である。錆化が著しい。 |  |                            |   |
| 34         | 鉄製品<br>不明  | 遺存長 9.0 最大幅 0.3 重さ 5.6g               | 確定できないが紡錘車の軸           | と思われる。断面は0.4cmの円形である。錆化が著しい。      |  |                            |   |
| 35         | 鉄製品<br>釘   | 遺存長 (芯部) 4.1 (胴部) 2.5 最大幅 0.7 重さ 7.9g | 角釘の基部に近い部位             | と思われる。断面は0.6×0.4cmの長方形で<br>ある。    |  |                            |   |

単位 (cm)

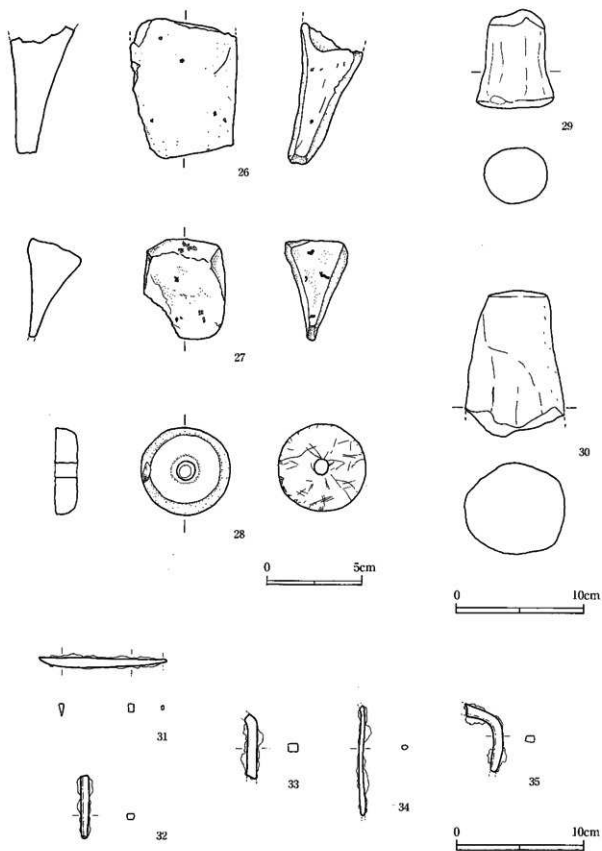
| 番号 | 器種  | 石材  | 長さ  | 幅     | 厚さ  | 重さ (g) | 備 考                     |
|----|-----|-----|-----|-------|-----|--------|-------------------------|
| 26 | 砥石  | 凝灰岩 | 6.8 | 5.5   | 3.4 | 125.3  | 両面及び遺存する側面において使用痕が見られる。 |
| 27 | 砥石  | 凝灰岩 | 5.2 | 4.3   | 2.9 | 54.9   | 両面において使用痕が見られる。         |
| 28 | 紡錘車 | 滑石  | 4.7 | 軸孔0.8 | 1.2 | 47.2   | 両面及び側面において擦痕が著しい。       |



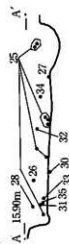
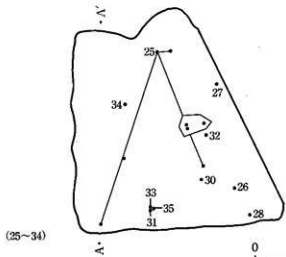
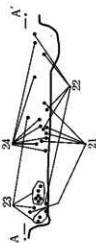
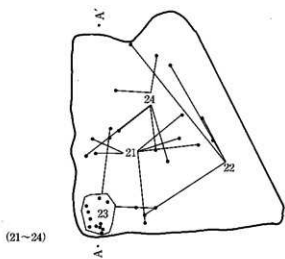
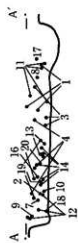
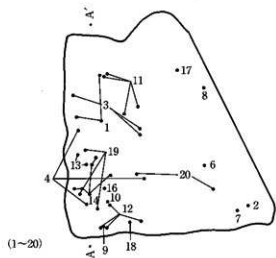
第47图 13CD出土遺物(2)



第48図 13CD出土遺物(3)



第49図 13CD出土遺物(4)



0 2m

第50图 13CD遺物分布図



17D住居跡（第50図 写真図版16）

状況 主軸方向 N-43°-W

規模 北東壁3.38m, 南東壁3.18m, 南西壁3.4m(想定), 北西壁3.2m(想定)の方形プランである。

カマド 調査範囲外のため明確ではないが、西側において淡褐色砂質粘土を検出しているため、北西壁中央に遺存すると想定できる。

周溝 北西壁側で検出されないが、全周するものと思われる。幅24~30cm, 深さ4~7cmである。覆土は黒色土でローム粒を斑点状に含んでいる。

柱穴 P2, 3が該当する。深さはP2-19cm, P3-20cmである。覆土は暗褐色土にローム粒, 黒色土粒を混入する。

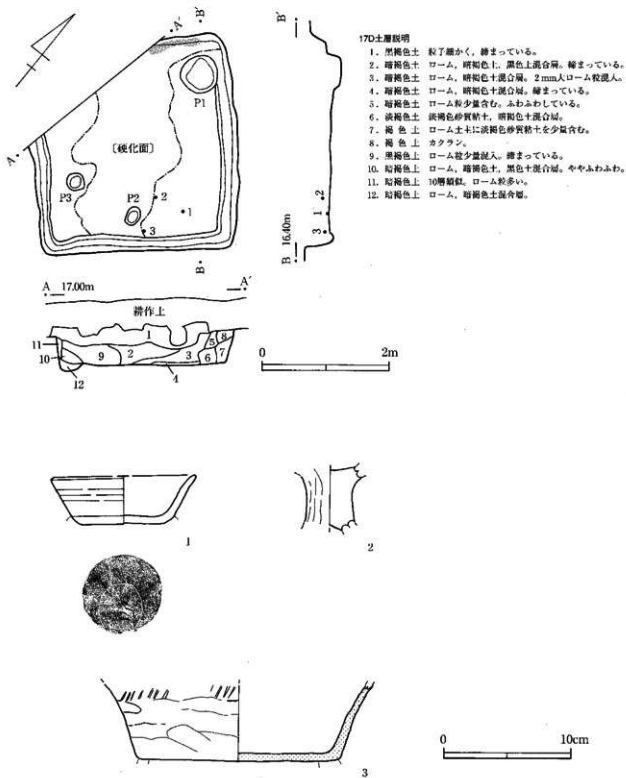
貯蔵穴 P1が該当する。60cm×55cmの円形で、深さ9cmである。覆土は暗褐色土で黒色土粒を斑点状に含んでいる。

床面 ハードロームを掘り込んで床面としている。硬化面はP2から直線状に遺存する。

17D住居跡出土遺物（第50図 写真図版33）

全体で29点出土し、この内3個体を図示した。

| 番号       | 器種        | 寸法 (cm)                    | 遺存状態              | 色調          | 焼成 | 胎土                           | 手法上の特徴   |
|----------|-----------|----------------------------|-------------------|-------------|----|------------------------------|--|
| 17D<br>1 | 土師器<br>環  | 復元口径 112<br>底径 66<br>器高 38 | 口縁1/8 遺存<br>底部 全周 | 内外面<br>淡褐色  | 良好 | 雲母, 白色粒<br>砂粒混入              | 底部切離しは留紙ヘラ切り本調整。体部下<br>端内縁ヘラ削り調整。  |
| 2        | 土師器<br>高杯 | 遺存高 51                     | 脚部 全周             | 内外面<br>暗黒灰色 | 良好 | 多量の白色粒,<br>石英混入              | 脚部外面ヘラ削り調整。杯内面はなで調<br>整。混入遺物。  |
| 3        | 須恵器<br>甕  | 底径 157<br>遺存高 60           | 底部一立ち上が<br>り1/2遺存 | 内外面<br>淡褐色  | 良好 | 少量の雲母と長<br>石粒, 白色粒,<br>赤色粒混入 | 底部切離しは再調整のため不明。胴部外面<br>は平行叩き目後ヘラ削り調整。内面はなで<br>調整。器壁はサンドイッチ状で、表裏面が<br>淡褐色で内面が藍色である。 |



第51図 17D遺構・出土遺物

#### 第4節 掘立柱建物跡・土坑・溝状遺構

第1～3節において触れたが、おおむね以下のように帰属年代を想定することができる。

|             |   |
|-------------|---|
| 縄文時代……………   | [落とし穴状土坑] 26P<br>[炉穴状土坑] 63P  |
| 古墳時代後期…………… | [土坑] 31P, 34P, 35P, 58P, 75P, 81P, 83P<br>[掘立柱建物跡] 03H, 04H, 05II, 06H, 07H |
| 平安時代……………   | [掘立柱建物跡] 01H, 02H<br>[溝状遺構] 01M   |

以下、遺構毎に概要を述べる。

##### 1. 土坑

###### 26P土坑(第51図 写真図版20)

規模・長軸方位 1.38m×0.87m×深さ0.78mの楕円形 N-30°-W

壁・底面の状態 底面は平坦で、上場に近い楕円形である。底面の規模は1.18m×0.54mである。壁は立ち上がり部で緩やかだが、角度をもって上方に向かう。中場等の角度変曲点は見られない。

覆土の状態 1層のみ自然埋没層で、2～4層はローム土を主体とする埋め戻し層である。

出土遺物 出土しなかった。

###### 31P土坑(第51図 写真図版20)

規模・長軸方位 1.12m×0.86m×深さ0.37mの楕円形 N-70°-W

壁・底面の状態 底面は中央が4～6cm緩やかにくぼむが、総じて平坦である。壁は角度をもって立ち上がっている。底面の規模は0.82m×0.71mである。

覆土の状態 1, 2層が黒色土主体で、3, 4, 6, 7層がローム土を主体とする褐色土で、全体的にはそぼそしている。

出土遺物 底面に密着して土師器甕の小片が出土している。

###### 34P土坑(第51図 写真図版20)

規模・長軸方位 1.72m×1.35m×深さ0.1mの小判形 N-42°-E

壁・底面の状態 底面はほぼ平坦である。掘り込みはソフトローム面から10cm程度と浅い。

覆土の状態 黒色土主体の1層である。

出土遺物 出土しなかった。

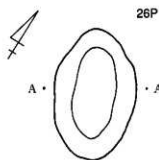
###### 35P土坑(第51図 写真図版21)

規模・長軸方位 1.62m×1.4m×深さ0.27mの小判形 N-38°-E

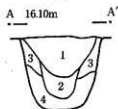
壁・底面の状態 底面はほぼ平坦である。掘り込みはソフトローム面から27cm程度である。

覆土の状態 黒色土～暗褐色土主体の層である。1層には焼土粒が少量含まれる。

出土遺物 出土しなかった。

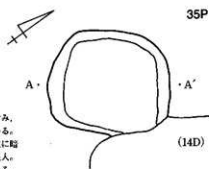
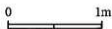


26P

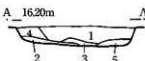


26P土層説明

1. 暗褐色土 黒色土粒含み、締まっている。
2. 褐色土 ローム粒主に暗褐色土粒混入、締まっている。
3. 褐色土 ローム粒主に黒色土粒混入。ややほそぼそ。
4. 褐色土 ローム、ロームブロック混合層。ほそぼそ。

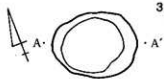
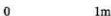


35P

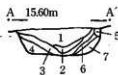


35P土層説明

1. 暗褐色土 黒色土、ローム混合層上粒少量混入。
2. 黒褐色土 ローム粒少量混入。
3. 暗褐色土 ローム粒点状に含む。
4. 褐色土 ローム粒主に暗褐色土混入。
5. 褐色土 ローム粒主に黒色土混入、締まっている。

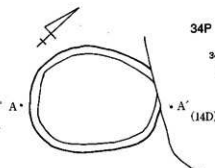


31P



31P土層説明

1. 黒褐色土 ローム粒、2~5mm大ローム粒点状に混入。
2. 暗褐色土 1層薄。褐色土の割合少ない。
3. 褐色土 ローム粒、暗褐色土混合層。1~2cm大ロームブロック混入。ややほそぼそ。
4. 褐色土 ローム粒中に暗褐色土混入。
5. 暗褐色土 ローム粒混入。
6. 褐色土 ロームブロック混合層。ややほそぼそ。
7. 褐色土 4層類似。暗褐色土の割合少ない。

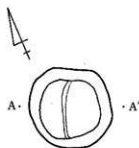


34P

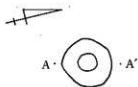


34P土層説明

1. 黒褐色土 ローム粒少量混入。



63P



58P

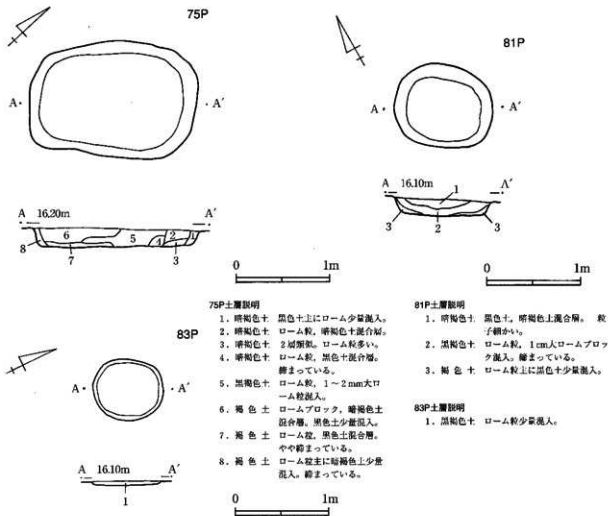


58P土層説明

1. 暗褐色土 黒色土、ローム混合層、粒上粒混入。
2. 黒褐色土 粒上粒混入。
3. 暗褐色土 ローム粒少量混入。
4. 褐色土 ローム粒主に暗褐色土混入。
5. 褐色土 ローム粒主に黒色土混入。



第52図 26P、31P、34P、35P、58P、63P遺構実測図



第53図 75P. 81P. 83P遺構実測図

58P土坑 (第51図 写真図版21)

規模・長軸方位 0.67m×0.6m×深さ0.32mの楕円形 方位不明

壁・底面の状態 すり鉢状の底面で平坦部分は23cm程度の円形である。壁は緩やかに立ち上がる。

覆土の状態 黒色土~暗褐色土の層で、上層で焼土粒を含んでいる。

出土遺物 土師器手すくね土器が出土している。

63P土坑 (第51図 写真図版21)

規模・長軸方位 1.10m×1.04m×深さ0.16m~0.3mの略円形 E-12°-S

壁・底面の状態 底面は2段からなる。比高差は15cm程度で平坦である。壁はA'側で角度をもって立ち上がる。

覆土の状態 上層では焼土粒混じりの暗褐色土で下層は焼土粒を主体とする赤褐色土である。

出土遺物 出土しなかった。

### 75P土坑 (第52図 写真図版22)

規模・長軸方位 2.18m×1.55m×深さ0.25mの隅丸長方形 N-43°-E  
壁・底面の状態 おおむね平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。  
覆土の状態 A側の6~8層では褐色土主体の層で、A'側の1~5層では暗褐色土主体である。  
出土遺物 出土しなかった。

### 81P土坑 (第52図 写真図版22)

規模・長軸方位 1.0m×0.85m×深さ0.18mの略円形 N-63°-W  
壁・底面の状態 底面はほぼ平坦である。掘り込みはソフトローム面から18cm程度である。  
覆土の状態 黒色土~暗褐色土主体の層である。2層ではロームブロックが混入しており締まっている。  
出土遺物 出土しなかった。

### 83P土坑 (第52図 写真図版22)

規模・長軸方位 0.92m×0.82m×深さ0.06mの楕円形 N-25°-E  
壁・底面の状態 底面はほぼ平坦である。掘り込みはソフトローム面から6cm程度と浅い。  
覆土の状態 黒色土の単一層である。  
出土遺物 出土しなかった。

## 2. 掘立柱建物跡

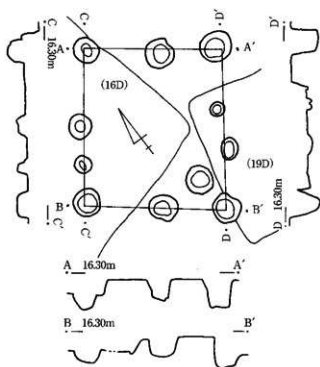
### 01H掘立 (第53図 写真図版18)

位置・重複 B7-3Gに位置する。16D, 19Dを切る。  
規模・主軸方位 3間(4.2m)×2間(3.6m) N-34°-E  
柱間寸法等 桁行1.4m等間, 梁行1.8m等間  
掘形規模等 0.7~0.8mの円形で、深さは四隅で0.7~0.8m, その他は0.5m程度である。  
掘形覆土 暗褐色土主体で、部分的に立ち腐れの柱痕跡とつき固めた層が2~3層見られる。  
出土遺物 出土しなかった。  
その他 四隅の柱掘形が意図的に深く掘られている。

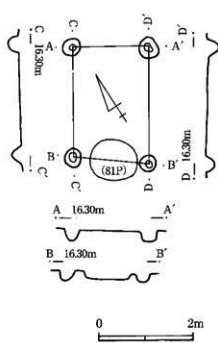
### 02H掘立 (第53図 写真図版18)

位置・重複 C8-1, 2Gに位置する。13BD, 14Dを切る。  
規模・主軸方位 3間(5.6m)×2間(3.6m) N-40°-E  
柱間寸法等 桁行1.87m等間, 梁行1.8m等間  
掘形規模等 0.5~0.6mの円形で、深さは0.5~0.6mである。  
掘形覆土 暗褐色土主体で、2カ所において立ち腐れの柱痕跡を確認した。つき固めた層は1層程度で、01Hに比べ粗い工事といえる。  
出土遺物 出土しなかった。

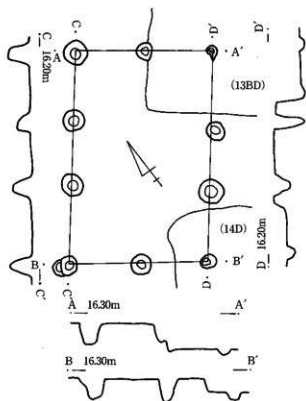
01H



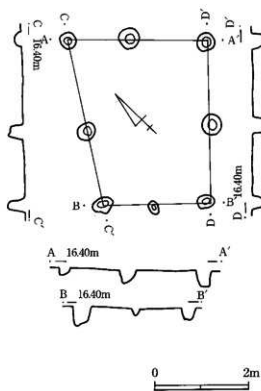
03H



02H



04H



第54图 01H. 02H. 03H. 04H遺構実測図

03H掘立(第53図 写真図版18)

位置・重複 C9-4Gに位置する。81Pと重複関係にある。

規模・主軸方位 1間(2.9~3.12m)×1間(2m) N-30°-E

柱間寸法等 桁行2.9m程度、梁行2.0m

掘形規模等 0.45~0.5mの円形で、深さは0.3mである。

掘形覆土 黒色土主体で、部分的につき固めた層が見られるが顕著ではない。

出土遺物 出土しなかった。

その他 東側を一部拡張したが、掘形は検出されなかった。このことから、建物規模は1間×1間で確定した。

04H掘立(第53図 写真図版18)

位置・重複 B9-3Gに位置する。

規模・主軸方位 2間(4.3~4.48m)×1間(2.82~3.7m) N-46°-E

柱間寸法等 桁行—m、梁行—m

掘形規模等 0.4~0.5mの円形で、深さは0.3~0.5mである。

掘形覆土 暗褐色土主体だが、つき固めた層は褐色土主体で顕著に見られる。

出土遺物 出土しなかった。

05H掘立(第54図 写真図版19)

位置・重複 D1-3Gに位置する。

規模・主軸方位 3間(6.4m)?×2間(4.24m) N-46°-E

柱間寸法等 桁行、梁行とも2.12m程度

掘形規模等 0.35~0.4mの円形で、深さは0.2~0.6mである。ただ、北側に低く傾斜した地形のため三隅の掘形はやや深く掘削しているようである。

掘形覆土 暗褐色土~褐色土だが、つき固めた層は褐色土主体で顕著に見られる。また、土層観察から柱は抜かれている。

出土遺物 出土しなかった。

06H掘立(第54図 写真図版19)

位置・重複 C2-4Gに位置する。07Hと重複関係にある。

規模・主軸方位 2間(4.6~4.75m)×2間(3.7~4.05m) N-54°-E

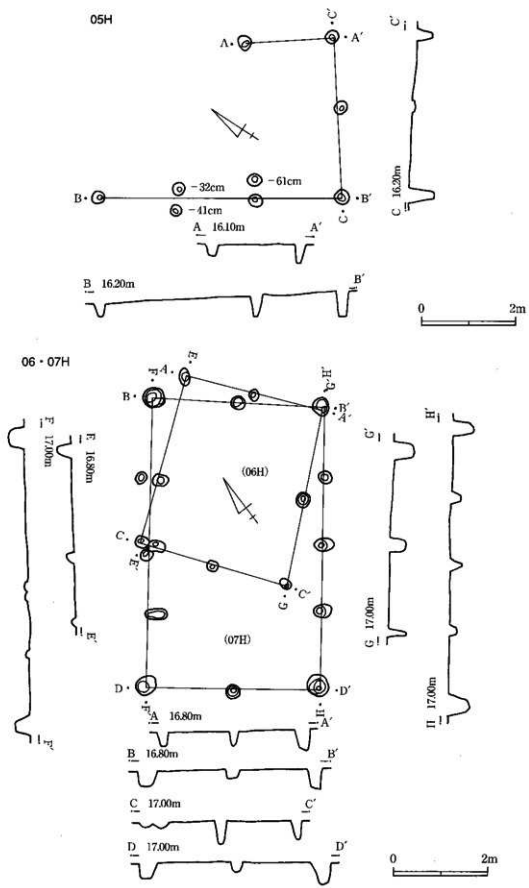
柱間寸法等 桁行2.3~2.38m等間、梁行1.85~2m等間

掘形規模等 0.3~0.5mの円形で、深さは0.2~0.6m程度である。

掘形覆土 黒色土主体で、部分的につき固めた層が2層程度見られる。また、土層観察から柱は抜かれている。

出土遺物 出土しなかった。





第55图 05H. 06H. 07H遺構実測図

07H掘立(第54図 写真図版19)

位置・重複 C2-4Gに位置する。06Hと重複関係にある。

規模・主軸方位 4間(7.5~7.72m)×2間(4.56m) N-38°-E

柱間寸法等 桁行1.87~1.9m等間, 梁行2.28m等間

掘形規模等 0.4~0.5mの円形で, 深さは0.2~0.6m程度である。

掘形覆土 黒色土主体で, 部分的につき固めた層が1~2層見られる。また, 土層観察から柱は抜かれている。

出土遺物 西側桁行の掘形上層から土師器2点が出土している。

その他 四隅の柱掘形が意図的に深く掘られている。

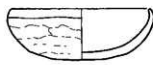
土坑・掘立柱建物跡出土遺物(第55図 写真図版32)

出土遺物は少ないが, 31P, 58P, 07Hから各々出土している。

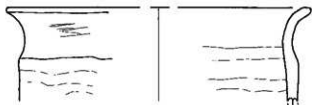
| 番号 | 器種          | 寸法(cm)                              | 遺存状態            | 色調                         | 焼成 | 胎土              | 手法上の特徴  |
|----|-------------|-------------------------------------|-----------------|----------------------------|----|-----------------|---|
| 1  | 土師器<br>坏    | 直径口徑<br>14.0<br>器高<br>4.1           | 口縁~肩部<br>1/5 遺存 | 内外面<br>淡茶褐色                | 良好 | 白色粒, 砂粒混入       | 口辺部内外面横などで, 体部外面へラ削り調整。内面は調整が著しいが, へラ磨き調整を施す。07H出土。 |
| 2  | 土師器<br>坏    | 口徑<br>11.0<br>器高<br>4.0             | 口縁~肩部<br>2/3 遺存 | 外面 暗茶褐色<br>~淡褐色<br>内面 淡黒褐色 | 良好 | 雲母, 白色粒<br>砂粒混入 | 口辺部内外面横などで, 体部外面へラ削り調整。内面はへラ磨き調整を施す。07H出土。          |
| 3  | 土師器<br>壺    | 復元口徑<br>23.0<br>遺存高<br>7.2          | 口縁~肩部<br>1/4 遺存 | 内外面<br>淡褐色                 | 良好 | 雲母, 白色粒<br>砂粒混入 | 口辺部内外面横などで, 胴部外面へラ削り調整。胴部内面はへラ磨き調整を施す。31P出土。        |
| 4  | 土師器<br>手づくね | 口徑<br>5.4<br>底徑<br>4.9<br>器高<br>2.0 | 口縁~底部<br>2/3 遺存 | 内外面<br>淡茶褐色                | 良好 | 雲母, 白色粒<br>砂粒混入 | 内外面などで整形。58P出土。                                     |



1



2

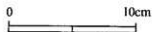


3



4

第56図 土坑・掘立柱建物跡出土遺物



3. 溝状遺構

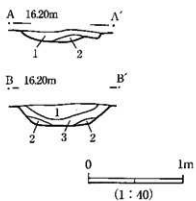
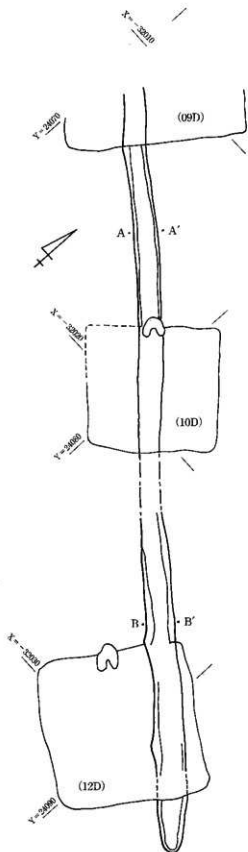
01M溝状遺構(第56図 写真図版23)

全長・重複 30m以上で調査区外に伸びている。09D, 10D, 12Dを切っている。

規模・方位 上面幅0.9~1.05m 下面幅0.5~0.6m 深さ0.07~0.2m N-12°-W

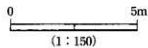
壁・底面の状態 断面は概ね逆台形状である。底面はほぼ平坦でピット等は見られない。09Dから12Dに進むに従って深くなる状況である。

覆土の状態 黒色土~暗褐色土で締まっており, 住居跡の重複部分でも覆土が近似している。



01M土層説明

1. 黒褐色土: □-A 少量混入。
2. 暗褐色土: □-A 散、黒色土花含層。
3. 暗褐色土: 2 層類似、黒色土が多い。



第57図 O1M遺構実測図

## 第3章 まとめ

### 第1節 縄文時代

遺構では、土坑2基を検出した。遺構内出土遺物はないが、形状、覆土の状態から当時代に属する可能性が高いと考えられる。26Pは落とし穴状遺構と想定できるが、単独の検出である。調査区中央やや北側に位置し、確認面での標高は16mである。北側に低くなる地形を考慮すると、水場に至る導線上に仕掛けられた捕獲用とも考えられる。63Pは炬穴に想定できる遺構で、単独の検出である。調査区南側に位置し、確認面での標高は16.3mである。遺構下段の覆土下層では、焼土の堆積が顕著で壁立ち上がり部が焼けている状況であった。一時的な露管跡として考えるのが妥当であろう。

遺物では土器総数113点、土偶1点、石鏝3点、磨石1点が出土した。土器では、報文掲載の37点について内訳を見ると早期中葉の田戸下層式5点、中期前半の猪沢～新道式、勝坂系2点、阿玉台Ib～IV式30点となっている。出土位置は田戸下層式が16D覆土中を中心に、阿玉台等は7D～10D、12D覆土を中心に出土している。土偶は、7D覆土中の出土であり、土器の遺物分布状況及び土偶の形状から見ると阿玉台式期の遺物と想定できよう。石鏝は12D、13CD、19D覆土からの出土である。3点とも形状が異なっており時期差も考慮しなければいけないが、当遺跡が狩場として機能したことは十分理解できる。

縄文時代の内込遺跡は、早期の一時に人が来訪し去り、中期前半の時期には継続的な狩場としての利用ないしは細々とした居住空間の場として機能していたと考えられる。

### 参考文献

- 西村正衛 1984「石器時代における利根川下流域の研究」早稲田大学出版部  
原田昌幸 1995「日本の美術NO.345 土偶」至文堂

### 第2節 古墳時代

遺構は、竪穴住居跡16軒、掘立柱建物跡5棟、土坑7基である。以下、遺構毎に詳細を述べる。

#### 1. 竪穴住居跡

16軒の内訳は、出土遺物の観察から以下ようになる。

中期(5世紀中葉)……………03D

後期(6世紀末葉～7世紀前半)……………01D, 05BD, 07D, 10D, 13BD?, 14D?, 15D,  
19D, 02D?, 09D?

(7世紀前半～中葉)……………06D, 08D, 12D, 16D

(7世紀中葉)……………18D?

後期については遺物から見た時間差であり、集落として同時存在の群をなすものではない。その中で16D、19Dは部分的に重複しており、明らかな時期差がある。また、?マークの遺構は混入遺物ないし少ない遺物量からの時期決定であり、確実とは言えない。

主軸方向では、N-40°～60°-Wの遺構がほぼ主体を占め16D、19Dのみがやや東に振れている。

平面形態では、07Dが横長長方形で、他は方形である。

平面規模では、7m以上—01D 7m程度—09D, 13BD, 18D 6.5m—08D, 16D 5.7m—12D 5m—05BD, 10D 4m程度—06D, 07D, 19D 4m以下—02D, 14D, 15Dとばらつきが見られる。

柱配置については6.5m以上の平面規模の住居では主柱6本、副柱1本で、4m以上では主柱4本、副柱1本、4m以下では不規則ないし無柱となっている。ただ19Dでは、副柱の位置がカマド対面ではなく、側面となっている。

カマドの位置は、住居設計段階で決定されている例が多い。周溝の掘削範囲とカマドの関係を見ると周溝が全周しているのは06Dのみであり、19Dが不明以外は全て脇脇が袖下で立ち上がっている。

住居の廃絶時ないし使用状態の中で注目すべき点は、焼土遺存と支脚の出土状態である。焼土の遺存は01D, 05BD, 08D, 12D, 15D, 19Dに見られる。いずれも床面に密着し、2～20cm程度の厚さである。遺存状態の良し悪しはあるが、部分的な出土であり火災とは考えられない。住居内ピットにも焼土の流入が見られることから廃絶時の儀礼とも考えられる。支脚についても同様の事が言える。支脚出土の住居跡は07D, 12D, 13BD, 16D, 19Dである。出土状態としては、カマド袖上ないし脇に立て掛けられた07D, 13BD, 16D, 19Dと袖上から落ちた状態で出土した12Dでいずれも遺棄状態である。12Dでは壺が2点カマドに掛けられた状態？であり、にもかかわらず支脚を抜き取るとはどういう事であろうか。

## 2. 掘立柱建物跡

03H～07Hが後期に属すると想定される。遺物が出土しているのは、07Hのみである。07Hと重複している06Hも同時期と考えられる。その他の掘立柱建物跡は、建物規模、柱掘形規模、柱間寸法から同時期に想定した。

## 3. 土坑

31P, 34P, 35P, 58P, 75P, 81P, 83Pが後期に属すると想定される。遺物が出土しているのは、31P, 58Pである。その他の土坑は、遺跡内の立地、遺構形状等から同時期に想定した。また、遺構形状は以下のように分類できる。

- I 略円形ですり鉢状の底面をもつもの……58P
- II 略円形で平らかな底面をもつもの……31P, 81P, 83P
- III 隅丸方形で平らかな底面をもつもの……34P, 35P
- IV 隅丸長方形で平らかな底面をもつもの……75P

立地について観ると、31Pを除いて調査区南側に集中している。また、II～IVは80～110cm程度ないしそれ以上の規模で共通性が見られる。性格については想像の域を出ないが、試しに膝抱き横臥の姿勢をとってみると、長軸110cm×短軸80cm×深さ30cmで収まるサイズであった。遺構の性格を決定できるような遺物も出土していないが、土坑としての可能性が想定できる。

## 4. 竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑の関連性について

重複関係については、03IIと81P, 14Dと34P.35Pにおいて見られる。掘立柱建物跡(03H)と土坑(81P)の切り合いから相互の遺構群の時期が異なると想定できる。住居跡(14D)と土坑(34P.35P)の切り合いについても同様である。住居跡についてはやや古い一群(01, 05B, 07, 09, 10, 13B, 14, 15, 19)と新しい一群(06, 08, 12, 16, 18)に大別できる。07H出土の坏-1と19D-2は同様の形態であり、掘立柱建物跡と住居跡の古い一群は同時期に想定できる。そして、住居跡の古い一群に属する14Dと切り合っている34P.35Pは、新しい一群の住居跡との重複はないので、積極的な根

拠とはなり得ないが本時期に想定できる。

整理してみると、掘立柱建物群と竪穴住居の古い一群のセット、土坑群と竪穴住居の新しい一群のセットに大別できる。

#### 遺物について

##### 1. 各住居跡の時期の位置付け

古い一群と新しい一群の大別には、比較的新しい要素とされる有段口縁坏・須恵器蓋坏の有無と混入遺物としての両者の出土状態を参考とした。

##### 01D

床面ないし床面に近い状態の遺物は、1, 2, 6, 9, 10, 13である。他は混入遺物である。古い要素では、2の和泉式系坏, 13の外面赤彩された高坏坏部がある。新しい要素では、1の須恵器蓋坏身がある。1, 2が共存関係として2をやや下げてみると7世紀初～前半に位置づけられる。

##### 02D

床面ないし床面に近い状態の遺物は、1, 2, 3である。球形甕, 縦方向のヘラ削り調整をした甕が出土している。時期については6世紀代に位置づけられるか。

##### 05BD

床面ないし床面に近い状態の遺物は、3, 5, 6, 8である。3は千葉市榎作遺跡に類例のある坏で体部下位に稜をもつタイプである。同遺跡の土師器分析を行った小林清隆氏によれば、6世紀後半以降に位置づけられるとのことである<sup>1)</sup>。その他の混入遺物を参考として、7世紀初～前半に位置づけられる。

##### 06D

床面ないし床面に近い状態の遺物は、1, 4, 6, 8, 9, 10, 11, 13, 14, 16, 17, 18, 19である。構成としては須恵器蓋坏身, 有段口縁坏, 須恵器蓋模倣坏, 丸底鉢, 高坏で, 甕では球形甕・在地型甕・長胴甕がある。13, 17はカマド脇に並んで出土している。遺物から7世紀初～前半に位置づけられる。

##### 07D

床面ないし床面に近い状態の遺物は、3, 6, 7, 8である。6はカマド脇で出土している。その他の混入遺物を参考として、6世紀末～7世紀前半に位置づけられる。

##### 08D

床面直上の遺物は、1のみである。長胴甕胴部で7世紀代に位置づけられる。

##### 09D

床面直上の遺物は、1のみである。6～7世紀代に位置づけられる。

##### 10D

床面ないし床面に近い状態の遺物は、1, 2, 3, 7である。1, 2はカマド脇で2枚重なって出土している。3の有段口縁坏から7世紀初～前半に位置づけられる。

##### 12D

床面ないし床面に近い状態の遺物は2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 13, 14, 15である。構成としては須恵器蓋坏のセット, 須恵器坏模倣坏, 平底鉢, 長胴化した甕, 中型の甕, 甕では球形甕・常総型甕・長胴甕がある。常総型甕は本遺跡ではこの1点のみである。また小破片のため図示できなかったが, 比企型坏が覆土中から出土している。須恵器の年代観から7世紀前半～中ばに位置づけられる。

### 13BD

カマド袖内及び袖上から出土した遺物は2, 12である。覆土中出土の須恵器蓋坏身1は19D覆土中の同破片と接合している。覆土中遺物を参考として6世紀末～7世紀前半に位置づけられる。

### 14D

この遺構の覆土は、ほとんどが褐色土で一気に埋め戻していた状況であった。確認面にわずかに自然堆積層があり、遺物は全てこの層から出土している。須恵器蓋と有段口縁坏の年代観から6世紀末～7世紀前半に位置づけられる。

### 15D

床面ないし床面に近い状態の遺物は1, 2, 3, 4, 5, 6, 8, 12, 13である。3, 5, 6の土器類及び土製丸玉、勾玉等は祭祀遺物とみて良いだろう。土師器坏はやや大振りて深さもある。須恵器は小片で時期決定はむずかしいが、諸要素から見て6世紀末～7世紀前半に位置づけられる。

### 16D

床面ないし床面に近い状態の遺物は3, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 17である。3は須恵器蓋模倣坏であるが、胎土、内面の放射状ミガキに特徴がある。搬入土器と思われる。その他の土師器坏は須恵器蓋模倣坏がほとんどで、10のみが半球坏となっている。混入遺物では、須恵器蓋坏の1, 2が住居跡の埋まる段階に廃棄されている。以上の諸要素から見て7世紀初～前半に位置づけられる。19Dとの新旧関係は、須恵器蓋坏の混入状態から想定してみると19Dの方が古い。

### 18D

全て混入遺物であるが、1の坏は7世紀でも新しい段階と思われるので、7世紀中ば頃に位置づけたいと考える。

### 19D

床面ないし床面に近い状態の遺物は1, 2, 3, 6, 7, 8である。坏は全て須恵器蓋模倣坏である。13BD覆土中内出土の須恵器蓋坏身1は本跡覆土中の同破片と接合している。このことから、7世紀初～前半に位置づけが想定できる。

### 注

- 1) 小林清隆 1994 「村田川流域の6～7世紀の上師器の再検討」『研究紀要』14(財)千葉県文化財センター  
坏Eに分類される。P235, 247参照。

## 2. 搬入土器及び他地域系土師器について

本遺跡では、在地産の上師器を主体としているが、少量の搬入土器ないしそれらを模倣した土器が見られる。その多くは武蔵地方からの搬入、模倣の土器である。以下遺物毎に述べる。

### a. 有段口縁坏

06D(4.6), 10D(3.5), 14D(2)の5点が出土している。口径、器高の違いや黒色処理の有無等個体差が見られる。また有段部分については、糸線として意識した個体06D(4.6), 14D(2)と凸帯状のでっぱりを意識した個体の10D(3.5)がある。数少ない個体でもこのようなバラエティーがあり、模倣の度合いが高い。

### b. 比企型坏

本遺跡では、小破片のため図示していないが、12D覆土一括の1点のみ出土している。口辺部がS

字状で、内面全体と口辺部外面が赤彩され、口唇部内面に一条の沈線がめぐっている。搬入品である。

c. 小針型系統の坏

01D(3)が該当する。本来の小針型坏とは時期、細部の形態も明らかに異なるが、口辺部と体部の境で明瞭な稜をもっている点、精選された胎土の違いから搬入品と考えられる。

d. 内屈口縁坏?

18D(1)が該当する。胎土の良さ、形態の特長から判断したが断定はできない。

e. 放射状磨き施文坏

16D(3)が該当する。基本的には須恵器器模倣坏であるが、焼きむらがない点、胎土の良さ、内面に丁寧な放射状磨きを施す点等製作に丁寧さが見られる。搬入品か?。

f. 甕類

球形甕——06D(16), 12D(9), 13BD(7)が出土している。特長な点は、口辺部外面中程に一条の沈線がめぐる個体06D(16), 12D(9)が2例ある。

長胴甕——06D(18), 08D(1), 12D(10)が出土している。

常総型甕——12D(15)が1点のみ出土している。胴部下端から中位に細いヘラ割り調整を施す。

この内明らかな搬入品は12D(9, 10)である。

参考文献

- 酒井清治 1982「日千葉上ノ台遺跡出土の須恵器」P1650～1685 千葉・上ノ台遺跡3千葉県教育委員会  
田中 明 1992「武蔵地域の鬼高式土器」考古学ジャーナルNO.342 ニューサイエンス社  
金丸 誠 1992「下総地域の鬼高式土器」考古学ジャーナルNO.342 ニューサイエンス社  
松本 太郎 1992「鬼高式土器の地域性と編年」考古学ジャーナルNO.342 ニューサイエンス社  
小林清隆 1994「村田川流域の6～7世紀の土器器の再検討」[研究紀要]14 (財)千葉県文化財センター  
高橋 誠 1999「第2節 遺物」[南羽鳥遺跡群Ⅲ] (財)印旛郡市文化財センター

第3節 平安時代

遺構は、堅穴住居跡5軒、掘立柱建物跡2棟、溝状遺構1条である。掘立柱建物跡及び溝状遺構については出土遺物はない。古墳時代後期の堅穴住居跡を壊して構築している点、当時代の堅穴住居跡との位置関係から想定した。

堅穴住居跡5軒の内訳は、出土遺物の観察から以下ようになる。

9世紀前半～中葉……04D, 13AD, 13CD, 17D

9世紀中葉～後半……05AD

立地は、北側に05AD, 04Dの一群、調査区中央に01M, 南側に13AD, 13CD, 17D, 01H, 02Hの一群で全体では三群に分かれる。05ADと04Dは時期が違うので単独ないし別の住居群に包括されると思われる。南側の一群は、遺構間の隣接度や主軸方向から近似した時期の遺構群と考えられる。また、01M溝もこの遺構群の土地区画用施設と考えたい。

参考文献

- 藤岡孝司 1990「八千代市萱田地区遺跡群の歴史時代土器」研究連絡誌第30号 (財)千葉県文化財センター  
1983「シンポジウム資料 房総における奈良・平安時代の土器」史館同人 市立市川考古博物館



# 写 真 图 版



遺跡周辺の地形

図版 2

—遺跡全景—



北側全景



北側全景（部分）



南側全景



南側全景（部分）



01D遺物出土状況



01D全景



02D全景

図版 4

-03D・04D遺構-



03D全景



04D全景

05ABD遺物出土状況



05ABD全景



05ADカマド全景

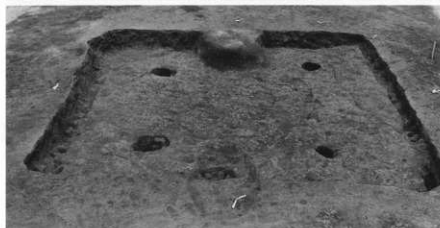


図版 6

- 06D遺構 -



06D遺物出土状況



06D全景



06Dカマド全景

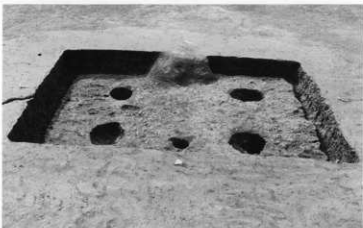


NO.13・17出土状況

07D遺物出土状況



07D全景



07Dカマド全景  
両袖脇に支脚が立てかけられる。



カマド脇NO. 6 出土状況







08D遺物出土状況



08D全景



09D全景

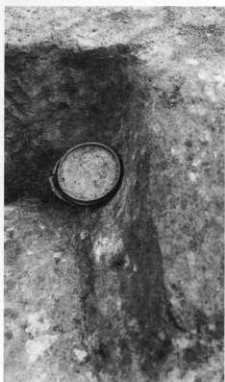
10D遺物出土状況



10D全景



カマド全景



カマド脇NO.1・2出土状況

図版10

- 12D遺構 (1) -



12D遺物出土状況



12D焼土・炭検出状況



12D全景



12Dカマド検出状況



12Dカマド全景



カマド脇NO. 3・9 出土状況



NO. 8 出土状況  
(下にNO. 4が見える)



NO. 8下にNO. 2・4がささえる  
ような状態で出土



13AD全景



13ADカマド



13BD全景

図版14

- 13BD・13CD遺構 -



13BDカマド



13CD全景



13CDカマド



14D全景



15D焼土検出状況



15D全景



15Dカマド



図版16

- 16D・17D・18D遺構 -



16D全景



16DA・Bカマド



17D全景



18D全景

19D焼土検出状況



19D全景



19Dカマド  
袖脇に支脚が立てかけ  
られている



図版18

- 01H~04H遺構 -



01H全景



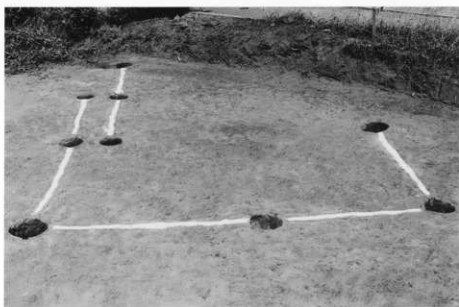
02H全景



03H全景



04H全景



05H全景



06 · 07H全景



07H遺物出土状況

図版20

-26P・31P・34P遺構-



26P全景

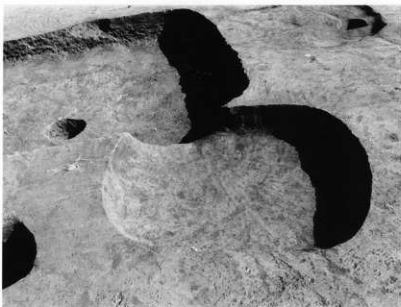


31P全景

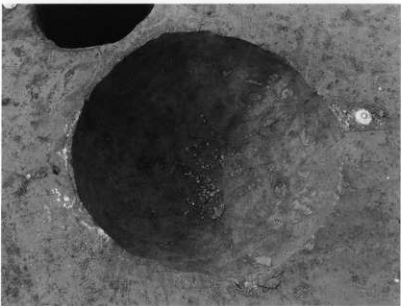


34P全景

35P全景



58P全景

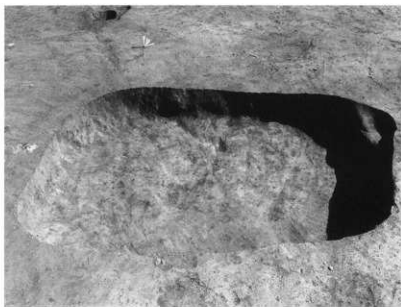


63P全景

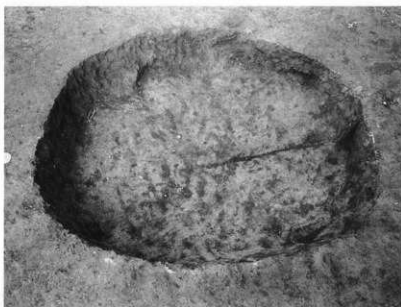


図版22

- 75P・81P・83P遺構 -



75P全景



81P全景



83P全景



01M西側全景（10Dから09D方向を見る。）

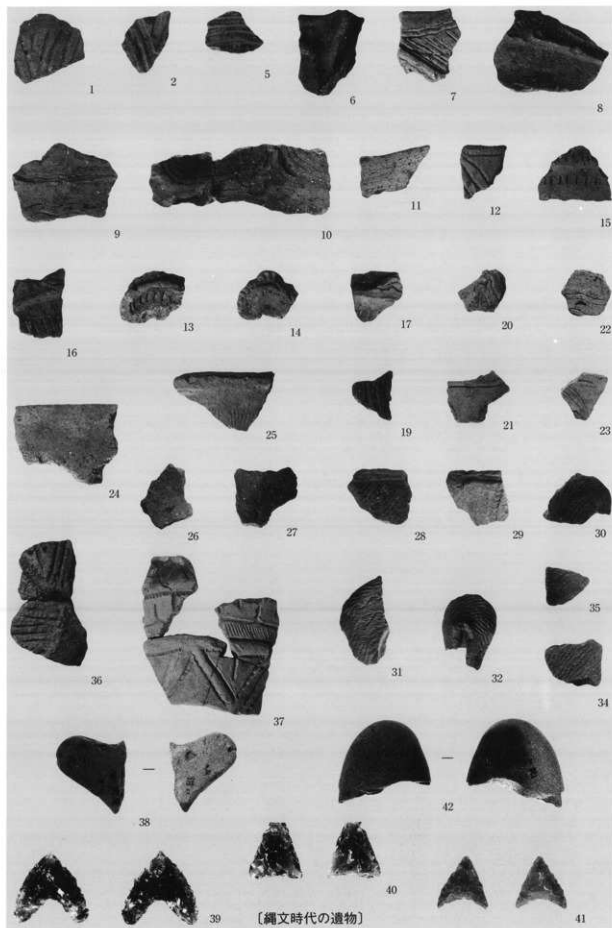


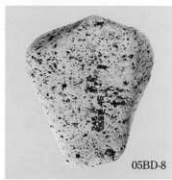
01M中央全景（12Dから10D方向を見る。）



図版24

—縄文時代の遺物—





図版26

-06D出土遺物-





07D-1



07D-4



07D-3



07D-6



07D-7



07D-8



09D-2



10D-2



10D-1

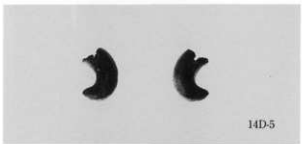


10D-6

図版28

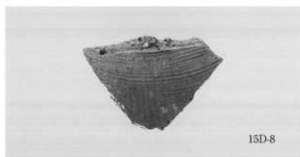
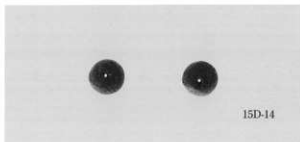
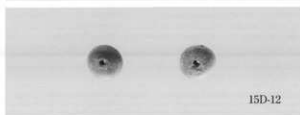
- 12D (1) 出土遺物 -

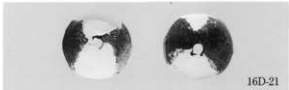
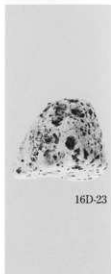
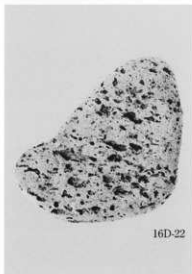




図版30

-15D(2)出土遺物-



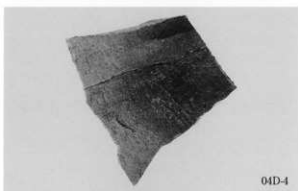




図版32

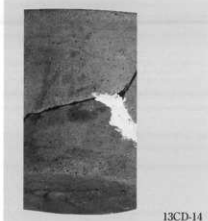
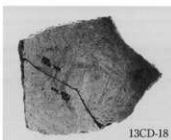
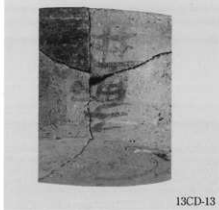
- 18D・19D・掘立柱建物跡・土坑出土遺物 -

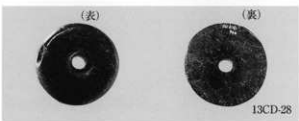
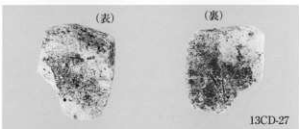
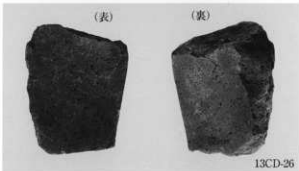


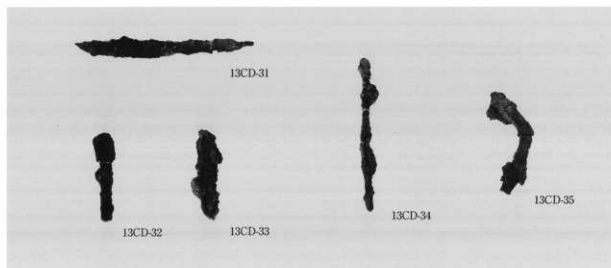


図版34

-13CD (1) 出土遺物-







## 報告書抄録

|               |  |              |                          |                   |                            |                           |                     |      |
|---------------|--|--------------|--------------------------|-------------------|----------------------------|---------------------------|---------------------|------|
| ふりがな          | ちばげんやちよし うちごめいせきはつくつちょうさほうこくしょ<br>—たくちぞうせいにせんこうしたはつくつちょうさ— |              |                          |                   |                            |                           |                     |      |
| 書名            | 千葉県八千代市 内込遺跡発掘調査報告書<br>—宅地造成に伴う埋蔵文化財調査—                    |              |                          |                   |                            |                           |                     |      |
| 編著者名          | 森 竜哉・玉井 庸弘   |              |                          |                   |                            |                           |                     |      |
| 編集機関          | 八千代市遺跡調査会  |              |                          |                   |                            |                           |                     |      |
| 所在地           | 〒276-0045 八千代市大和田138-2 TEL.047 (483) 1151                  |              |                          |                   |                            |                           |                     |      |
| 発行年月日         | 西暦 2001年3月30日  |              |                          |                   |                            |                           |                     |      |
| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地  | コ ー ド        |                          | 北緯                | 東経                         | 調査期間                      | 調査面積                | 調査原因 |
|               |  | 市町村          | 遺跡番号                     |                   |                            |                           |                     |      |
| 13CD<br>内込遺跡  | 八千代市<br>八千代台北17-14   | 12221        | 246                      | 35度<br>42分<br>40秒 | 140度<br>05分<br>25秒         | 19970630<br>～<br>19971017 | 2,338m <sup>2</sup> | 宅地造成 |
| 所収遺跡名         | 種別   | 主な時代         | 主な遺構                     |                   | 主な遺物                       |                           | 特記事項                |      |
| 内込遺跡          | 集落跡  | 古墳時代<br>平安時代 | 住居跡21軒, 土坑9基<br>掘立柱建物跡7棟 |                   | 古墳時代後期土師器須恵器<br>平安時代土師器須恵器 |                           | なし                  |      |

千葉県八千代市  
内込遺跡発掘調査報告書  
—宅地造成に伴う埋蔵文化財調査—  
2001

印刷日 2001年3月22日  
発行日 2001年3月30日  
発行 八千代市遺跡調査会  
〒276-0045 八千代市大和田138-2  
TEL 047 (483) 1151  
印刷 株式会社 宣美